資料1-1

こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する調査研究

モデル事業結果の整理・分析

2023年2月
株式会社NTTデータ経営研究所

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

モデル事業の分析項目

モデル事業の結果をもとに、「意見聴取方法の評価・課題」、「こども・若者の意見」について整理・考察を行う。

1. モデル事業の実施を通じて得られた「意見聴取方法の評価・課題」

1-1　評価　・・・意見の言いやすさ等について主観・客観の両面から今回の実施結果を検証する。また、対面・オンライン・チャットの手法ごとの違いについて考察する。

1-2　課題抽出　・・・今回のモデル事業の経験を基に気づいた点、今後に向けた検討課題を整理。プログラムの内容・構成、ファシリテーション上の工夫、事前の情報共有の在り方、など様々な視点から考察を行う。

2. モデル事業の実施を通じて得られた「こども・若者の意見」

2-1　対面、オンライン、チャット
2-2　Webアンケート

・・・今後のこども・若者の政策反映の仕組みを検討するにあたって、今回のモデル事業の中で出た実際のこども・若者の意見を整理する。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

モデル事業の実施を通じて得られた「意見聴取方法の評価・課題」

1-1　評価

1-2　課題抽出

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

評価項目

SNS①、②

オンライン①、②

対面①、②

手法間の比較分析を行う

＜主観＞

① こども・若者にとって意見は言いやすかったか、どのような点でそう感じたか（ツール・環境、大人、ファシリテーター、テーマ、時間、人数、など）

② 実際に意見を言えたと感じたか、そう感じた理由は何か

③ 意見を言いたい、という気持ちに前後で変化はあったか、どのような変化があったか

＜客観＞

① 議論の活発さ、意見の偏り

② ファシリテーターの存在が、どのような効果・影響をもたらしたか

③ 年代によって、意見の出かたに違いがあったか

④ 意見が出やすかった時間帯はいつか（チャットのみ）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

評価結果サマリー＜主観＞

評価項目	結果・考察
①こども・若者にとって意見は言いやすかったか、どのような点でそう感じたか	➢ 伝えやすかった点として、意見が受け入れられる場の雰囲気、聴く側の姿勢、進行役の存在などがあげられた。 ➢ 頷いて見て聴くといった顔が見えることの意義を感じる人もいれば、匿名、対面ではないことの意見の言いやすさを感じる人もいた。 ➢ チャットに関しては、リプライ機能などが工夫して使われていることも良い点としてあげられた。
②実際に意見を言えたと感じたか、そう感じた理由は何か	➢ 伝えにくかった点は、参加したプログラムのメンバーや進み方によって様々であった。参加者が伝えにくいと感じる点も多様。 ➢ オンラインで顔が見えないこと、チャットが文字列のみであることなど、手法に対する意見もみられた。
③意見を言いたい、という気持ちに前後で変化はあったか、どのような変化があったか	➢ もっと意見を言いたい、言う必要がある、のようにモチベーションの変化が表れていた。 ➢ 意見を言う必要性や、行政や議員への構えた気持ち、などに気づいたという意見もみられた。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

評価結果サマリー＜客観＞

評価項目	結果・考察
①議論の活発さ、意見の偏り	➢ いずれのプログラムでも活発な意見交換がみられた。人数が多いグループでは一部の参加者の発言回数が少なくなってしまうケース、チャットでは参加者のタイプや参加できる時間帯の違いによって発言量の差がみられた。
②ファシリテーターの存在が、どのような効果・影響をもたらしたか	➢ 全体として、ファシリテーターの存在そのものが、こどもにとって意見を言いやすくするために効果的であった。チャットでは、チャットルーム全体の場をコントロールする役割を果たしていた。
③年代によって、意見の出かたに違いがあったか	➢ 年齢による意見の出やすさに大きな違いは見られなかった。近い年齢層のみでグループを構成することで意見が出やすいように観察されたが、異なる世代を混ぜることの有効性も捨てがたい。
④意見が出やすかった時間帯はいつか（チャットのみ）	※毎日1時間グループメンバーが集まって会話するための「コアタイム」を設けた。 ➢ コアタイムでは、どの世代でも活発な意見交換が行われた。ただし、コアタイムに集まれない事情がある参加者もいた。 →参加する時間が合わなかった参加者からは、アンケートでも「意見を十分伝えられなかった」という回答があった。 ➢ コアタイム以外の時間について、発言する時間帯は参加者によって様々であった。中学生世代の場合には、コアタイム以外でも平日は16～18時頃、日曜日は14～16時の間は比較的多くコメントが出ていた。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

（参考）参加者アンケートについて

- 実施方法
  対面：　紙のアンケート、Webアンケートの併用
  オンライン、チャット：Webアンケート

- プログラム毎の回収数、回収率

	対面①	対面②	オンライン会議①	オンライン会議②	SNS上での議論①	SNS上での議論②
参加者	小学４年生世代～概ね20代 （合計26人） 年代ごと小グループ5人程度×６	小学４年生世代～概ね20代 （合計22人） 年代ごと小グループ10人程度×３	小学４年生世代～概ね20代 （合計23人） 年代ごと小グループ5人程度×６	小学４年生世代～概ね20代 （合計28人） 年代ごと小グループ10人程度×３	中学１年生世代～概ね20代 （合計25人） 年代ごと小グループ5人程度×６	中学１年生世代～概ね20代 （合計28人） 年代ごと小グループ10人程度×３
実施日時	11/13（日） 15時～16時半	11/27（日） 15時～17時	11/17（木） 17時～18時半	11/18（金） 17時～19時	11/15（火）　17時 ～11/21（月）　19時	
アンケート回収数 （回収率%）	23 （88.5%）	21 （95.5%）	21 （91.3%）	19 （67.9%）	30 （56.6%）	

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

参加者アンケートより

＜主観＞
①こども・若者にとって意見は言いやすかったか、どのような点でそう感じたか（１）

- 参加者アンケートでは、各プログラムで「伝えやすかった」「時間配分や人数がちょうどよかった」という回答が最も多かった。
- 伝えにくかった、時間配分や内容について良くなかった、人数が多い、少ないなどの回答もみられた。

参加者アンケートの結果

- **あなたが参加した今回の話し合いは、意見を伝えやすかったですか。**
- 各プログラムで「非常に伝えやすかった」「伝えやすかった」との回答が最も多かった。
- 対面５人グループ、チャット１０人グループは「伝えにくかった」「非常に伝えにくかった」との回答はなかった。
- その他のプログラムでは「伝えにくかった」「非常に伝えにくかった」との回答が一部あった。

- **本イベントの時間配分やプログラムの内容についてどう思いましたか。**
- 各プログラムで「非常に良かった」「良かった」との回答が最も多かった。
- チャット１０人グループ以外のプログラムで「あまり良くなかった」との回答が一部あった。
- 各プログラムで「非常に良くなかった」との回答はなかった。
-
- **あなたが参加したグループの人数は、話しやすいものでしたか。**
- 各プログラムで「ちょうどよかった」との回答が最も多かった。
- 対面では「少なかった」の回答がなく、チャットでは「多かった」の回答はなかった。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

<主観>

参加者アンケートより

①こども・若者にとって意見は言いやすかったか、どのような点でそう感じたか（２）

- 伝えやすかった点として、意見が受け入れられる場の雰囲気、聴く側の姿勢、進行役の存在などがあげられた。顔が見えることの意義を感じる人もいれば、匿名、対面ではないことに意見の言いやすさを感じる人もいた。チャットに関しては、リプライ機能などが工夫して使われていることも良い点としてあげられた。

実際のこども・若者の意見（抜粋）

伝えやすかった点

対面	✓ 言ったことを否定しなかった点。（小学生） ✓ 新しいアイデア。 アイデアとアイデアの共通点。（中学生） ✓ 進行役の方が一回一回話をまとめてくださったのでわかりやすかったです。（高校生） ✓ 皆がうなずいてくれたりと、言葉をつなげやすかった。（20代前半） ✓ メモが取られていた、頷いて目を見て聴いてくださった。（20代後半）
オンライン	✓ 同じ気持ちの子がいたから。（小学生） ✓ 相手が子どもだったから。（中学生） ✓ グループの人たちが頷いてくれたり、賛同してくれたこともあり、途中で、グループは言いやすいか？という話題になり、とても伝わりやすかったです。（高校生） ✓ 対面よりは緊張せずに済んだ。（20代前半） ✓ 平易な言葉を使って質問していただいた。（20代後半）
チャット	✓ 匿名だから伝えやすかったのかもしれない。（中学生） ✓ 今回はグループチャットだったのが大きいと思います。「色んな意見を取り入れたい」という体制も意見を伝えやすい特徴だと思います。（中学生） ✓ LINEで顔を合わせることもなかったから緊張しなかった。（高校生） ✓ ファシリテーターの補助やリプライ機能、またリアクション機能があったため、自分の意見が無駄にされていると感じることがなかったから。（10代後半） ✓ 常に誰かが読んでくれてリアクションしてくれているという感覚は安心した。だれも否定はしないし、リプライなどを使って話しがどんどん盛り上がる場面もあって、伝えることで話し合いは進むんだと思えたことがよかった。（20代前半）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

<主観>

参加者アンケートより

①こども・若者にとって意見は言いやすかったか、どのような点でそう感じたか（３）

- 伝えにくかった点は、参加したプログラムのメンバーや進み方によって様々であった。参加者が伝えにくいと感じる点も多様。
- オンラインで顔が見えないこと、チャットが文字列のみであることなど、手法に対する意見もみられた。

実際のこども・若者の意見（抜粋）

伝えにくかった点

対面

- ✓ 知らない用語がたくさん出た。（小学生）
- ✓ 自分と考えがちがう時どうしたらいいのかわからなかった。（中学生）
- ✓ 意見を言う順番が決められていなかったので、誰が最初に言うか分からず少し気まずかった。（高校生）
- ✓ 自分のセンシティブな経験（メンタルヘルス等）やジェンダー観に立った主張。←参加者とずれを感じた時。（20代前半）
- ✓ 話せる人が多く、圧倒された。（20代後半）

オンライン

- ✓ 進行役に沿って話をしましょうと言われての話だったので、気軽に問題を提起しにくかった。（小学生）
- ✓ 初めてはまだいえない気がしたけど、次回があれば続きをもっと話したい。（中学生）
- ✓ いつ話をしたら良いのか分からなかった。オンラインだと、全員の画面見えないから、他の人話そうとしてても分からない。（高校生）
- ✓ なぜ自分が問題意識を持っているのか、といった部分を共有できるともっと良かったと思います。（20代前半）
- ✓ 真面目な発言があると伝えにくいと感じる方もいた。私自身が伝えにくかったというより、言語化が難しい方も意見を伝えられるような仕組み（曲、絵？）があればいいと思う。（20代後半）

チャット

- ✓ 答えを必要とされる場だとなかなか言いにくい。（中学生）
- ✓ 口頭ではないから微妙言葉なニュアンスとか雰囲気とかは伝えにくいと思った。（高校生）
- ✓ やはり文字列なので言葉が強くないかなと心配になる点。（大学生）
- ✓ どうしても長く見れていないと、議題が流れてしまって、遡らないといけず、なかなかついていけなくなってしまった。（大学生）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

参加者アンケートより

＜主観＞
②実際に意見を言えたと感じたか、そう感じた理由は何か（１）

- 参加者アンケートでは、各プログラムで「十分に伝えられた」「伝えられた」との回答が最も多かった。
- 「あまり伝えられなかった」「全く伝えられなかった」との回答も一部あった。

参加者アンケートの結果

- **本イベントで、あなたは自分の意見を十分に伝えられましたか。**
- 各プログラムで「十分に伝えられた」「伝えられた」との回答が最も多かった。
- 各プログラムで「あまり伝えられなかった」との回答も一部あった。
- オンラインの参加者からのみ、「全く伝えられなかった」との回答があった。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

<主観>

参加者アンケートより

②実際に意見を言えたと感じたか、そう感じた理由は何か（２）

- 伝えられたと感じた理由は、自分の考えが思うように伝えられたこと、不安を持って参加したが意見が受け入れられたことなどがあげられた。
- チャット参加者からは、「ゆっくり考えて発言することができた」というチャットならではの回答もあった。

実際のこども・若者の意見（抜粋）

“伝えられた”と感じた理由

対面

- ✓ 自分が学校とか家で思ったことをたくさん伝えられたので、考えたことがすっきりしました。（小学生）
- ✓ 意見がうまくまとまっていなくてもみんな「うんうん」とうなずいてくれた。とても面白いテーマだった。（中学生）
- ✓ 同世代の人たち、少人数で話すことで言いやすかった。私自身社会的養護の中で育っていることもあり、話が受け入れられるかが不安だったが受け入れられた事がよかった。当事者同士だともっと話しやすいと思った。（専門学校）
- ✓ 哲学対話の方法を使って話す環境を整えてくださったから。ただ話すテーマについて、事前資料から、勘違いしてしまいました。子供や若者が社会政策に意見を言える具体的な仕組みと捉えていたため、事前に充分考えることができませんでした。私が読み間違えていたのかもしれませんが… 一つの部屋に、複数のグループがあるため、周りの音が少し気になりました。感覚過敏の人がいたら、少ししんどいかなと思いました。（20代前半）
- ✓ コーディネーターの存在が多かった。各人の意見が引き出され、自分の発言があるように感じた。フラットな関係性が終始保たれていた。（20代後半）

オンライン

- ✓ 言い忘れたことはない？と聴いてくれたから。（小学生）
- ✓ いつも通りにできたから。（中学生）
- ✓ みなさん頷いてくれて、話しやすい雰囲気だった。（高校生）
- ✓ 聴く側も伝える側も充分相手をリスペクトしているように感じられたから。（20代前半）
- ✓ 自分の頭を整理しながら考えて発言することができたように感じているから。（20代後半）

チャット

- ✓ コアタイム以外でも積極的に意見を言ったから。（中学生）
- ✓ みんなが優しく対応してくれるし、進行役の方もフォロー入れてくれるため。（高校生）
- ✓ ゆっくりと考えて発言することができたため。（大学生）
- ✓ 自分がお題や会話がされる中で考えたことは伝えられたと思うから。（20代後半）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

<主観>

参加者アンケートより

②実際に意見を言えたと感じたか、そう感じた理由は何か（３）

- 伝えられなかったと感じた理由は、他の人が話していて自分の話す機会が足りなった点、自分の意見をまとめて伝えることが難しかったという点、事前に想定していた議題と内容が異なっていたという点などがあげられた。
- チャットでは、参加できる時間帯が合わない、時間が取れない、という参加者も何名かいた。

実際のこども・若者の意見（抜粋）

“伝えられなかった”と感じた理由

対面

- ✓ 時間が足りなくて、二度だけ言えないことがあった。（小学生）
- ✓ 周りの人がしゃべっていて言えなかった。（中学生）
- ✓ 1グループの人数が8人とちょっと多くて、個々の発言量はすくなめ。ちょっと言い残した感はあるかもしれない。（20代前半）
- ✓ ファシリテーターがあまり機能しておらず、同じ人ばかり話していた。（20代後半）

オンライン

- ✓ 事前に伝えられていた議題よりも内容が浅く、用意していたことの１割も伝えられなかった。（小学生）
- ✓ 周りが色々な意見を言ってるので、その意見に動揺してしまって言いづらかった。（小学生）
- ✓ 言える時には言えたけど、一部でゆうことに対して躊躇があったから。（中学生）
- ✓ 「どう工夫すれば意見を伝えやすくなるか」の自分自身の答えが確立されていなかったから（高校生）
- ✓ 自分が思っていることを結構伝えられたと思いますが、自分の意見をまとめて伝えることが少し難しいと思いました。（20代前半）
- ✓ こども庁に対する意見を持っているが、それを伝えるタイミングがなかったから。どうすれば意見を言いやすいかという話だったのでしょうがないですが、こども庁に対する要望を持っている人が集まっていると思うので、それを吸い上げるタイミングがなかったのが勿体なかった。（20代後半）

チャット

- ✓ 意見を伝えることが出来たが、なかなか時間が合わなかったから。（中学生）
- ✓ 7日間でほとんど話し合えませんでした。（高校生）
- ✓ チャットでも話しやすいけれど、対面の方がもっと話しやすいとも感じた。（20代前半）
- ✓ 私生活が忙しくなかなか議題について深く考える時間が取れなかった。（20代前半）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

参加者アンケートより

＜主観＞
③意見を言いたい、という気持ちに前後で変化はあったか

➢ **本イベントを通じて、意見を伝えたいという気持ちに変化はありましたか。**

- 対面では、「あった」が79.5%、「どちらともいえない」が13.6%、「なかった」が6.8%であった。
- オンラインでは、「あった」が55.0%、「どちらともいえない」が30.0%、「なかった」が15.0%であった。
- チャットでは、「あった」が66.7%、「どちらともいえない」が33.3%、「なかった」が0%であった。

どのような変化があったか

実際のこども・若者の意見（抜粋）

対面

- ✓ ほかの子が発言しているのを見て、自分もやる気が出てきた。（小学生）
- ✓ 先輩や先生などにももう少し自分の気持ちを伝えたい。（中学生）
- ✓ 今まで友達や先生に言えなかったことがこの場で言うことができた。（中学生）
- ✓ 自分は意見を明確に持つ人からのみ意見を集めれば良いと思っていたが、そうではなく全員から様々な意見を集め、またその人たちにも自分の意見を伝えたいと思った。（高校生）
- ✓ 社会を自分達で創るために意見はどんどん言っていかなければ、と感じました。（大学生）
- ✓ こども家庭庁を作る人に、直接意見を届けたい（私のグループはしっかり意見を持っている人も多かったので）。（大学生）
- ✓ もっとこども家庭庁のことに携わってみたいと思った。友人にも自分の意見を恐れず言おうと思う。また私は中学生の時、先生と対面で話すのが苦手だったので、文通していたことを思い出した。（大学生）
- ✓ 意見交換をする中で、自分自身が行政の方や議員さんに対してが思い込みあり構えた姿勢でいることに気づきました。その先入観を取り除いて意見交換したいなと思いました。（20代後半）

オンライン

- ✓ 強くなった。もっと積極的な発信が必要だと思った。（小学生）
- ✓ 先生の不満は学校では言えなくて困っていたから。（小学生）
- ✓ 今まで意見は思いつくけど間違ってると思う不安があって、でも今日の話し合いで意見を言ったとき間違っても大丈夫という自信がついたからです。（小学生）
- ✓ 今回のイベントに参加する前は「意見を伝えたい」とも思っていたが、そもそも「意見を伝える必要性はなんだろう」とどちらも思っていた。というのも、自分が話さなければ誰にも考えを知られることはないし、自分以外の人に従えば円滑に事が進むからである。（高校生）

チャット

- ✓ 発言すると、流れを変えることができることが分かった。（中学生）
- ✓ 自分で調べることで、もっと良くするためにどうしたら良いかもっと考えたくなりました！（中学生）
- ✓ 意見を言っていいのかなと思うこともあったけど、他の子も同じように感じていると知れて心強く思えた。これからも意見を伝えていきたいと思う。（中学生）
- ✓ 意見を聴いてくれる機会があると、伝えたいという気になる。ないと自分の意見を考えすらしないかも…。（大学生）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

＜客観＞
①議論の活発さ、意見の偏り

- いずれのプログラムでも活発な意見交換がみられた。人数が多いグループでは一部の参加者の発言回数が少なくなってしまうケース、チャットでは参加者のタイプや参加できる時間帯の違いによって発言量の差がみられた。ただし、発言を強制されないことも大事であり、議論の活発さのみを評価するべきではない。

	議論の活発さ	意見の偏り
対面	✓ 活発な意見交換がみられた。90分の回、120分の回ともに、所定の時間では足りないくらい発言が絶え間なく続いた。 ✓ イベント終了後に、「雑談ベース」での会話が盛り上がり、その中でイベント中よりも本音で会話できているように見えるグループもあった。 ✓ 発言が少なかった参加者の中にも意見交換の場にいること自体に満足している人がはいた。発言を強制されないことも大事。	✓ 偏りなく発言していたグループが大半であったが、1グループの人数が多い（6人以上）の回では、主張が明確で知識が豊富な参加者の発言が多くなり、一部の参加者の発言回数が少なくなってしまうケースもみられた（ファシリテーターの介入やコミュニティボールの活用により解消された部分もあるが）。 ✓ 近い考え方の意見が多かった場合に、異なる考え方の意見が出にくくなるケースもみられた（ファシリテーターの関与により解消された部分もあるが）。
オンライン	✓ 活発な意見交換がみられた。ただし、対面に比べて発言するタイミングの難しさ、相手の表情が読み取れないこと等から、沈黙が生じる場面も散見された。	✓ 大きな偏りはなかった。 ✓ 対面に比べて、発言が重なり場が盛り上がるような会話となりにくいため、ファシリテーターの進行に沿った秩序あるやり取りが行われていた印象。
チャット	✓ 活発な意見交換がみられた。ただし、チャットルーム上に会話がどんどん流れていってしまうので、過去の発言を追うことが難しいようであった。 ✓ 特にチャットでは、発言を強制されないことの良さがあるのではないか。	✓ 長文の文章を素早く書き込むタイプの人と、じっくり考えてから書き込むタイプの人とで、発言量の差がみられた。 ✓ 会話が流れていってしまうことで、発言のタイミングを逃し自分の意見を言いそびれるケースもみられた。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

＜客観＞
②ファシリテーターの存在が、どのような効果・影響をもたらしたか

- 全体として、ファシリテーターの存在そのものが、こどもにとって意見を言いやすくするために効果的であった。チャットでは、チャットルーム全体の場をコントロールする役割を果たしていた。

	ファシリテートの効果・影響
共通	✓ ファシリテーターの存在そのものが、こどもにとって意見を言いやすくするために効果的であった。 ✓ 言いたいが言い出しにくいこどもが多い。一人ずつに発言機会をつくる、違う意見があっても良いと促す、反応する、具体的に聴いていく、どちらの意見にも中立（評価しない）存在が発言の安心感をもたらす、などの役割を果たしていた。
チャット	✓ チャットでは、チャットルーム全体の場をコントロールする役割を果たしていた。この場がどういう場であるか、どのような発言をしてよいのか、してほしいのかを伝える参加者が会話に入りやすくなる手助けをした。 ✓ 個々のコメントに対して深掘りしつつ、あえて違う切り口の質問を投げかけてコメントを引き出すこと、自分の体験に基づいたエピソードを交えて、難しいテーマを身近に感じさせるなどの工夫がなされていた。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

＜客観＞
③年代によって、意見の出かたに違いがあったか

- 年齢による意見の出やすさに大きな違いは見られなかった。近い年齢層のみでグループを構成することで意見が出やすいように観察されたが、異なる世代を混ぜることの有効性も捨てがたい。

	年代による違い
共通	✓ 近い年齢層でグループを構成したことで意見を言いやすかったと考えられる側面もある一方で、参加者からは「異なる世代を混ぜた方が議論に多様性が生まれやすい」という意見も出ていた。
対面	✓ 年齢による意見の出やすさに大きな違いは見られなかった。 ✓ こども家庭庁の政策に対する意見というテーマ、その事前説明の内容の難しさが原因となって、小学生世代では冒頭意見の言いにくさが観察されたが、ファシリテーターが学校生活などの身近な体験に置き換えて会話を引き出したことによって、活発な意見が出るようになった。
オンライン	✓ 年齢による意見の出やすさに大きな違いは見られなかった。
チャット	✓ 年齢による意見の出やすさに大きな違いは見られなかった。 ※チャットによる意見交換のみ、中学１年生世代以上を参加対象としている。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

＜客観＞
④意見が出やすかった時間帯はいつか（チャットのみ）

※毎日1時間グループメンバーが集まって会話するための「コアタイム」を設けた。

- コアタイムでは、どの世代でも活発な意見交換が行われた。ただし、コアタイムに集まれない事情がある参加者もいた。
- コアタイム以外の時間について、発言する時間帯は参加者によって様々であった。中学生世代の場合には、コアタイム以外でも平日は16～18時頃、日曜日は14～16時の間は比較的多くコメントが出ていた。

年齢層	コアタイム	コアタイム以外
中学生世代	【16～17時、17～18時、18～19時、19～20時、20～21時で設定】 ✓ コアタイムに参加できた参加者では活発なやり取りがみられた。	✓ 平日は16時～18時の間は比較的コメントが多く出ていた。 ✓ 日曜日は、14時～16時の間は比較的コメントが多く出ていた。
15～19歳	【17～18時、20～21時、21～22時で設定】 ✓ コアタイムに参加できた参加者では活発なやり取りがみられた。	✓ 発言する時間帯は参加者によって様々 ✓ コアタイム以外の会話は多くない。
20代	【19～20時、19:30-20:30、20～21時、20:30-21:30、21～22時、22～23時、日曜日8～9時、10～11時で設定】 ✓ コアタイムに参加できた参加者では活発なやり取りがみられた。	✓ 発言する時間帯は参加者によって様々（海外在住者のため時差の関係で参加できる時間帯が限られる参加者がいた） ✓ コアタイム以外の会話は多くない。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

モデル事業の実施を通じて得られた「意見聴取方法の評価・課題」

1-1　評価

1-2　課題抽出

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」<サマリー>（1/7）

項目	気づき・課題
グループの人数・構成	● **1人1人からじっくり話を聴こうとするなら少人数の方がよいが、人数が多い方が議論が活性化したり、共感を生みやすい、少数意見を汲み取りやすいなどの効果がある**ため、状況により使い分けを考えたい。 ● 人数が多い場合は、時間を長めにとる、ファシリテートする役割の大人を増やすなど工夫が必要。 ● **近い年齢層でグループを構成した方がよいという考え方がある一方で、異なる世代を混ぜた方が議論に多様性が生まれやすいという考え方もある。**
時間の使い方・休憩の取り方	● **休憩は、グループ参加者の年齢層や状態に応じて実施するのがよい**（小学生は30分に1回、高校生以上は1時間程度は休憩なしでも問題ないなど）。 ● 大学生や社会人になると休憩なしでディスカッションを続けたい人も多いため、参加者に休憩が必要か、何分くらい必要かを確認しながらファシリテーターが判断するとよい（休憩なしでも問題ない）。
国や政策への意見というテーマへの踏み込み方	● 政策に関する意見を聴取したい場合、参加者の参加目的や前提知識によって方法を工夫する必要がある。 　• **小学生の場合は、「国や政策」といっても具体的なイメージができないため、身近な学校等のシーンにおける意見の言いやすさを議題とするとよい。** 　• 政策にフォーカスして意見聴取を行う際には事前のインプットが必要。 ● **こども・若者の当事者意識をどう取り上げるか、こども・若者に政策や国の事業に興味を持ってもらうかが大きな課題である。そのためにも、若者の生活課題と政策課題の「接点」と「ずれ」を理解していくことが肝要。**
ファシリテーターの存在	● **ファシリテーターの存在そのものが、こどもにとって意見を言いやすくするために必須**。言いたいが言い出しにくいこども多い。一人ずつに発言機会を与える、様々な意見があって良いことを伝える、反応する、具体的に聴いていく、どちらの意見にも中立（評価しない）的な存在が発言の安心感をもたらす。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」<サマリー>（2/7）

項目	気づき・課題
ファシリテーションの方法	<アイスブレイク、対話しやすい場をつくる工夫> ● 開始前のファシリテーターによる参加者への声かけや、参加者間でのコミュニケーションの誘発がうまくいくと開始後の話し合いもうまくいくようになる。 <問いの設定・投げかけ方> ● 身近なことを起点として、国に対する意見へと昇華させていくことで、個人間の知識レベルの差による意見の違いが生まれにくい。 ● 発言していない人がいないか、言いたいことがある人がいないか、常に確認しながら進める必要がある。 <コメントに対するリアクション（共感・同意・質問）> ● うなずく、話者に体を向ける、視線を合わせるのはもちろん、話を理解して受けとめていることを示すリアクションが重要。 ● **エンパシー（たとえ自分だったらそのようには感じないだろうと思っても、相手の気持ちをまずは受容すること）は、子どもの権利に基づくこども支援の基本。「ここでは、なにを言っても受け止めてもらえる」「うまく言えなくても大丈夫」と安心感を与える必要がある。**
板書係	● **考えを発展させていくうえで板書内容を可視化していくことは有用。** ・ **発言が受け止められたと感じられるためにも有効。** ● 板書係は、板書をとる役割だけでなく、議論の中身にも参加し、参加者への適宜の質問の投げかけ、曖昧な点の確認、賛同の意思の表明など、ファシリテーターを補助する役割を担うとよい。 ● **板書の取り方のデザインについては、今回の取組をもとに一定のやり方を確立したい。** ● **板書役はかなり早いテンポの中で参加者の発話内容の要点を掴み、ホワイトボードや模造紙に書いていくことが求められる。ある程度高いレベルの言語運用能力が必要。** ● チャットにおいては、意見が流れてしまいやすいため、Jambordを併用するなどの工夫が必要かもしれない。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」<サマリー>（3/7）

項目	気づき・課題
他のグループのディスカッションの内容の開示・共有	● 他のグループのディスカッションの内容を知りたい、他の世代の意見を聴いてみたい、というニーズもあるため、時間があれば全体共有の場を設けることが望ましい。 ● 大勢の前で意見・発言をすることに心理的なハードルを感じる参加者もいることから、発表を無理強いせず、本人の意思を尊重することが大事。**発表する機会自体が、こども・若者にとって意見表明の力を伸ばす経験になる。**
対面（会場レイアウト、装飾、設備など）	● 部屋の装飾、カジュアルな服装にすること、BGMなど、会議室でも少しでもリラックスした雰囲気を出す工夫が有用。 ● 車座に座る、テーブルをなくす、などの工夫で対話しやすくなる。
オンライン（顔出し）	● **顔出し（カメラオン）は強制しない。あえて全員オフにしても話しやすくなるケースもある。**
オンライン（関係構築の難しさ）	● オンラインは対面よりも相手の表情が感じ取りにくく、コミュニケーションの量や双方向性が制限されるので、関係構築が難しい。いきなりディスカッションに入るのではなく、アイスブレイクや自己紹介に時間をとってから始めるのも一案か。 ● **小学生の場合、機器操作のサポートが必要な場合などもあるので、大人がそばにいることを完全に排除するのは難しいが、場の雰囲気に影響する可能性もあるため注意が必要。**

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」<サマリー>（4/7）

項目	気づき・課題
チャット（テキストのやり取りであることのメリット・デメリット）	● **気軽に意見を言えるため、考えがまとまっていなくても発言しやすいという特徴がある。** ● **チャットルームを7日間オープンにしていることで、じっくりと会話を進められた。** ● **一方、コアタイムでなくても随時反応しないとよい対話がなされないため、運営負担が大きいことが課題（特に、ファシリテーターの負担が極めて大きいことに注意が必要）。**
チャット（相手の事情が分からないことの影響・対策）	● 参加者が匿名で気軽にやりとりできるメリットがある一方で、参加者のキャラクターや置かれた状況、参加のスタンスが見えない不安もある。今日のお昼ご飯を共有してもらう、事前アンケート等で配慮してほしいことや参加の動機を確認してから開始するなどの工夫が必要か。
時間の使い方（コアタイムの運用）	● **コアタイムを設けたことで参加者同士の議論が活発化した。ファシリテーターが集中して対話できる。** ● コアタイム以外に発言はあまりなかった。参加者からも「コアタイム以外は話しにくい、誰かが反応してくれるからコアタイムの方が話しやすい」という意見があった。チャットしたら誰かが受け止めてくれるという関係性が大事と捉えることができる。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」<サマリー>（5/7）

項目	気づき・課題
声の大きい（意見がはっきりしていて発言量が多い）人の意見に左右されない工夫	● 普段学校などで積極的に発言するような子が参加していると、ファシリテーターも発言権がある子にひっぱられてしまう懸念がある。多様な参加者がいることを認識したうえで公平なファシリテートに努めたい。 ● **今後増えるだろうこどもの意見表明ニーズに対してファシリテートの専門家だけでは追い付かないことが懸念されるが、留意点を共通化しておけば、専門家ばかりである必要はないのではないか。**
多様なバックグラウンド・難しい家庭環境のこども・若者がいることへの配慮	● **障がい・家庭環境・過敏症など、こどもの様々なバックグラウンドが想定されることを理解し、用いる言葉にも注意を払う必要がある。** ● **聴き手が日頃から関わりのある先生・人の中だったからこそ意見が言いやすくなるという側面もある。外部のファシリテーター参加の是非についても要検討。**
多様な意見・声（意見にならないもの）を汲み取る工夫	● **どのような意見も受容されると感じられる、安心・安全な場とすることが重要であるため、意見という形にまとまっていない、感想や疑問なども自由に発言してよいということを伝える必要がある。** ● **伝えたいことがあるのにできない／伝えにくい／あえて伝えない人がいた場合に、そのことに気づき、意見を言わない理由やこどもの気持ちを推し量る必要がある。その上で、その子の言葉が出るのを待ったり、促したりすることも必要。**
多様な参加の仕方について	● 発言が少なかった参加者の中にも意見交換の場にいること自体に満足している人がはいた。**発言を強制されないことも大事。特に、チャットはその良さがあるのではないか。**
知識や発達段階に合わせたコミュニケーションの方法	● **“こども基本法”などの専門用語を使わないこと、別途資料を配布・共有することなどの工夫が必要。** ● **Webアンケートでは、特に小学生から「長い」「質問が難しい」という感想があった。こどもの年齢に合わせた問いかけの方法、表現方法を工夫する必要がある。**
参加者への事前の情報提供・説明	● **事前説明においては、その説明がこどもが分かりやすいように、言葉遣い、用語の使い方、イラストなどが工夫されているとよい。動画での説明も有効。**

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」
＜サマリー＞（6/7）

項目	気づき・課題
ファシリテーターの事前の学習・準備	● ファシリテーターは、「こども基本法」「子どもの権利条約」「意見表明権」、「こども家庭庁の理念や役割」などについて最低限の知識を身に付けたうえで参加することが望ましい。 ● 主体となる団体は、チャイルド・セーフガーディングなどの子どもの権利や安全を守るためのルールを定めることが望ましいが、難しい場合には、他の団体が定めたルールについて事前のガイダンス（研修）を受けることでもよい。 ● 複雑な背景を持っているこども・若者に関する理解があると良い。
参加者の募集・選定	● **公募にすることで、広く参加者を募ることができる一方で、「応募したい」「意見を言いたい」という意欲をもったこども・若者に参加者が偏る可能性がある。公募形式をとる場合には、募集プロセスにおいてこども・若者と関わりのある機関との連携も重要。** • 「声をあげにくいこども・若者」が活動する場所やチャネル（支援団体や当事者団体） • 教育委員会を通じた学校への周知ルートの確立も要検討。 ● **案内文やアンケート設問文、事前配布資料の全てをこどもにやさしい表現にする必要があった。そのためにプロフェッショナルが関わる時間や費用が必要。**
保護者の同意の必要性	● **16歳未満の参加に保護者等の同意が必要という点は課題。こどもの状況によっては、保護者等に許可を求める心理的ハードルは高い。また、被虐待経験のあるこどもや社会的養護下のこどもなどの場合は、同意前提では回答できないという意見もあった。**
参加者へのフィードバック	● **発言したことがその後どう扱われるのか、具体的に説明できるとよい。**
記録の体制・予算	● 参加したこどもの発言内容事業の根幹となる重要なインプットであると同時に、参加者へのフィードバックにも役立つ。また、参加できなかったこども・若者が他の人の考えや発言を知る上でも重要。 ● **記録者が全ての場に配置され、発言が全て記録される、データ化される、報告書に掲載されるための予算体制を確保することが必須。**

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」<サマリー>（7/7）

項目	気づき・課題
意見を聴取する対象について	● 20代の参加者やアンケート回答者の中には、自身の意見の言いやすさではなく、自身より年下のこども達の意見の言いやすさについての意見を出している人も多かった。こどもと関わる仕事をしている人も多く参加していた。**こども・若者をまとめて１つの対象と捉えるべきか、こどもと若者を分けて考えるべきか、検討が必要。** ● Webアンケートでは、概ね20代までを対象にしていたが、30代以上の方からも多くの回答が寄せられた。**こどもの最善の利益の観点から、どのように意見を汲み取るべきか、政策反映への優先順位をどうつけるか、検討が必要。**

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」
＜詳細＞（1/10）グループの人数・構成、時間の使い方

項目	気づき・課題
グループの人数・構成	● 意見を言いたい、言いたくないも含めて意見表明なので、その機微をファシリテーターが把握して場づくりをする必要がある。したがって、1人1人からじっくり話を聴こうと思うと、3～5人ぐらいがちょうどよいサイズ。 • 発言の深堀は10人に比べて5人の方がしやすい。 • ４人でも十分に話しきれない様子の参加者がいるくらい。いずれにしても単発のイベントではこども・若者の意見を十分に聴くことはできない。継続的・定期的な活動、コミュニティ形成が必要である。 • 一概に5人が良いとは言えない。10人弱で小中学生が混じっていたからこそのお互いの配慮や突っ込み合いで議論が活性化した。 ● 共感の数は5人に比べて10人の方が多く、参加者同士の双方向の会話が増える傾向もみられた。少数意見の参加者が味方をみつけて孤独でなくなるという効果もあるようだ。 • 10人グループの場合は、人数が多いために発言がうまくできない人が発生してしまう懸念があるため、時間を長めにとる、ファシリテートする役割の大人を増やすなど工夫が必要。 ● 近い年齢層でグループを構成した方がよいという考え方がある一方で、異なる世代を混ぜた方が議論に多様性が生まれやすいという考え方もある。 • 10代のみのグループよりも、20代と10代の混成グループの方がキーワードがみつかりやすい。 • 年齢の幅を持たせたグループでの意見交換も、試行的にやってみても良かったかもしれない。
時間の使い方・休憩の取り方	● 休憩は、グループ参加者の年齢層や状態に応じて実施するのがよい（小学生は30分に1回、高校生以上だと1時間ぐらい頑張れるなど）。 ● 大学生や社会人になると休憩なしでディスカッションを続けたい人も多いため、参加者に休憩が必要か、何分くらい必要かを確認しながらファシリテーターが判断するとよい（休憩なしでも問題ない）。 ● 何を言おう、伝えようと思って参加者は来るため、場が温まる時間を十分に取る、意見が出始めたときに途中で無理にさえぎらないことが重要。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」
＜詳細＞（2/10）政策テーマへの踏み込み方、ファシリテーターの存在など

項目	気づき・課題
国や政策への意見というテーマへの踏み込み方	● 参加者の参加目的や前提知識によって異なる。 　• 小学生の場合は、「国や政策」といっても具体的なイメージができないため、身近な学校等のシーンにおける意見の言いやすさを議題とするとよい。 　• 国や政策への意見を言うことを目的に参加している場合には、単に一般論としての「意見の言いやすさ」に閉じずに、国や政策に踏み込んだ議論をするとよい。逆に、国や政策への意見を言いたい参加者に、その議論の時間をとらなかった場合、「不完全燃焼」になってしまう。 ● こども・若者の当事者意識をどう取り上げるか、こども・若者に政策や国の事業に興味を持ってもらうかが大きな課題である。そのためにも、若者の生活課題と政策課題の「接点」と「ずれ」を理解していくことが肝要。 ● また、政策にフォーカスして意見聴取を行う際には事前のインプットは必要。
ファシリテーターの存在	● ファシリテーターの存在そのものが、こどもにとって意見を言いやすくするために必須。言いたいが言い出しにくいこどもが多い。一人ずつに発言機会をあげる、違う意見があっても良いと促す、反応する、具体的に聴いていく、どちらの意見にも中立（評価しない）存在が発言の安心感をもたらす。 　• 誘導せず、議論が膨らむようなヒントを投げ入れていくのは、技術が必要。
ファシリテーションの方法	＜アイスブレイク、対話しやすい場をつくる工夫＞ ● コミュニティボール（持っている人が発言する）によって、持っている人と持っていない人の役割が明確化されていただので、話者はしっかりと意見を伝えられる（遮られない）仕組みになっていた。平等に発言機会が訪れる。コミュニティボールを渡すときに名前を呼びあうことで参加者同士の距離間が近づいていた。 　• ただし、活発な議論をするようなグループだとボールの受け渡しによって場が冷める可能性もある。 ● 開始前のファシリテーターによる参加者への声かけや、参加者間でのコミュニケーションの誘発がうまくいくと開始後の話し合いもうまくいくようになる。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」
＜詳細＞（3/10）ファシリテーションの方法

項目	気づき・課題
ファシリテーションの方法	＜問いの設定・投げかけ方＞ ● 身近なことを起点として、国に対する意見へ昇華させていくことで、個人間の知識レベルによる差が生まれにくい。知識がある人は意見を昇華させていく段階で例示等を活用しながら自分の意見を述べてくれるので全員が平等に知識レベルを高めながら意見交換できる。 ● 意見の言いづらかったとき、言いやすかったときを議論する際に、「相手」「相手との関係性」「話題」「場所」など多様な視点で意見が出るように工夫が必要。 ・ あまりに特定のシーンに限定した意見が出た場合には、それのどういう側面が意見の言いづらさ、言いやすさにつながっているのかの深掘りをする必要がある。 ● 意見を言いやすい仕組みについて議論する際に、具体的な仕組みについて考えることが難しい場合、「今、この場が意見を言いやすい場であるか」を問うたうえで、「どう改善すればよいか」という流れで議論するのは有効。 ● モデル事業では、意見を言いたい、言える人が集まっている傾向があるため、「意見を言いづらいこども・若者」の声を拾うにはどうしたらよいか？という問いを設定するとよい。 ・ 意見を言いづらいこども・若者の例として、「複雑な背景を抱える、難しい環境のこども」もいれば、「意見を言うことに慣れていない、意見形成がされにくいこども」もいれば、「意見形成はされているが表明の機会（時間・相手）がいないこども」もいることを認識する必要がある。 ● 発言していない人がいないか、言いたいことがある人がいないか、常に確認しながら進める必要がある。 ＜コメントに対するリアクション（共感・同意・質問）＞ ● うなずく、話者に体を向ける、視線を合わせるのはもちろん、話を理解して受けとめていることを示すリアクションが重要。 ● 特に、オンラインでは表情が見えにくい、視線があいづらいという難しさがあるため、笑顔を大きく見せる、チャットやいいねボタンを組み合わせて使うなどの工夫が必要。 ● エンパシー（たとえ自分だったそのようには感じないだろうと思っても、相手の気持ちをまずは受容すること）は、子どもの権利に基づくこども支援の基本。「ここでは、なにを言っても受け止めてもらえる」「うまく言えなくても大丈夫」と安心感を与える必要がある。

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」
＜詳細＞（4/10）板書係

項目	気づき・課題
板書係	● 考えを発展させていくうえで板書内容を可視化していくことは有用。記録を可視化することで、今何について議論をしているのかがわかる、これまでにどのような意見が出ていたかを振り返りながら対話することができるため、議論がやりやすくなる。 ・ 発言が受け止められたと感じられるためにも有効。 ● 一方、解釈間違えて板書されてしまっても言い出しにくい参加者がいたため「こういうことで合っているかな？」「もし書いたことが伝えたい事と違ったら言ってね」と声かけすることがあるとよい。 ● 板書係は、板書をとる役割だけでなく、議論の中身にも参加し、参加者への適宜の質問の投げかけ、曖昧な点の確認、賛同の意思の表明など、ファシリテーターを補助する役割を担うとよい。板書係がどこまで意見交換に介入するかプログラム開始前に運営者・ファシリテーターと意識合わせをしておく必要がある。 ● 板書の内容を追って、参加者が話し合いの内容を理解していくこともままあるため、板書の取り方のデザインについては今回の取組をもとに、一定のやり方を確立することができるのではないだろうか。ただ、強調したいところがどこなのか等の点ではファシリテーターと息を合わせる必要がある。 ● 板書役はかなり早いテンポの中で参加者の発話内容の要点を掴み、ホワイトボードや模造紙に書いていくことが求められた。今後も同じ形式で行うのであれば、今回の方たちのようにある程度高いレベルの言語運用能力が求められるように感じた。 ● チャットにおいては、意見がチャットルーム上の流れていってしまうので会話の内容を追いかけることが難しい。チャットでも板書同等の役割があった方がよいかもしれない。実際のチャット参加者からは「Jamboardを併用するとよいのでは」との意見が出ていた。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」
＜詳細＞（5/10）ディスカッション内容の開示・共有、会場レイアウト

項目	気づき・課題
他のグループのディスカッションの内容の開示・共有	● グループ内のフリートークタイムやフロア全体でのシェアタイムのための時間を確保できるとよい。 ● 他のグループのディスカッションの内容を知りたい、他の世代の意見を聴いてみたい、というニーズもあるため、時間があれば全体共有の場を設けることが望ましい。 ● 「各グループからの発表」のような堅苦しい形ではなく、感想含めてどんな議論ができたかをシェアできるとよい。 ● 検討内容をシェアできれば理想的であったが、最後に感想を聴くだけでも会場の一体感がうまれていて場としての満足感は高かったと思う。 ● 休憩中にほかのグループの板書を見て回れると、後半のディスカッションに新たな気付きを持って臨めるので良いのではないか。ワークショップ中にほかのグループの検討内容を見に行く時間を設けている自治体もある。 ● 大勢の前で意見・発言をすることに心理的なハードルを感じる参加者もいることから、発表を無理強いせず、本人の意思を尊重することが大事。 ● 「各グループからの発表」のような堅苦しい形ではなく、感想含めてどんな議論ができたかをシェアできるとよい。 ● 発表する機会自体が、こども・若者にとって意見表明の力を伸ばす経験になるので、よい形でアシストできるとよい。
対面（会場レイアウト、装飾、設備など）	● 部屋の装飾、カジュアルな服装にすること、BGMなど、会議室でも少しでもリラックスした雰囲気を出す工夫が有用。 • BGM音楽は沈黙をなくし話しやすい雰囲気をつくる効果がある一方で、聞こえづらくなる可能性もある。会場の中で物理的距離を確保する、音量を下げる、始まるまでの時間に限定する等の工夫が必要。 ● 車座に座る、テーブルをなくす、ことで対話しやすい。 • 端の人でも板書が見えやすいようにスペースの確保ができるとよい。 • イスは、こどもの身長等に応じて座りやすいものを用意することが望ましい。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」
＜詳細＞（6/10）オンラインの対応、チャットの対応

項目	気づき・課題
オンライン（顔出し）	● 顔出し（カメラオン）は強制しない。あえて全員オフにしても対話はしやすくなるケースもある。 ● 画面オフであっても、画面の向こうにいる相手の状況をイメージできる情報交換は必要。 ● 画面オフで、ほぼ発言もなしという参加者がいた場合に、どこまで発言を促すことが適切なのか判断が難しい。意見を表明しないことも自由でなければいけない。
オンライン（関係構築の難しさ）	● オンラインは対面よりも相手の表情が感じ取りにくく、コミュニケーションの量や双方向性が制限されるので、関係構築が難しい。特に深刻な話題になった際は対応が難しい。 ● いきなりディスカッションに入るのではなく、アイスブレイクや自己紹介に時間をとってから始めるのも一案か。 ● 参加者以外（家族やきょうだい）が画面に映っているケースが多い。目に見える悪影響はなかったように思えるが、中には話しにくくなっていたこどもがいる可能性もある。 ● 小学生の場合、おとなによる機器操作のサポートが必要な場合もあるので、おとながそばにいることを完全に排除するのは難しいが、場の雰囲気に影響する可能性もあるため注意が必要。
チャット（テキストのやり取りであることのメリット・デメリット）	● 気軽に意見を言えるため、考えがまとまっていなくても発言しやすい特徴がある。 ● 自由に参加できる気軽さがメリットとしてあるが、ファシリテーターがいない時間では、やり取りが活発になりにくくなる。 ● チャットルームを7日間オープンにしていることで、じっくりと会話を進められた。 ● 一方、コアタイムでなくても随時反応しないとよい対話がなされないため、運営負担が大きいことが課題。 ● ファシリテーターへの負荷が高すぎた。コアタイム以外もチェック・返信するのは大変。コアタイムだけのフォローでもよかったかもしれない。 ● ファシリテーターと参加者や参加者間のやり取りを活性化するためにどのようなタイミングで返信を行うのが良いのか判断に迷った場面が多々あった。発言に対してファシリテーターからの返答があったほうが発言者は安心する一方で、参加者間でのやり取りは誘発しづらくなる。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」
＜詳細＞（7/10）チャットの対応（相手の事情が分からないことへの対応、時間の使い方等）

項目	気づき・課題
チャット（相手の事情が分からないことの影響・対策）	● 参加者のリアルが見えにくい分、アイスブレイクなどで写真を活用してもよいと感じた。全員今日のお昼ご飯の写真を共有してもらうなど。 ● 発言がない参加者について発言がない理由がわからず、またそれを確認する手段が対面やオンラインと比較して限られたため、適切なアプローチを選択することがかなり難しかった。事前にどのように参加したいと考えているのかをアンケートか開始1~2日目あたりに確認できるといいのではないか。
チャット（ファシリテートの方法）	＜アイスブレイク、対話しやすい場をつくる工夫＞ ● 「発言したくない人はしなくていいよ」など、あなたは参加してくれているだけで大切というメッセージを顔が見えないからこそしても良かったかもしれない。 ● （必要なことではあったが）最初に運営側から伝えるルールや仕組みの情報・投げかけが大量にあったので、長い文章を目にして参加のハードルの高さを感じた参加者もいたかもしれない。 ＜問いの設定・投げかけ方＞ ● 問いなどの強調すべきものは埋もれないように対応する必要がある（【】で囲う、アナウンス機能を活用するなど）。 ● 無関係な発言が対面やオンラインよりもしにくいように感じた。直前の発言がしっかりとテキストで残され、その直下に投稿することになり流されにくいため、直前の発言との繋がりを強く意識されるためではないかと思われる。そのような観点で、ファシリテーターからの問いかけも、全体に投げかけつつ、まだ1人しか問いに対する返答がない中で、掘り下げるような質問をしていいのかよいのかよく迷った。既読数やリアクションのスタンプが誰によるものなのかを随時確認し、検討のための情報にしていた。
チャット（時間の使い方）	● コアタイムを設けたことで参加者同士の議論が活発化した。ファシリテーターが集中して対話できる。 ● コアタイム以外に発言はあまりなかった。参加者からも「コアタイム以外は話しにくいが、誰かが反応してくれるからコアタイムの方が話しやすい」という意見があった。チャットしたら誰かが受け止めてくれるという関係性が大事と捉えることができる。 ● 一方で、コアタイムに関係なく発言するし、それができることが気軽さになっているという意見もあった。 ● コアタイムの考え方の共有が不十分であったためか、参加可能と回答しながらもその時間に参加しない人が多くいた。

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」
＜詳細＞（8/10）「子どもの権利」「声をあげにくいこども・若者の意見聴取」の観点

項目	気づき・課題
声の大きい（意見がはっきりしていて発言量が多い）人の意見に左右されない工夫	● 学校でもバシバシ発言できるような子が参加していると、ファシリテーターも発言権がある子にひっぱられてしまう懸念がある。多様な参加者がいることを認識したうえで公平なファシリテートに努めたい。 ● 対面の場合は、コミュニティボールの活用も一案だが、オンラインの場合は、どうすればよいか課題。 ● ファシリテーターが特定の意見に強く賛同しすぎると、他の意見を持っている人が話しづらい可能性がある。 ● 今後増えるだろうこどもの意見表明ニーズに対して専門家だけでは追い付かないことが懸念されるが、留意点を共通化しておけば、人権専門のファシリテーターである必要はないのではないか。
多様なバックグラウンド・難しい家庭環境のこども・若者がいることへの配慮	● 障がい・家庭環境・過敏症など様々なバックグラウンドが想定される。ファシリテーターは、発言の際の言葉に注意を払う必要がある。 ● 単発のイベントにおいては、合理的配慮をしたとしても参加者の背景を正確に把握することは困難である。「いろいろな子がきっといる」という意識のもとで、可能な範囲での配慮・介入を心掛けたい。 　・ 最初に、「何か配慮した方がいいことがあれば遠慮なく言ってほしい」といった声かけ、あるいは募集時に参加フォームに「配慮してほしいことがあれば記載してほしい」といった質問があるとよいかもしれない。 ● 聴き手が日常の場で知っている先生・人の中だったからこそ意見がいいやすくなるという側面もある。外部のファシリテーター参加の是非についても要検討。
多様な意見・声（意見にならないもの）を汲み取る工夫	● ファシリテーターはファシリテートに必死になるため、客観的に観察できるもう1名の大人がグループにいた方がよい（発言したそうだが発言できていない、発言していないが頷いている・首をふっている、目が泳いでいるなど）。 ● どのような意見も受容されるとは感じられる、安心・安全な場とすることが重要であるため、意見という形にまとまっていない、感想や疑問なども自由に発言してよいということを伝える必要がある。 ● 伝えたいことがあるのにできない／伝えにくい／あえて伝えない子がいた場合に、そのことに気づき、ファシリテーター側の問いかけのまずさや、意見を言わない状況を推し量る必要がある。その上で、その子の言葉が出るのを待ったり、促したりすることも必要。 ● オンラインの場合、こどもの表情やトーン、エネルギーレベルを察することに限界がある。どう工夫すればよいか要検討。

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」
＜詳細＞（9/10）事前の知識・学習・情報提供の観点

項目	気づき・課題
多様な参加の仕方について	● 参加した全員が活発に発言をしたわけではない。ただ、発言が少なかった参加者の中にも意見交換の場にいること自体に満足している人がはいた。発言を強制されないことも大事であるはず。特に、チャットは発言をしていないことのプレッシャーが小さく、その良さがあるのではないか。
知識や発達段階に合わせたコミュニケーションの方法	● “こども基本法”など専門用語を使わないこと、別途資料を配布・共有することなどの工夫が必要。 ● 20代は、「自分の意見の言いやすさ」という一人称の意見と同時に、自身の経験などから「こどもたちはこうだよね」という少し上のお兄さんお姉さんの立場からこどもに必要な仕組みを語る場面もあったので、若者については２つの観点で話を聴いてもよいかもしれない。 ● Webアンケートでは、特に小学生から「長い」「質問が難しい」という感想があった。こどもの年齢に合わせた問いかけの方法、表現方法を工夫する必要がある。
参加者への事前の情報提供・説明	● 事前知識の有無で差が出るテーマの場合は事前インプット必須。 ● こども家庭庁が主体となる取組の場合には、こども家庭庁がどのような機関なのかを事前に説明しておくことは重要。 ● また、その説明がこどもが分かりやすいように、言葉遣い、用語の使い方、イラストなどが工夫されているとよい。動画での説明も有効。必要以上に政府は難しい、偉そうと受け止められない表現が必要（偉そうな人はこどもは嫌がる）。 ● 「子どもの権利」についても事前説明があった方がよい。
ファシリテーターの事前の学習・準備	● ファシリテーターは、「こども基本法」「子どもの権利条約」「意見表明権」、「こども家庭庁の理念や役割」などについて最低限の知識を身に付けたうえで参加することが望ましい。今後、マニュアル作成が必要か。 ● 主体となる団体は、チャイルド・セーフガーディングなどのこどもを守るためのルールを定めることが望ましいが、難しい場合には、他の団体が定めたルールについて事前のガイダンス（研修）を受けることでもよい。 ● 何らかの複雑な背景を持っているこども・若者に関するある程度の知識や対応方法への理解を持っていると良い。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」
＜詳細＞（10/10）参加者の募集・選定、保護者の同意の必要性

項目	気づき・課題
参加者の募集・選定	● 公募にすることで、地域等の偏りなく広く参加者を募れる一方で、「応募したい」という意欲をもったこども・若者に参加者が偏る可能性がある。公募形式をとる場合には、募集プロセスにおいてこども・若者と関わりのある機関との連携が必要。 　• 「声をあげづらいこども・若者」が活動する場所やチャネルへも応募を呼びかけるなど工夫する必要がある。また、参加者に偏りがないかを確認・検証できるようにしておく必要がある。 　　• 協力してもらえる支援団体や当事者団体を整理し、周知に加えて、当日の同席・仲介・ファシリの協力をしてもらえるネットワークづくりがあった方がよい。 　• 教育委員会を通じた全学校への周知ルートの確立も要検討。 ● 案内文やアンケート設問文、事前配布資料が全てこどもにやさしい表現にする必要があった。そのためにプロフェッショナルが関わる時間と費用が必要。 ● 選定にあたっては、何を基準に選定するのかを予め明確にする努力が必要。 　• たとえば、交通費の予算上限により遠方からの参加に制限がかかりそうな場合には、募集要綱にもその旨を記載しておくべき。 ● 友達と参加など1人で参加以外の選択肢を排除せず、どうすれば参加できるかを検討すると参加しやすいこどもが増えたかもしれない。ただし、運営側のオペレーションや対処事項が増えること、当日のファシリテーションへの影響も考慮して慎重に考える必要がある。
保護者の同意の必要性	● 18歳未満の参加に全て親の同意が必要という点は課題。特に、政策、市民参画、子どもの権利に対する関心を親が持っていない場合にわざわざ許可を求める心理的ハードルは高い。また、虐待に限らず社会的養護のこどもなどの場合は同意前提では回答できないという意見があった。対面は仕方がないにしても、オンラインやチャットは自由にできないか。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

③モデル事業を通じた「意見表明・意見反映に向けた課題」
＜詳細＞（10/10）参加者へのフィードバック、記録の体制・予算、意見聴取の対象

項目	気づき・課題
参加者へのフィードバック	● 発言したことがその後どうなるか、具体的に説明できるとよい。仕組みづくりに役立てますでは抽象度が高すぎる。報告書の概要をこども版を作成するのでフィードバックがほしい、完成した報告書はホームページのここに掲載される、来年はこういうことをやる予定というくらいは伝えるか、資料にまとめて渡すべきだった。
記録の体制・予算	● 参加したこどもの発言内容こそが本事業やあらゆるこども・若者意見聴取の重要なインプットだが、手書きで記録→データ化を調査の傍らで対応するには体制や時間、予算が十分ではない。記録者が全ての場に配置され、発言が全て記録される、データ化される、報告書に掲載されるための予算、体制、作業時間を確保することが必須。参加者へのフィードバックや参加できなかったこども・若者が他のこどもはどういうことを考え何を言ったのかを知る意味でもとても重要。
意見を聴取する対象について	● 20代の参加者、アンケート回答者の中には、参加者自身・回答者自身の意見の言いやすさではなく、自身より年下のこども達の意見の言いやすさについての意見を出している方も多かった。自身が児童福祉施設の職員である方なども多く参加していた。こども・若者をまとめて１つの対象と捉えるべきか、こどもと若者を分けて考えるべきか、検討が必要。 ● Webアンケートでは、概ね20代までの方を対象にしていたにもかかわらず、30代以上の方からもこども・若者の意見聴取・意見反映について様々な回答が寄せられた。様々な当事者も意見を持っているが、こども自身の意見を聴くことが大事であることを鑑みて、どのように意見を汲み取るべきか、政策反映への優先順位をどうつけるか、検討が必要。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

02

モデル事業の実施を通じて得られた「こども・若者の意見」

2-1　対面、オンライン、チャット
2-2　Webアンケート

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

②モデル事業で出た「こども・若者の意見」のまとめ
＜意見反映プロセスの構築に向けた意見＞

参加者アンケートより

➢ 意見を言いやすい仕組みの各カテゴリに対して参加者から様々な意見が寄せられた。

カテゴリ		こども・若者の意見（抜粋）
テーマ設定の在り方	意見を聴取するテーマ	● 答えがない話なら意見を言えるかも。（対面/小学生） ● 政治は若者の意見が構造上反映されないと分かりきっている。（対面/18歳~19歳） ● 正解がないテーマの方が話しやすい。どんな意見もOKだと、思ったことを言いやすい。（オンライン/高校生）
	意見聴取に向けた事前準備・インプットに関して	● 事前に「こういうことに対して意見を言ってね」といってもらえると意見を言いやすい。（オンライン/高校生・18~19歳） ● 申込みしてからもちょっとドキドキしてたけど、事前にもらった資料がわかりやすくて思ってたよりイラストとかもあって、少し緊張がほぐれました。（チャット/中学生）
手法の在り方	対面	● 対面は相手の表情やテンポ（反応）がわかるのでよい。（対面/高校生） ● 議論を深めていけるところがいい。（対面/高校生） ● 対面は少人数がいい。（対面/高校生）
	オンライン	● 急用、移動中には便利、親にばれにくいので一歩踏み出しやすい。（対面/小学生・中学生） ● マイノリティの場合、遠くの同じ悩みを持つ人と話せる。（対面/小学生・中学生 ● マイクとビデオはオフにしたい場合もある。（対面/小学生・中学生） ● 人数が多いのでしゃべりづらい。自分だけ沢山しゃべってしまうのではないか（出番を読み間違えちゃう、タイミングを間違えちゃう）。（オンライン/高校生・18歳~19歳）

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

②モデル事業で出た「こども・若者の意見」のまとめ
＜意見反映プロセスの構築に向けた意見＞

参加者アンケートより

➢ 意見を言いやすい仕組みの各カテゴリに対して参加者から様々な意見が寄せられた。

カテゴリ		こども・若者の意見（抜粋）
手法の在り方	チャット・SNS	● どんどん別の話になっていって、自分がかかわっている感じがしなくなる。（対面/小学生） ● SNSは意見がすぐに言える、文字で投稿できるのがいい。(オンライン/小学生・中学生） ● （チャットがいい）"表情を変えなくていいから。みんなに合わせなくていいから。（チャット/中学生） ● 考えてる間に議論がどんどん進んでいってしまって結局自分の意見が言えなかった、ってことが多々あるので、確実に意見を伝えられるチャットはありがたいです。（チャット/20代前半） ● グループチャットにしたのは、時間的な制約がないのと参加のハードルが低めかなぁと思って選びました。（チャット/20代前半）
	アンケート	● 学校単位でアンケートが行えると良い。その際に学校に来られない人にも別に対応できると良い。（対面/高校生世代・18~19歳） ● アンケートは運営しやすいが、意見を言いたい人だけの声になる。(オンライン/高校生） ● 手法としてはWEBアンケートであれば通勤・通学時間でも入力でき有効であるように感じます。（チャット/20代）
	声をあげにくいこども・若者の声を聴く方法	● ちょっとずつステップを踏むことが大切（フリースクール、保護者に知ってもらうなど）。（対面/中学生） ● 意見を言いにくい人は普段からなんでも言える人を間にはさむと何でも言える環境になる。（対面/20代） ● 普段接する中で自然に吸い上げる仕組みが必要。（対面/20代）

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

②モデル事業で出た「こども・若者の意見」のまとめ
＜意見反映プロセスの構築に向けた意見＞

参加者アンケートより

➢ 意見を言いやすい仕組みの各カテゴリに対して参加者から様々な意見が寄せられた。

カテゴリ		こども・若者の意見（抜粋）
手法の在り方	その他の手法	● 限定的な手法だとリーチできる人に限りがあるため、様々な手法で意見を言えることが大事。（対面/18歳~19歳） ● 確実に届き、周囲を気にしないで済む手紙がリアル、オンラインで送れると良い。（対面/小学生・中学生） ● 廊下などに、自由に意見を書ける場所を作って、こども家庭庁が取りに来る＝直接声が届く 。(オンライン/小学生・中学生） ● 学校の道徳の時間とかを使って意見を言い、学校側がそれをまとめてみたいなのがあれば言いやすいなぁと思います。（チャット/中学生） ● Yahoo!知恵袋の行政版みたいなのがあったらいいなって思う！（チャット/中学生） ● 若者がいつでも自由に意見できるチャット的な窓口を開いておいたらいつでも自由に書き込みできるかも？（チャット/中学生） ● 行政のLINEとかTwitterがあって、いつでも、誰でも参加できる仕組みがあればいいと思います！（チャット/中学生） ● ネットでの24時間受付フォームは今の時代かなり普及しているはずなのに、なかなか国や自治体では取り入れられてない印象。（チャット/20代後半） ● 国や自治体で、こども定例議会をつくって、月1回など定期開催をして意見を言ったりする。メンバーを一般の人から募ったり、メンバーでなくても生配信などでコメントができると、より門戸が開くと思いました。参加者集めには、そこにすでに参加している若者が中心になって、Twitter、Instagram、TikTok等のSNSを活用できるといいと思いました。（チャット/高校生・18歳~19歳）

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

②モデル事業で出た「こども・若者の意見」のまとめ
＜意見反映プロセスの構築に向けた意見＞

参加者アンケートより

➢ 意見を言いやすい仕組みの各カテゴリに対して参加者から様々な意見が寄せられた。

カテゴリ		こども・若者の意見（抜粋）
手法の在り方	その他の手法	● フリーダイヤルで電話ができる窓口があれば、意見を何でも気軽に言うことが出来ると思います。（チャット/高校生・18歳~19歳）
聴き手の在り方	ファシリテーターの関わり方	● 「何でもいいよ」、「大丈夫」という声かけで安心感を与えてほしい。（対面/高校生世代・18~19歳） ● 慣れたらタメ口があってもよい。ただ、初対面でタメ口だと下に見られていると感じる。（対面/高校生世代・18~19歳） ● 敬語とかすぎたら話しにくい、自分も敬語を使わなきゃいけないな。(オンライン/小学生） ● 違う解釈をされたりするのが嫌なので、聴き取りが不十分な時はもう一回聴いて欲しい。（チャット/中学生）
	国や行政職員の関わり方	● 国の組織に「話してもいいんだよ」と言ってくれる人がいてほしい。（対面/高校生世代・18~19歳） ● 子供からしたら、行政によって変わったと思うことが無いから、何を意見すればいいのかもわからない。（チャット/中学生） ● 政策や法令の分かり易い解説動画みたいなものを作るといいと思います。ただ興味はあるけど、今はさらっと学べる物じゃないから手を出しにくい。（チャット/中学生）

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

②モデル事業で出た「こども・若者の意見」のまとめ
＜意見反映プロセスの構築に向けた意見＞

参加者アンケートより

➢ 意見を言いやすい仕組みの各カテゴリに対して参加者から様々な意見が寄せられた。

カテゴリ		こども・若者の意見（抜粋）
聴き手の在り方	聴き手の配慮事項	● 信頼しているお父さん、お母さんにも言えないことがあるので、親に相談できないことを電話した時に親に伝わらないこと。（対面/小学生） ● 誰に開示されるのかプライバシーポリシーで分かりやすく説明する仕組みが必要。（対面/18歳~19歳） ● 親の同意がなくてもいい仕組みが欲しい。（対面/小学生・中学生） ● 意見を言っていいよといわれるといいづらくなる時がある。ある程度意見を言っていいよと言われても、答えられないこともある。(オンライン/中学生)
場の在り方	場所・空間	● かたくるしい場は言いにくい。（対面/高校生） ● ジャッジされない場所。（対面/18歳~19歳） ● 自分の匿名性や個人情報が守られている場。（チャット/20代後半） ● 緑があったり、置かれている椅子が柔らかかったり、照明がちょうどいい明るさだったり、とりあえず「かたい」印象を受けるもの以外ですかねぇ。（チャット/20代）
	時間のゆとり	● 忙しそうにしていると話しにくいので、相手が時間的、心理的ゆとりを持っていることが大事。（対面/20代後半） ● 学校だと時間が限られていて、難しい話はしづらい。しっかり意見交換の時間があって楽しかった。(オンライン/小学生・中学生)

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

②モデル事業で出た「こども・若者の意見」のまとめ
＜意見反映プロセスの構築に向けた意見＞

参加者アンケートより

➢ 意見を言いやすい仕組みの各カテゴリに対して参加者から様々な意見が寄せられた。

カテゴリ		こども・若者の意見（抜粋）
場の在り方	グループの人数	● 少人数がよい。大人数だと相手が何を考えているか分からない。（対面/小学生・中学生） ● ５～７人の少人数がよい。10人は多い。（対面/18歳~19歳） ● 意見を出す話し合いの場面は、比較的多くでも大丈夫。(オンライン/20代後半）
	グループの年代	● 相手の考えが見えないため、年下との意見交換の方が苦手。（対面/中学生） ● 同世代であると意見が言いやすい。（対面/高校生） ● 意見を聴く時は、違う世代の人と話すと、違う考え方や知識、自分にはないものを得ることができる。(オンライン/18歳~19歳）
	グループ内の関係性	● 仲良い人、信頼している人、友達と一緒がよい。（対面/中学生） ● 仲がいい人だと話やすい、知らない人・かかわりがない人だと話は言いにくい 。(オンライン/小学生） ● センシティブな話題をするとしたら、似た環境、似た境遇で同年代の人と話せるなら言いやすい。(オンライン/高校生・18歳~19歳） ● 評価する人に対しては言いにくい。先生や上司など、自分がどんな風に見られているのか気にする相手には発言を選んでしまう。(オンライン/20代） ● その場限りの人達であるということ。（チャット/18歳~19歳） ● Twitter等の本名や個人が特定されない場面、不特定多数に向けて自分の素性を隠していると意外と本音の意見が言いやすいなあと思ってます。（チャット/20代後半）

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

②モデル事業で出た「こども・若者の意見」のまとめ
＜意見反映プロセスの構築に向けた意見＞

参加者アンケートより

➢ 意見を言いやすい仕組みの各カテゴリに対して参加者から様々な意見が寄せられた。

カテゴリ		こども・若者の意見（抜粋）
意見反映・フィードバックの在り方	意見反映	● 反映されていなくても反映されない理由を伝えてくれれば向き合ってくれていると感じる。（対面/18歳~19歳） ● 反映プロセスを明確化してくれると安心感があり、言った後の未来が明るいと感じる。（対面/高校生世代・18~19歳） ● 若者は　若く弱く少ないので、どうしても意見が通りにくく感じます。（チャット/20代後半）
	フィードバック	● フィードバックする場、結果を教えてもらう場が欲しい。（対面/小学生・中学生） ● 意見を肯定してくれて、実際に政治に影響しているんだと分かれば、自分たちで国を変えることができるんだと思える。そうすれば言おうと思える。(オンライン/高校生） ● 反映まで行かなくても、「ちゃんと受け取ってくれたんだ、決めるまでの過程で参考に使ってくれたんだ」と分かるのは重要だと思います。（チャット/20代後半）

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

②モデル事業で出た「こども・若者の意見」のまとめ
＜国やこども家庭庁に対する要望＞

参加者アンケートより

➢ 意見を言いやすい仕組みの各カテゴリに対して参加者から様々な意見が寄せられた。

カテゴリ		こども・若者の意見（抜粋）
人材教育の在り方	人材教育を進めるべき内容	● 学校の授業などみんなが知れる場として考える機会を与えられるとよい。（対面/中学生） ● 知らない人も多いので子どもの権利を学校で教えてほしい。（対面/小学生・中学生） ● 義務教育場面などで、声を届ける方法を知りたかった（政治・選挙場面）。(オンライン/20代後半)
	人材教育の推進方策	● このような取組の認知を広げるために、年齢層別に発信方法を変えるべき。（対面/高校生世代・18~19歳） ● 参加したくなるメリットがあったら、今関心のない人にも届くかも。SNSで攻める！（オンライン/18歳~19歳） ● 若者のインフルエンサーに宣伝してもらうのもいいかも！（チャット/中学生）
声を聴くことについて	声を上げにくいこども・若者の声を聴くこと	● 余裕がなくて来られない本当に困っている人の声も来てほしい。（対面/小学生・中学生） ● なかなか意見を言えない人のために、意見箱など文字で書いて出せるようにする。(オンライン/小学生・中学生) ● 裏垢のツイートこそ、世の中に届いてほしいものが多い気もする。なんで裏垢や1人の時しか意見を言えないんだろう。(オンライン/20代) ● 個人的にはヤングケアラーの子や医療的ケアを必要とする子の意見表明など、まだまだ考えなければならないなと思いました。（チャット/高校生・18歳~19歳）

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

参加者アンケートより

②モデル事業で出た「こども・若者の意見」のまとめ ＜国やこども家庭庁に対する要望＞

➢ 意見を言いやすい仕組みの各カテゴリに対して参加者から様々な意見が寄せられた。

カテゴリ		こども・若者の意見（抜粋）
声を聴くことについて	こども・若者に関わる人の声を聴くこと	● こどもだけでなく、こどもと関わる大人の意見も聴いてほしい。（対面/高校生世代・18~19歳） ● 学校でも、子供たちは意見を言えているとは限らない。子供たちの発言がないと進まないような授業があると、言いやすくなる 。(オンライン/18歳~19歳）
具体的な政策に関して	定常的な意見表明の場	● こども会議や意見を言いやすい場所などこども参加地域を全国的に拡大して欲しい。（対面/小学生・中学生） ● 自分の地域でも行われているようにこども・若者と行政が対等で、意見が反映されやすい仕組みを国にも作ってほしい。（対面/高校生世代・18~19歳） ● 決める場にこどもがいないとダメ。３０%とまでとは言わないがこどもの人数割合を決めるとよい。（対面/20代） ● こども版の選挙・・・こども宛に選挙の券が届いて、大人と同じように選挙に行って投票できる 。(オンライン/小学生・中学生） ● 文化にするまで染み込ませないと、意見を言うことが身につかないよなぁと思います。（チャット/20代後半）
	その他の国の政策	● アドボケイトを増やしてほしい。こどもから意見が来るのを待つのではなく、大人から耳を傾けて欲しい。（対面/18歳~19歳） ● 日本の他の省庁もこのようなことをしてほしいです。（チャット/中学生） ● こども家庭庁には本当にこども真ん中の政策をしていただけることを期待しています！（チャット/20代後半）

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

02

モデル事業の実施を通じて得られた「こども・若者の意見」

2-1　対面、オンライン、チャット
2-2　Webアンケート

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Webアンケートの実施概要

（ア）参加者の対象年齢、回答数

- ✓ 対象年齢は小学4年生世代～概ね20代
- ✓ 有効回答数2,119
  ※回答総数2,168（うち対象外年齢の回答数49）

（イ）実施期間、アンケート実施方法

- ✓ 回答期間：2022年11月16日～30日
- ✓ 募集方法：内閣官房ウェブサイトに、アンケートのURLを直接掲載し、回答を募った

（ウ）設問内容

- ✓ 設問数：25問
- ✓ 設問内容：意見反映プロセス構築に向けたあるべき仕組みへの要望（詳細は、次頁、次々頁参照）

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Webアンケート設問項目一覧（１/２）

➢ 意見反映プロセス構築に向けたあるべき仕組みへの要望をテーマに計25問の設問を設けた。

番号	設問内容	回答対象者	回答形式	必須/任意
Q１	現在、あなたは内閣府「ユース政策モニター」ですか。	全回答者	単一選択	必須
Q2	あなたの学年／年齢を教えてください。	全回答者	単一選択	必須
Q3	その他を選択した方は、その内容を教えてください。	Q2で「その他」を選択した方	自由記述	必須
Q4	あなたの通っている学校の種類を教えてください。	小中学生世代	単一選択	必須
Q5	学生・社会人のうち、当てはまるどちらか一方を選んでください。	高校生以上の方	単一選択	必須
Q6	あなたが在籍している学校の種類を教えてください。	学生の方	単一選択	必須
Q7	あなたの現在の仕事を教えてください。	社会人の方	単一選択	必須
Q8	あなたの保護者等の仕事を教えてください。（保護者等が複数名いる場合は、１人目について教えてください。）	全回答者	単一選択	必須
Q9	あなたの保護者等の仕事を教えてください。（保護者等が複数名いる場合は、２人目について教えてください。）	全回答者	単一選択	任意
Q10	あなたの性別について教えてください。	全回答者	単一選択	必須
Q11	あなたが住んでいる場所を教えてください。	全回答者	単一選択	必須
Q12	あなたは誰と一緒に住んでいますか。	全回答者	複数選択	必須
Q13	あなたの暮らし向き（衣・食・住・遊びなどの物質的な生活レベル）は、世間一般と比べてみて、上から下までのどれにあたると思いますか。あなたの実感でお答えください。	全回答者	単一選択	必須

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

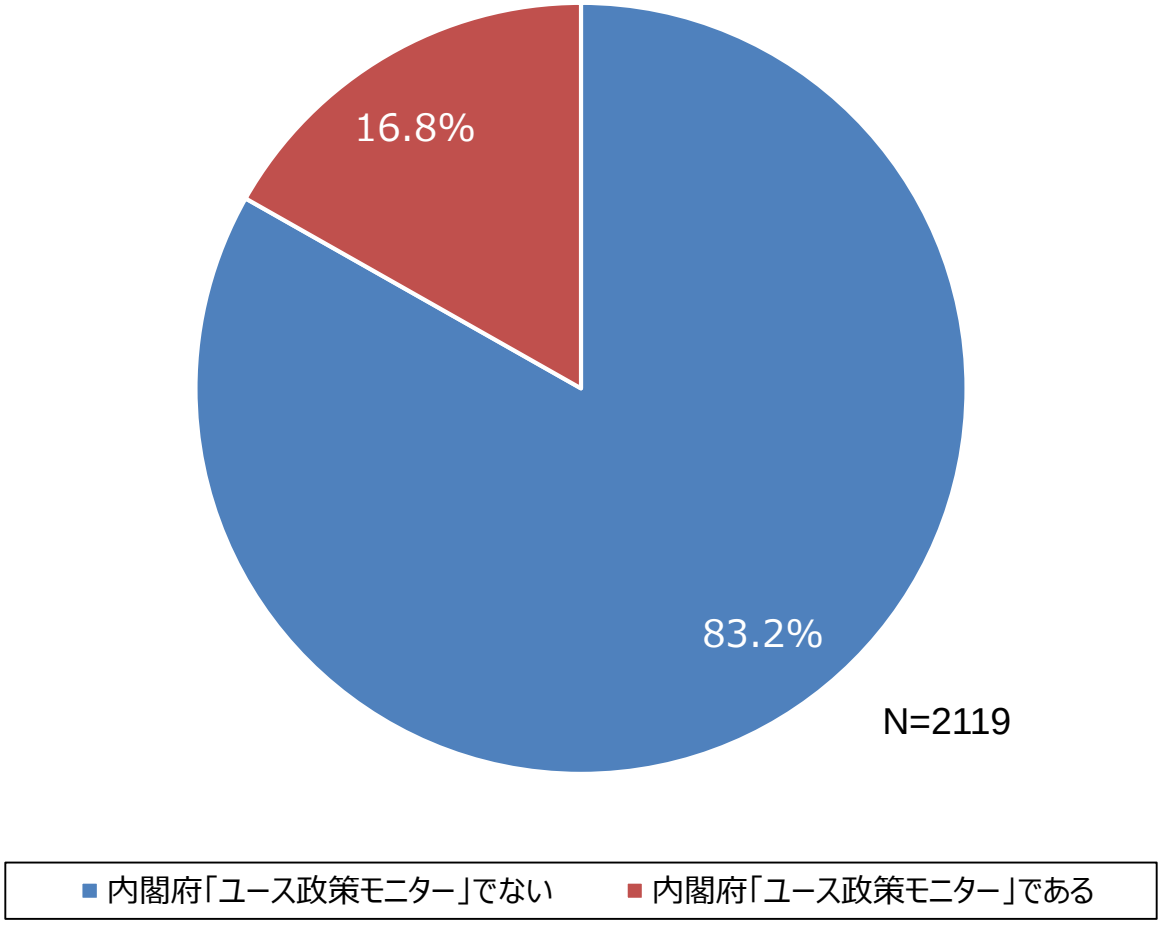
Webアンケート設問項目一覧（２/２）

番号	設問内容	回答対象者	回答形式	必須/任意
Q14	あなたは、こどもが意見を表明する権利について知っていますか。	全回答者	単一選択	必須
Q15	国や自治体（こども家庭庁などの国の機関や都道府県庁、市区町村の役所・役場など）では、社会のみなさんの生活をより良くするため、様々な制度や政策に取り組んでいます。あなたは、ふだん国や自治体の制度や政策について、どのように情報を得ていますか。主なものを３つまで選んでください。	全回答者	複数選択	必須
Q16	あなたは、国や自治体の制度や政策について思ったことや意見を、国や自治体に伝えたいと思いますか。	全回答者	単一選択	必須
Q17	そう答えたのはどうしてですか。当てはまるものを全て選んでください。	Q16で「そう思う」「ややそう思う」と回答した方	複数選択	必須
Q18	そう答えたのはどうしてですか。当てはまるものを全て選んでください。	Q16で「あまり思わない」「そう思わない」と回答した方	複数選択	必須
Q19	どのような方法や手段があれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。	全回答者	複数選択	必須
Q20	どのような場所であれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。	Q19で「対面」と回答した方	複数選択	必須
Q21	どのような相手（年代）であれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。	全回答者	単一選択	必須
Q22	どのような相手（性別）であれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。	全回答者	単一選択	必須
Q23	どのような相手（関係性）であれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。	全回答者	単一選択	必須
Q24	どのような相手（関係性）であれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。	全回答者	複数選択	必須
Q25	その他、このアンケートに関する意見や感想があれば教えてください。	全回答者	自由記述	必須

© 2022 © 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q1. 現在、あなたは内閣府「ユース政策モニター」ですか。

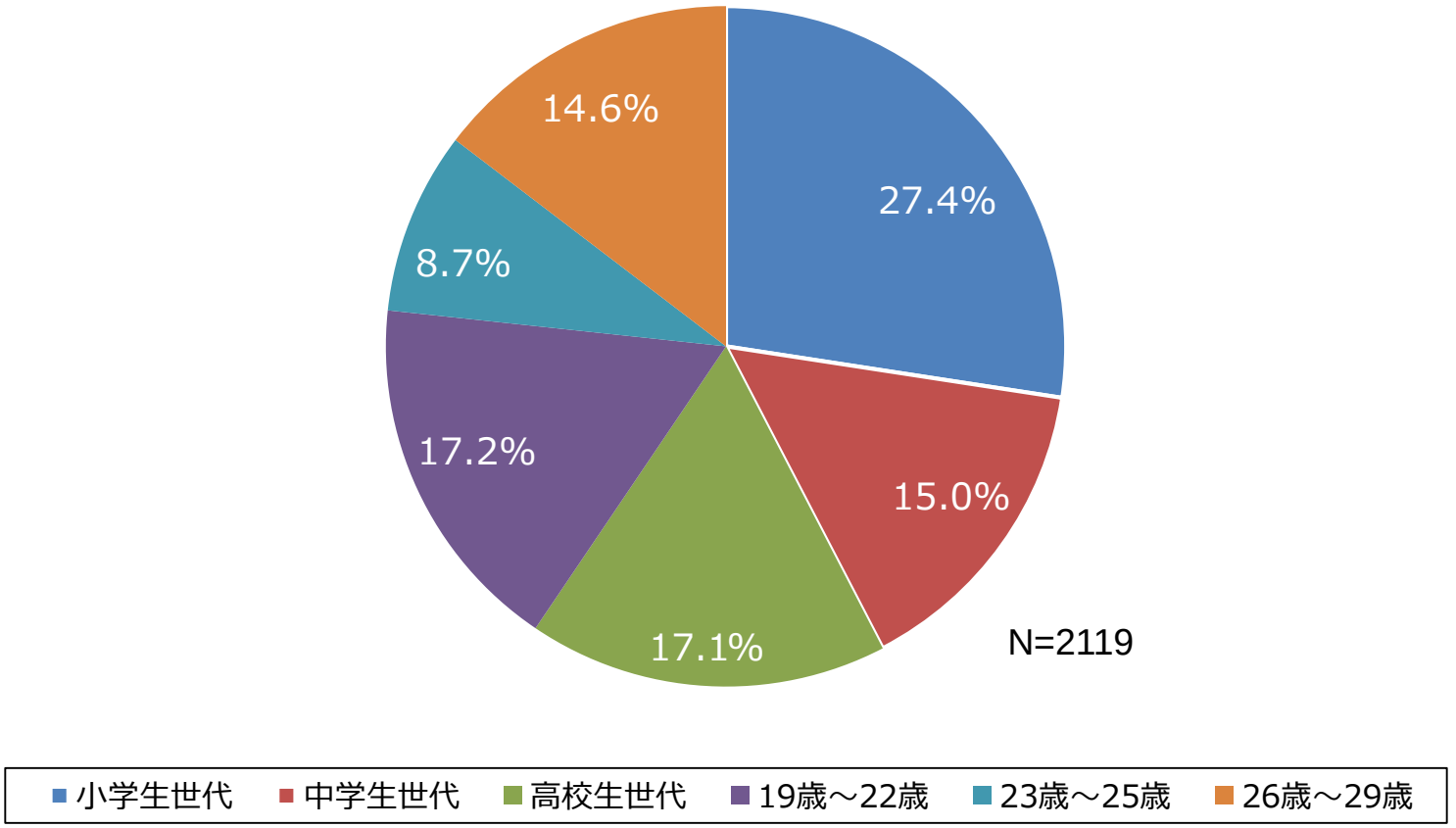
- 16.8%の回答者が内閣府「ユース政策モニター」であると答えた。
  ※ユース政策モニター：こども・若者に関する施策をより充実させるとともに、こども・若者の社会参加意識を高めるため、内閣府が小学校５年生から20代を対象に公募し、社会の様々な課題についての意見を募っている。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q2. あなたの学年／年齢を教えてください。（小学生世代、中学生世代、高校生世代、19歳～22歳、23歳～25歳、26歳～29歳）

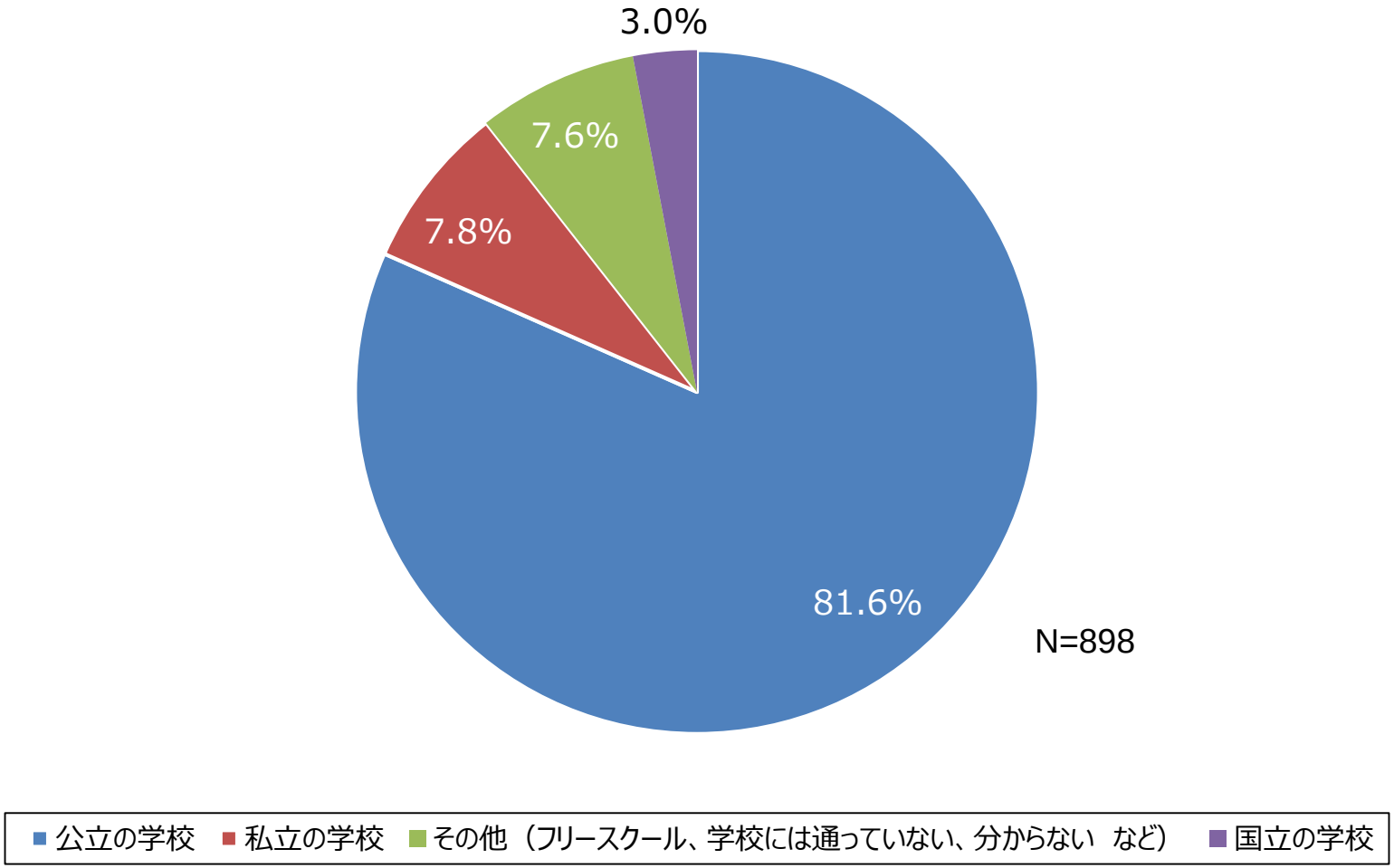
- 回答者の学年/年齢では、小学生世代（4年生以上）が27.4%と最多で、23歳～25歳が8.7%と最少であった。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q4. 【小中学生世代の方】あなたの通っている学校の種類を教えてください。

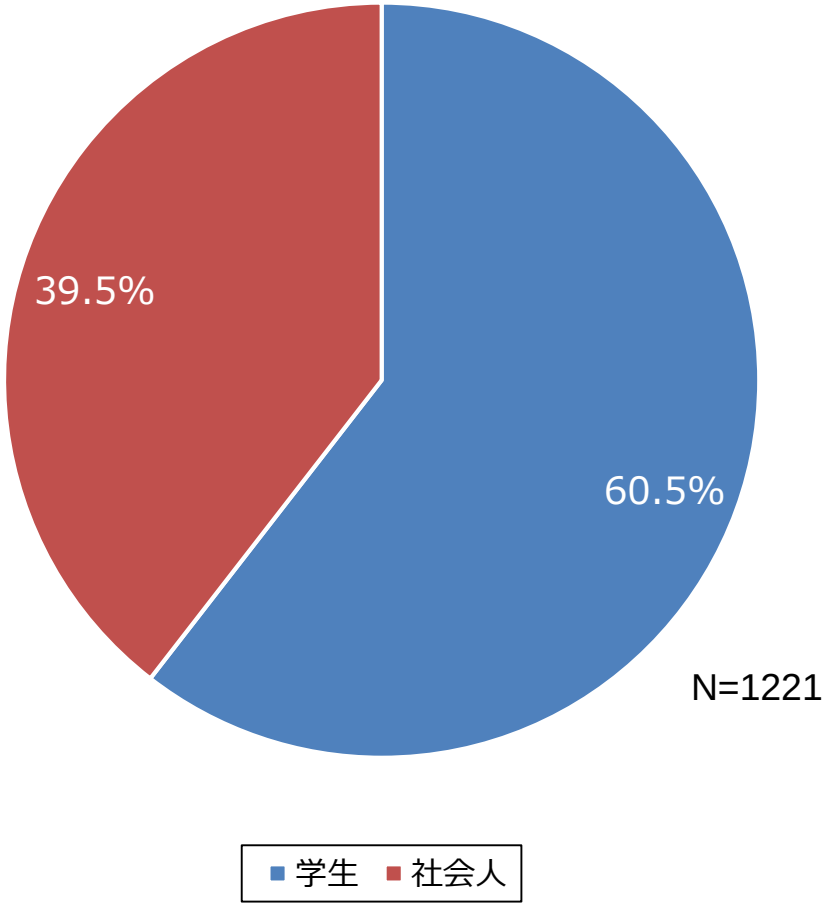
- 小中学生世代の回答者が通っている学校の種類は、公立の学校が81.6%と最多であった。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q5.【高校生世代以上の方】この先は、学生・社会人で設問内容が異なります。当てはまるどちらか一方を選んでください。

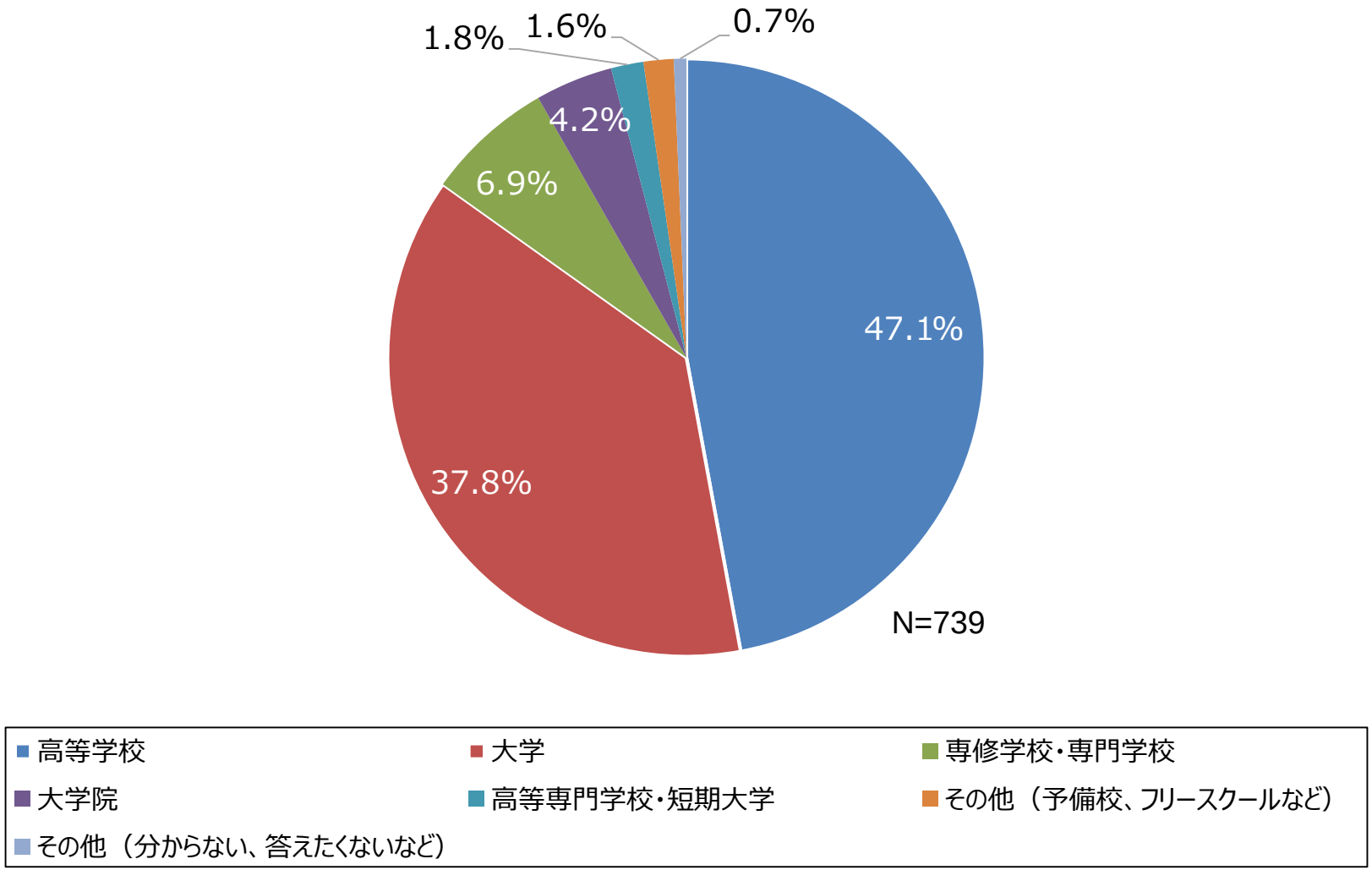
- 高校生世代以上の回答は、学生が60.5%、社会人が39.5%であった。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q6. 【学生の方】あなたが在籍している学校の種類を教えてください。

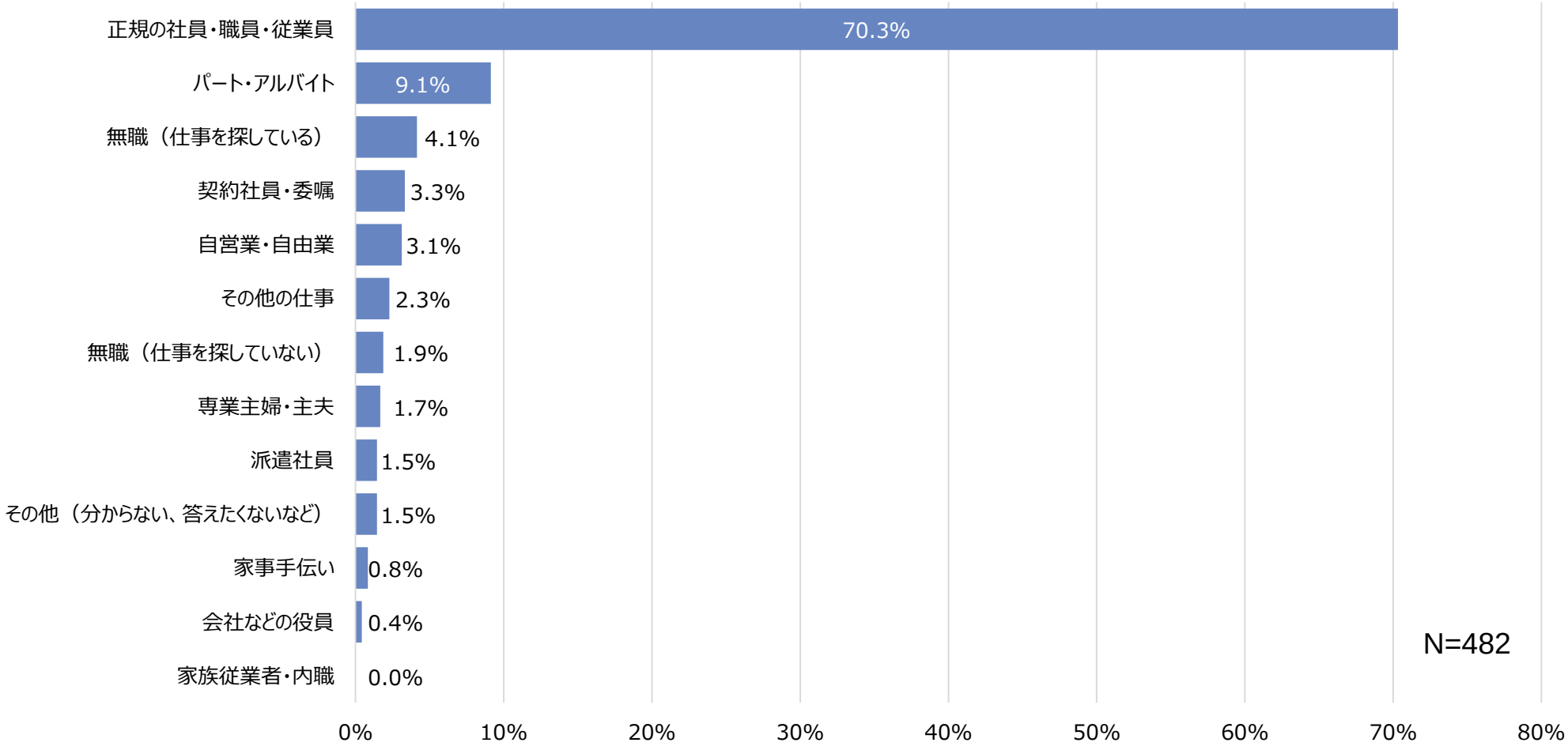
- 高校生世代以上の学生が通っている学校の種類は、高等学校が47.1%と最多で、次いで大学が37.8%と多かった。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q７．【社会人の方】あなたの現在の仕事を教えてください。

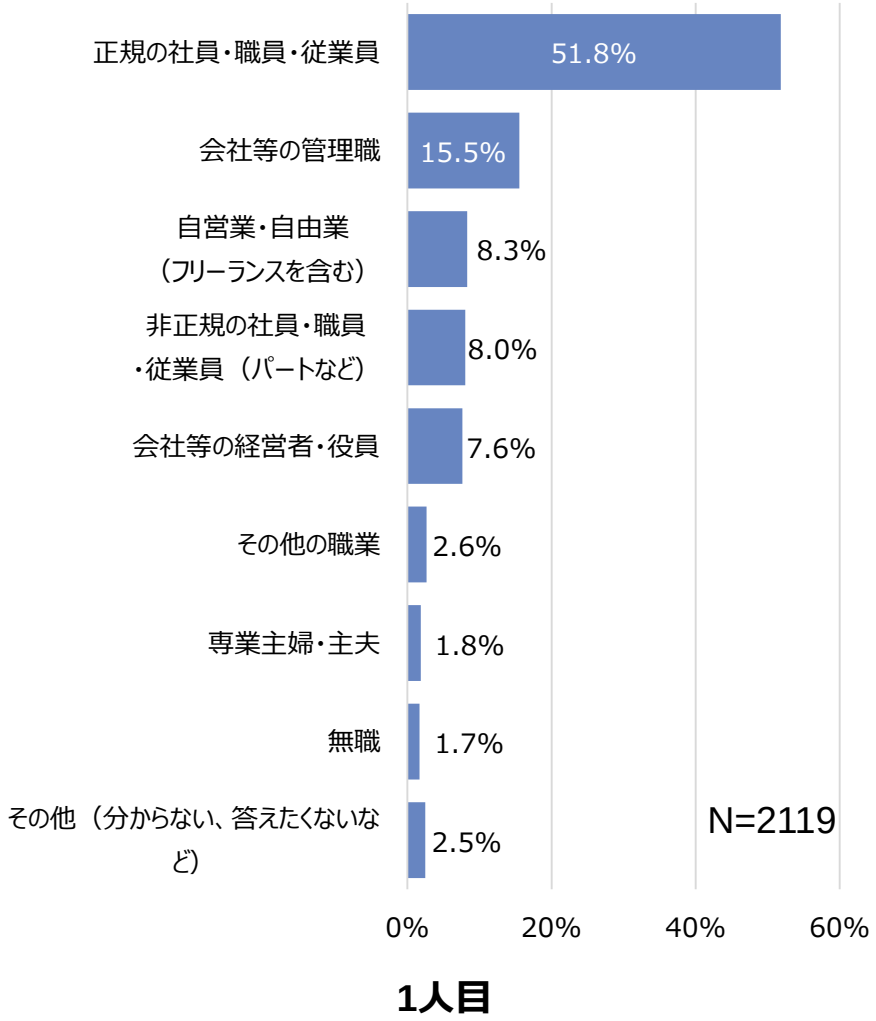
- 社会人と回答した人の仕事は、「正規の社員・職員・従業員」が70.3%と最多で、次いで「パート・アルバイト」が9.1%と多かった。



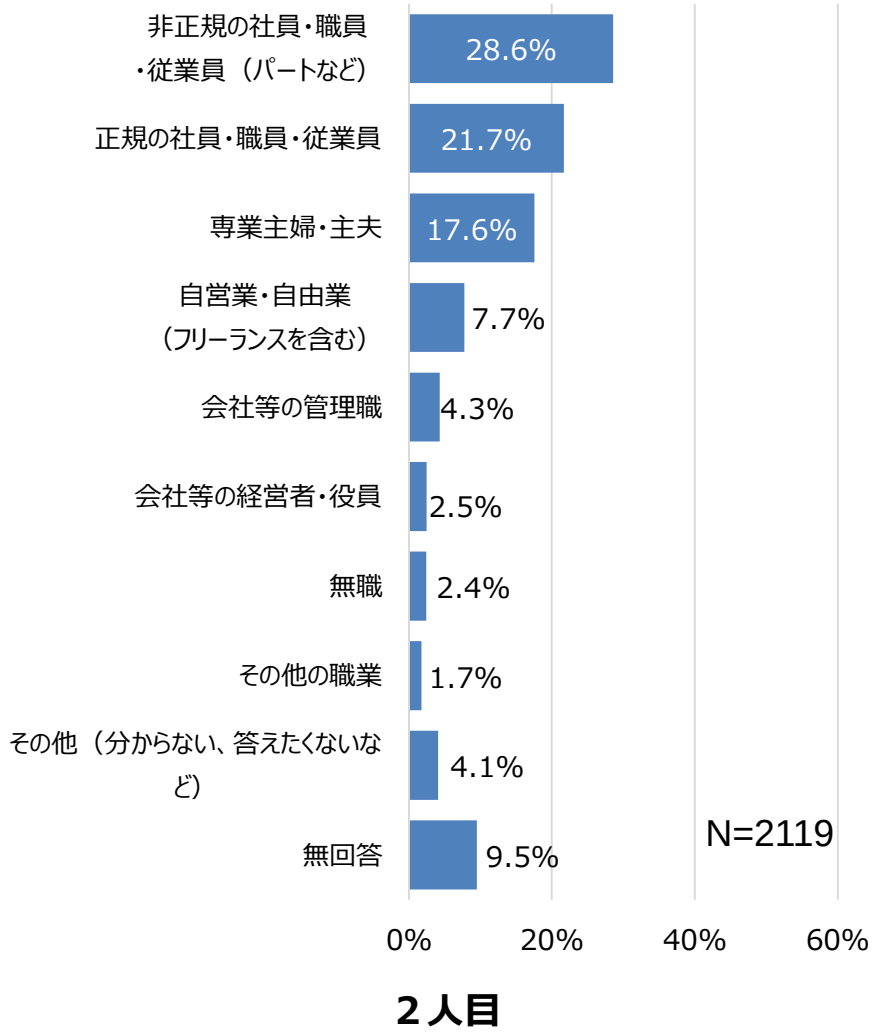
© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q8･9. あなたの保護者等の仕事を教えてください。（1人目、2人目）

- 1人目の保護者等の仕事は「正規の社員・職員・従業員」が51.8%と最多であった。
- 2人目の保護者等の仕事は「非正規の社員・職員・従業員（パートなど）」が28.6%と最多であった。



1人目

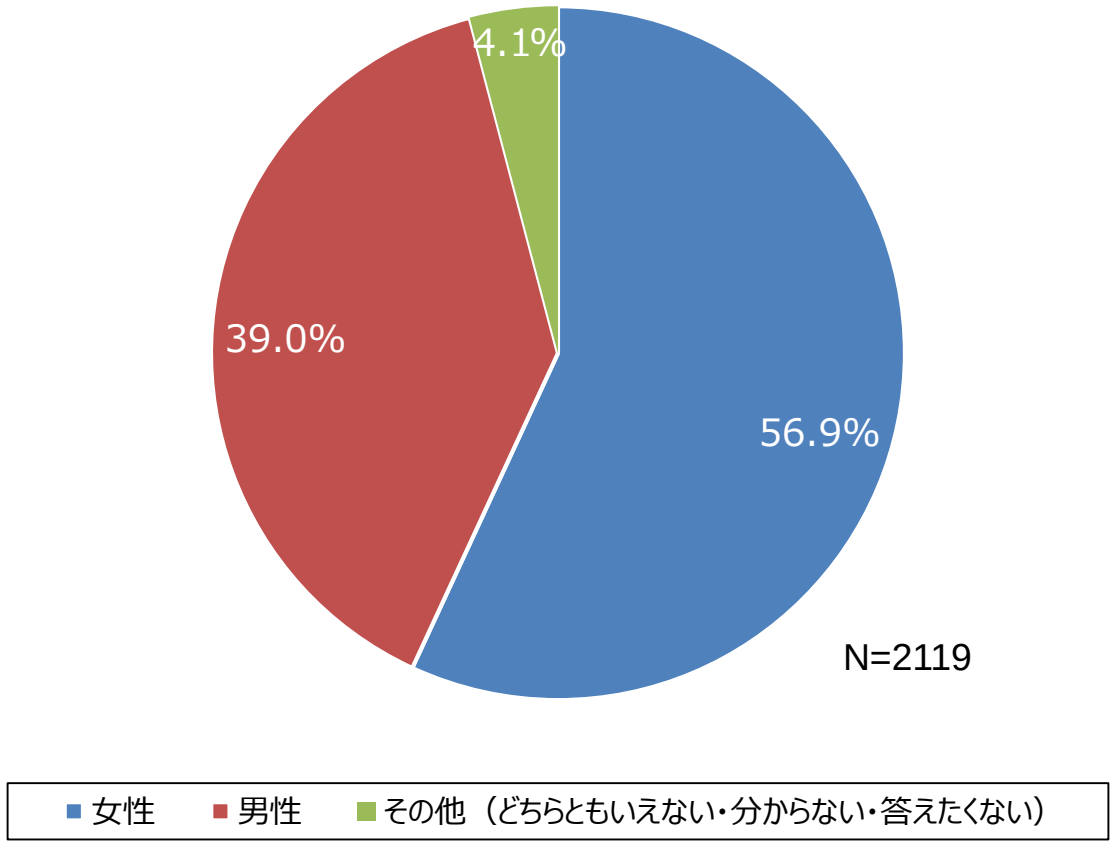


2人目

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q10. あなたの性別について教えてください。

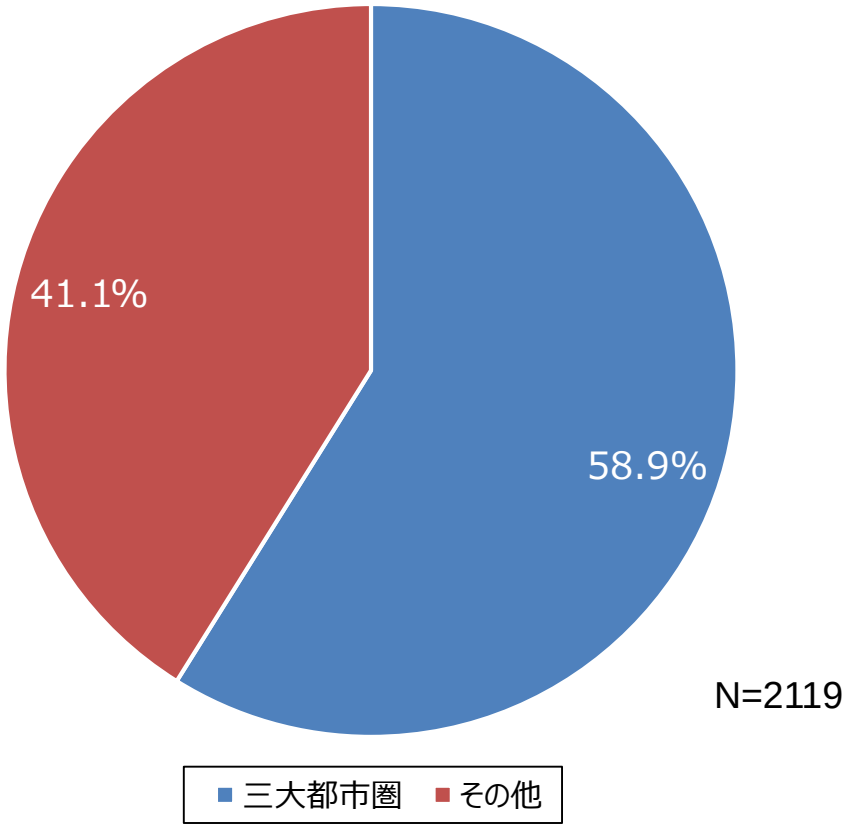
- 女性が回答者に占める割合がやや高い。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q11. あなたが住んでいる場所を教えてください。（三大都市圏、その他）

- 回答者の居住地域は三大都市圏（※）が58.9%、その他の地域が41.1%であった。

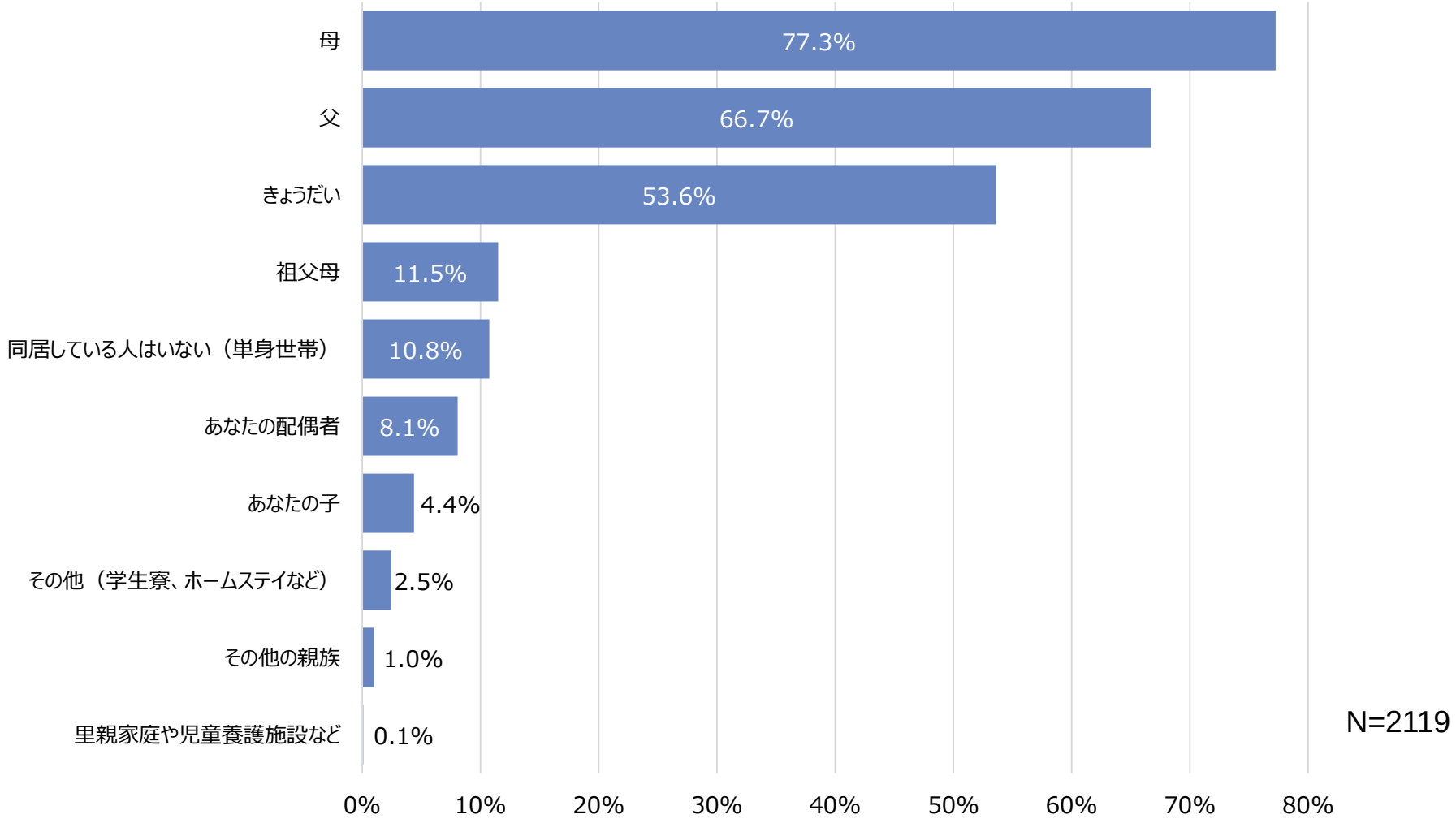


※東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、岐阜県、三重県、大阪府、兵庫県、京都府、奈良県

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q12. あなたは誰と一緒に住んでいますか。

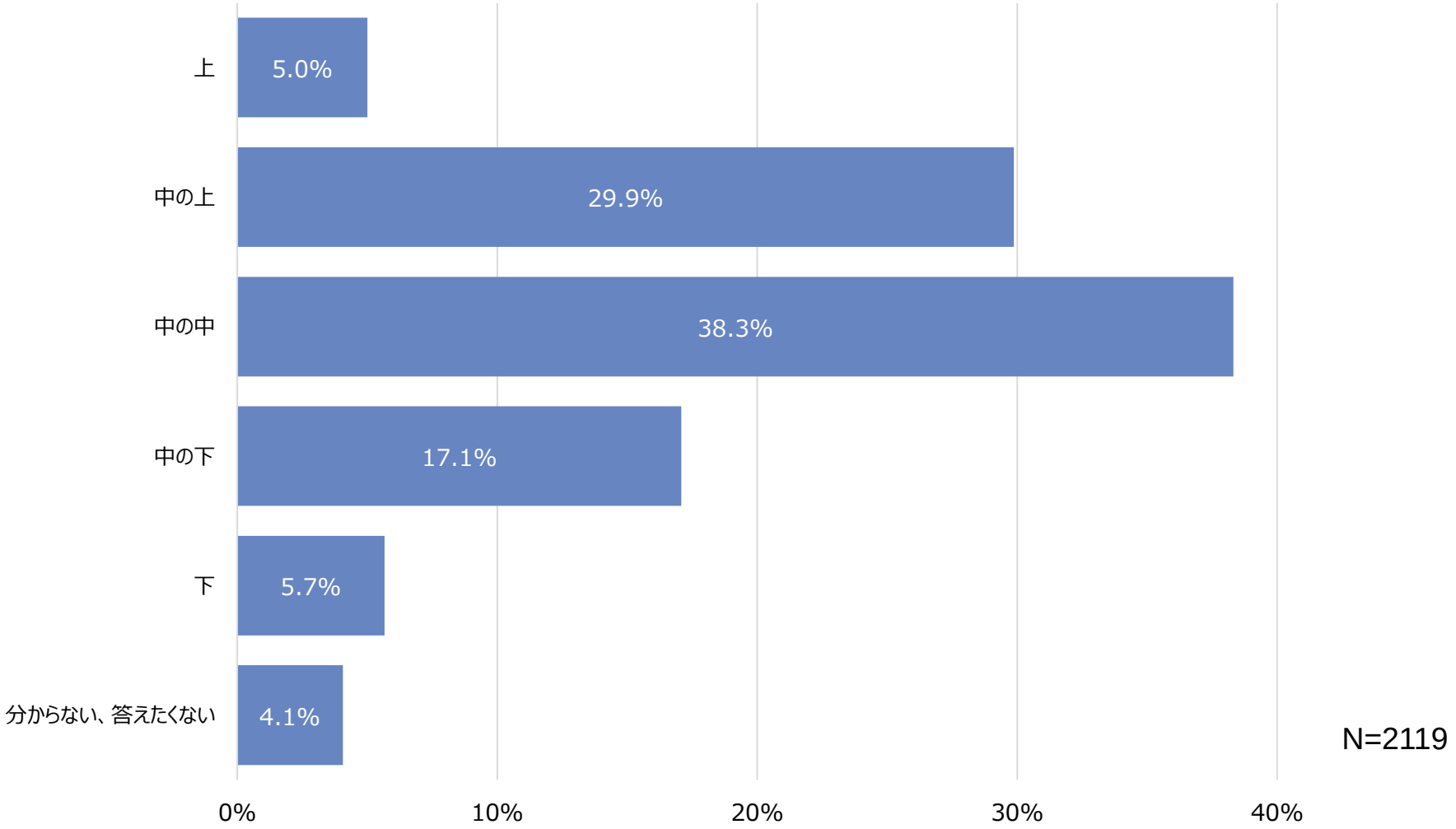
➢ 回答者が同居している人は母が77.3%と最多で、次いで父親が66.7%、きょうだいが53.6%と多かった。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q13. あなたの暮らし向き（衣・食・住・遊びなどの物質的な生活レベル）は、世間一般と比べてみて、上から下までのどれにあたると思いますか。あなたの実感でお答えください。

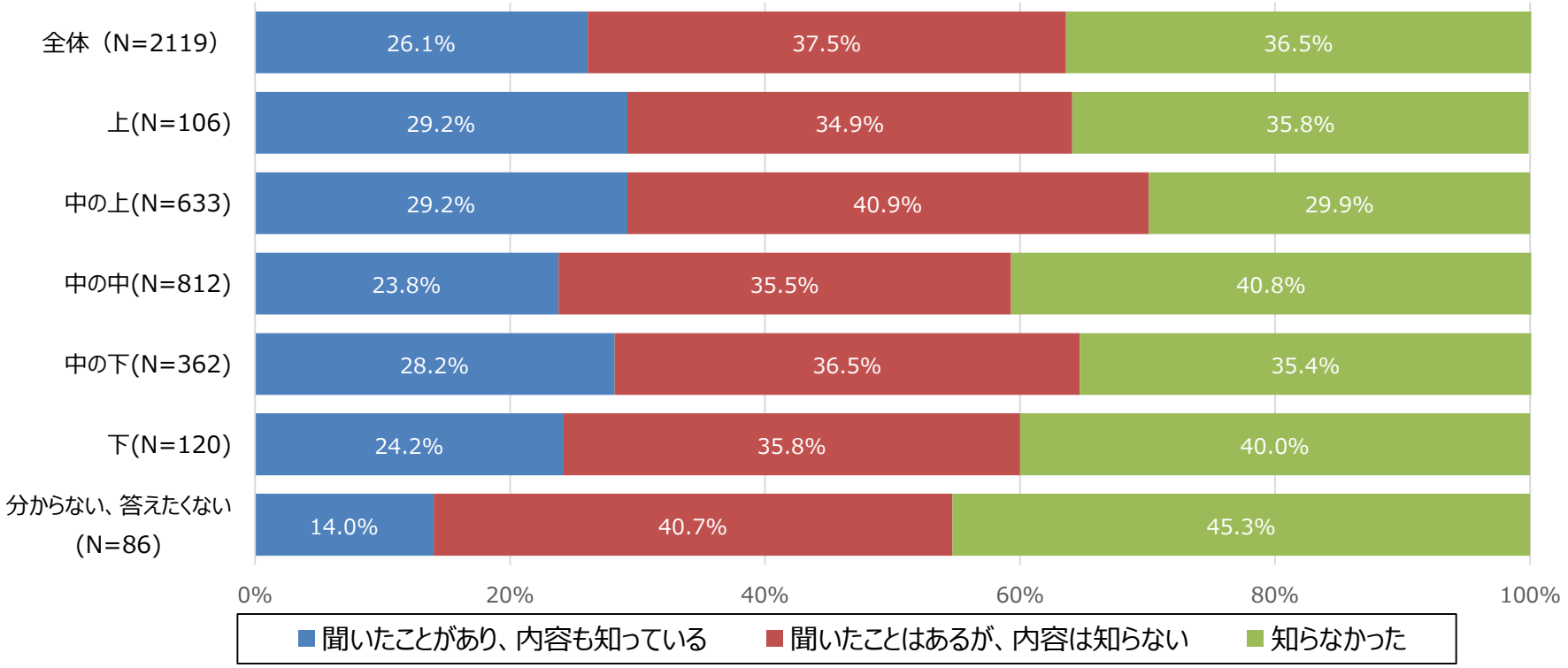
- 回答者の暮らし向きは、中の中が38.3%と最多で、次いで中の上の29.9%、中の下の17.1%が多かった。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q14. あなたは、こどもが意見を表明する権利について知っていますか。

- こどもが意見を表明する権利に対する認知度は、「聞いたことはあるが内容は知らない」が37.5%と最多で、「聞いたことがあり、内容も知っている」が26.1%と最少であった。また、「知らなかった」は36.5%であった。
- 「暮らし向き」（Q13）の回答で比較すると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は「上」、「中の上」で最多であった。



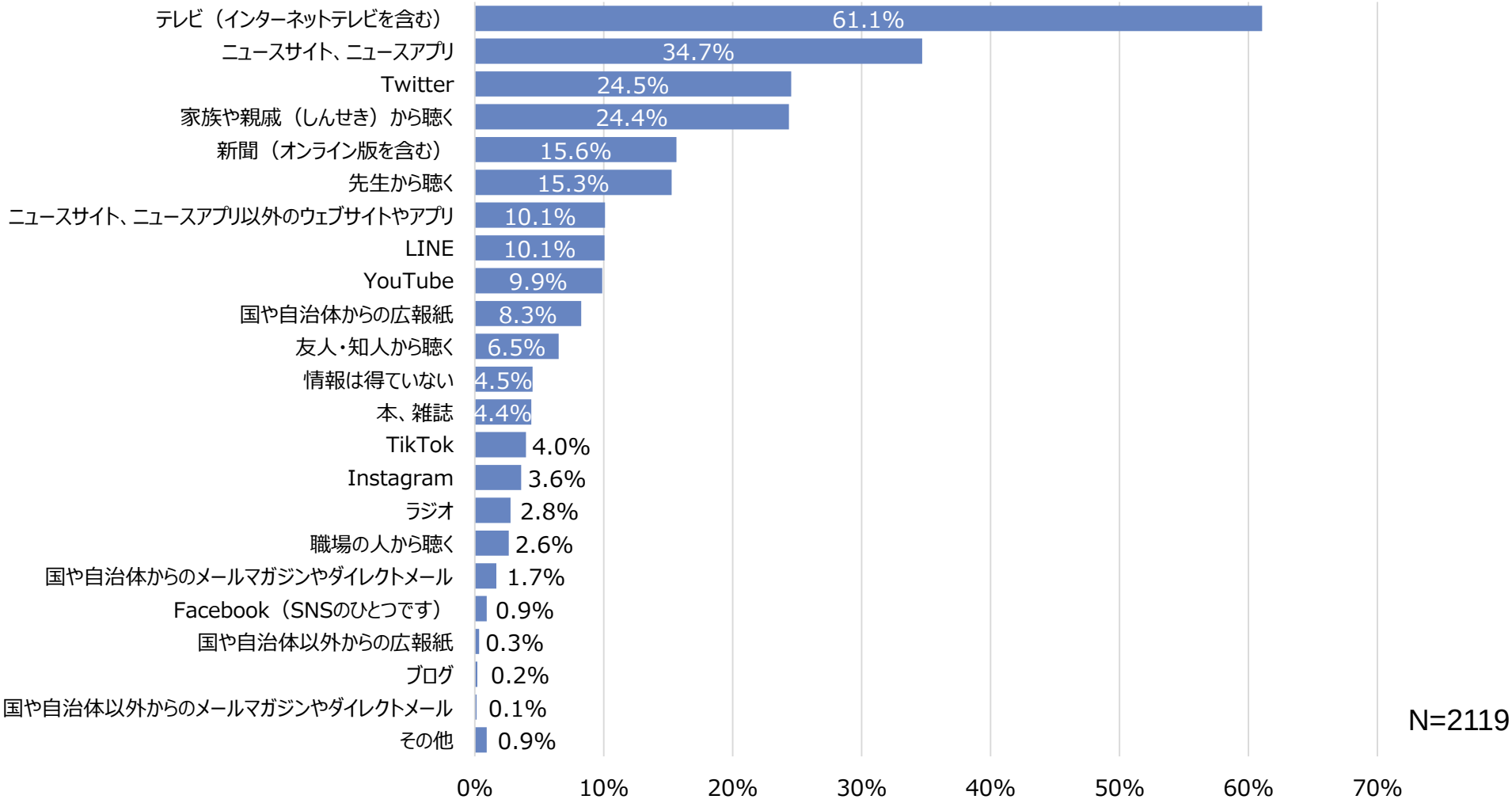
クロス集計（暮らし向き）

※こどもが意見を表明する権利について（アンケートに記載した説明文）：
児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）第12条では、こどもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっていると規定されています。その意見は、こどもの発達に応じて、じゅうぶん考慮（こうりょ）されなければなりません。

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q15. 国や自治体（こども家庭庁などの国の機関や都道府県庁、市区町村の役所・役場など）では、社会のみなさんの生活をより良くするため、様々な制度や政策に取り組んでいます。あなたは、ふだん国や自治体の制度や政策について、どのように情報を得ていますか。主なものを３つまで選んでください。

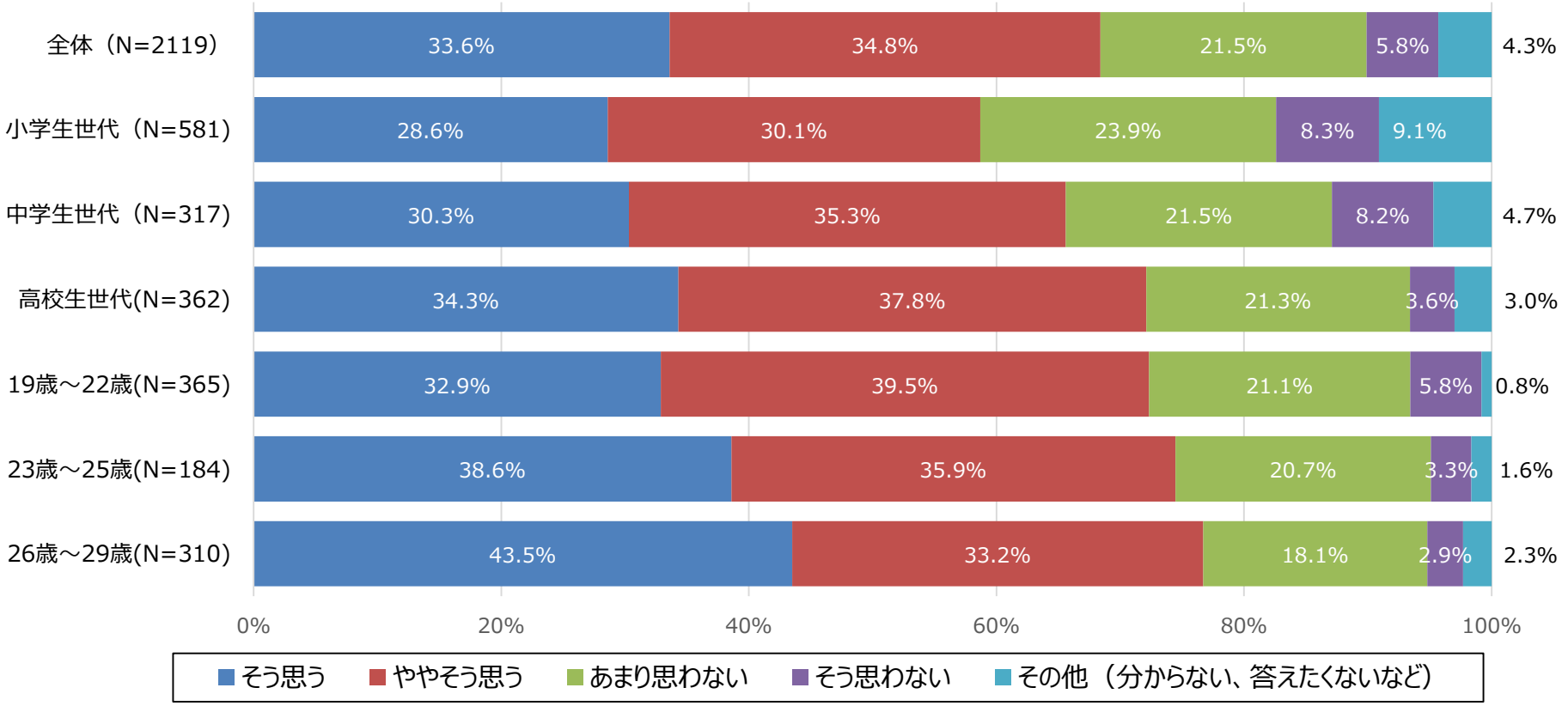
- 国や自治体の制度や政策に関する情報収取方法は「テレビ（インターネットテレビを含む）」が61.1%と最多で、次いで「ニュースサイト、ニュースアプリ」が34.7%と多かった。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q16. あなたは、国や自治体の制度や政策について思ったことや意見を、国や自治体に伝えたいと思いますか。

- 全回答者では「ややそう思う」が34.8%と最多で、次いで「そう思う」の33.6%、「あまり思わない」の21.5%が多かった。
- 年代で比較すると、年代が高くなるほど「そう思う」「ややそう思う」の合計割合は増加する傾向にあった。

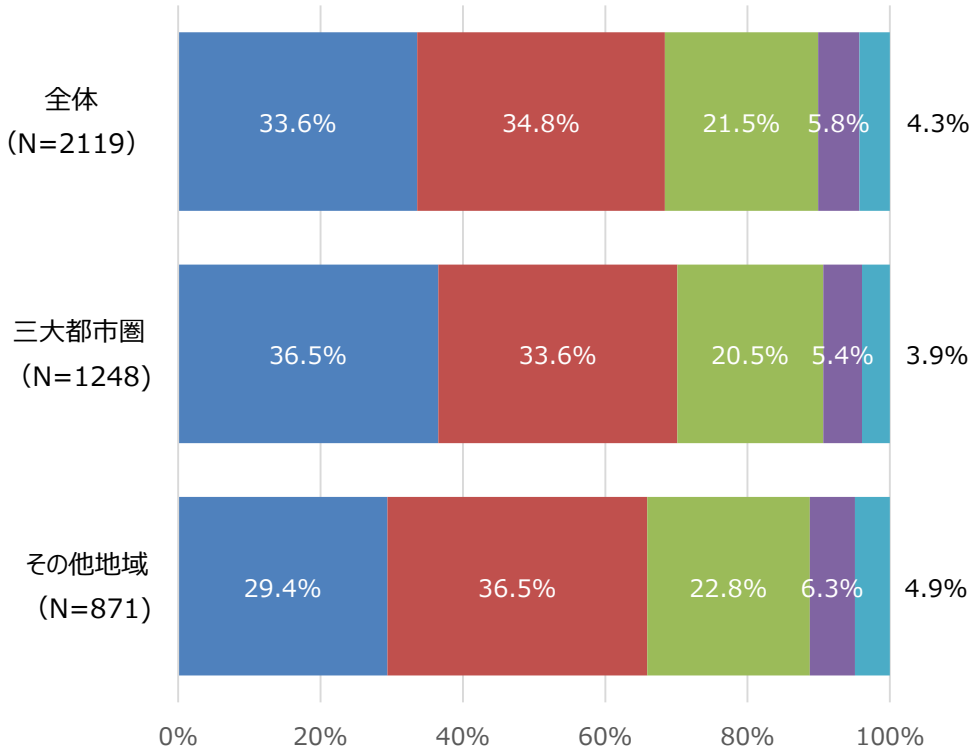


クロス集計（年代）

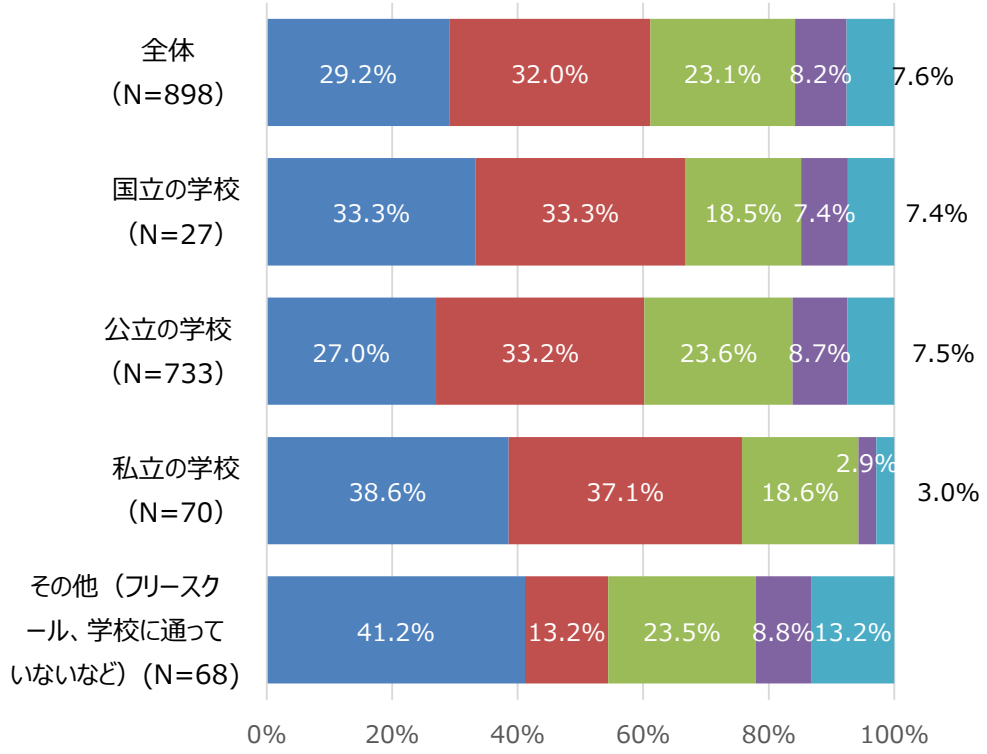
© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q16. あなたは、国や自治体の制度や政策について思ったことや意見を、国や自治体に伝えたいと思いますか。

- 居住地域で比較すると、「そう思う」「ややそう思う」の合計割合は三大都市圏でやや高かった。
- 学校の種類で比較すると、「そう思う」「ややそう思う」の合計割合は私立の学校で最多で、その他（フリースクール、学校に通っていないなど）で最小であった。



クロス集計（居住地域）



クロス集計（学校の種類）

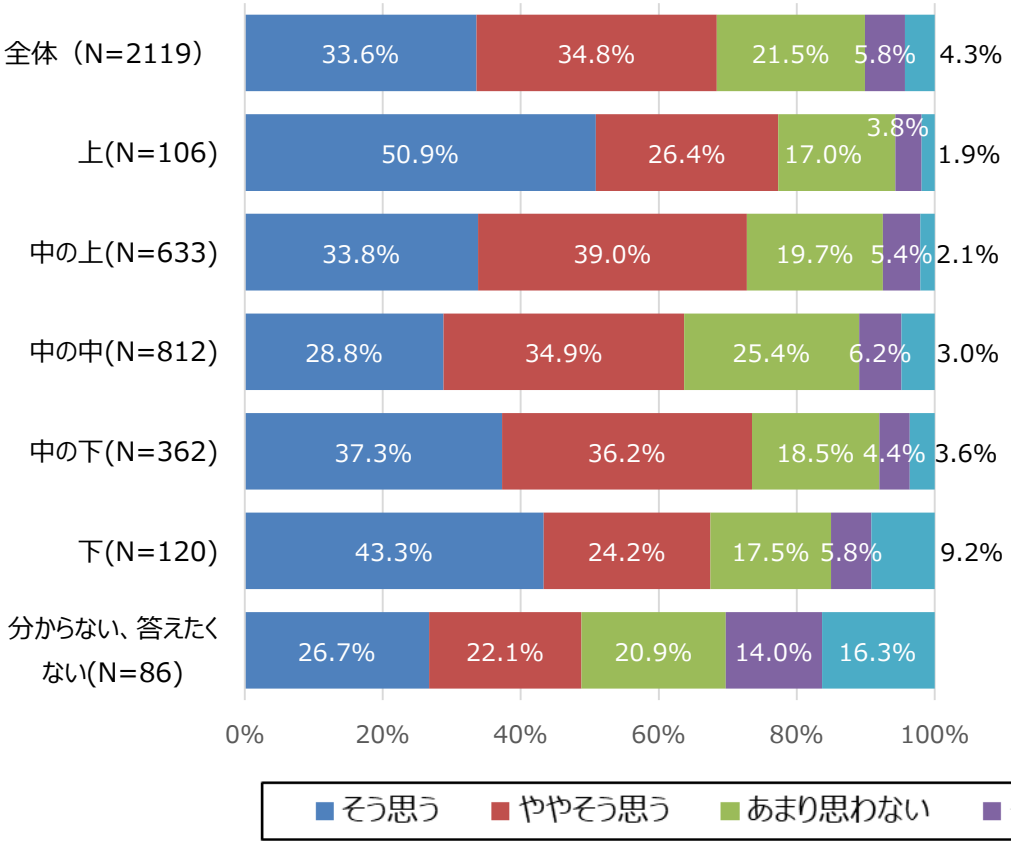
※N=30以下は参考値

■そう思う ■ややそう思う ■あまり思わない ■そう思わない ■その他（分からない、答えたくないなど）

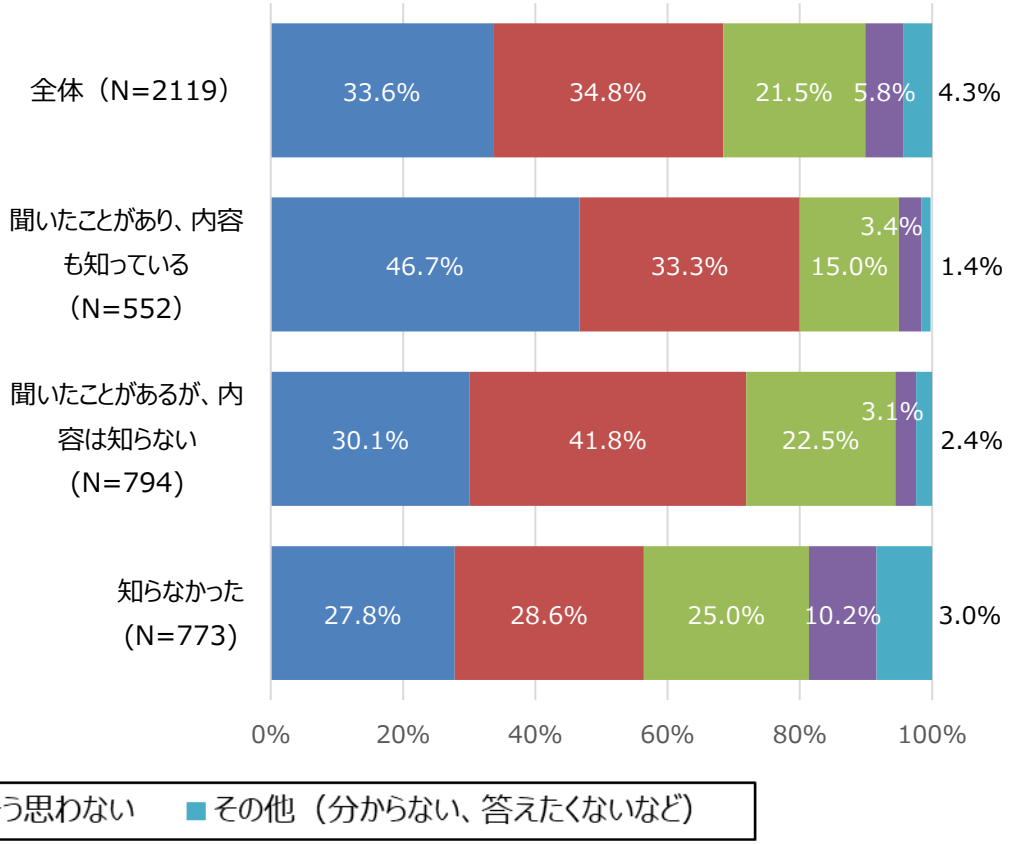
© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q16. あなたは、国や自治体の制度や政策について思ったことや意見を、国や自治体に伝えたいと思いますか。

- 「暮らし向き」で比較すると、国や自治体に意見を伝える意欲は「上」、「下」、「中の下」の順に高い。
- こどもが意見を表明する権利の認知度で比較すると、認知度が高くなるほど「そう思う」「ややそう思う」の合計割合は増加する傾向にあった。



クロス集計（暮らし向き）

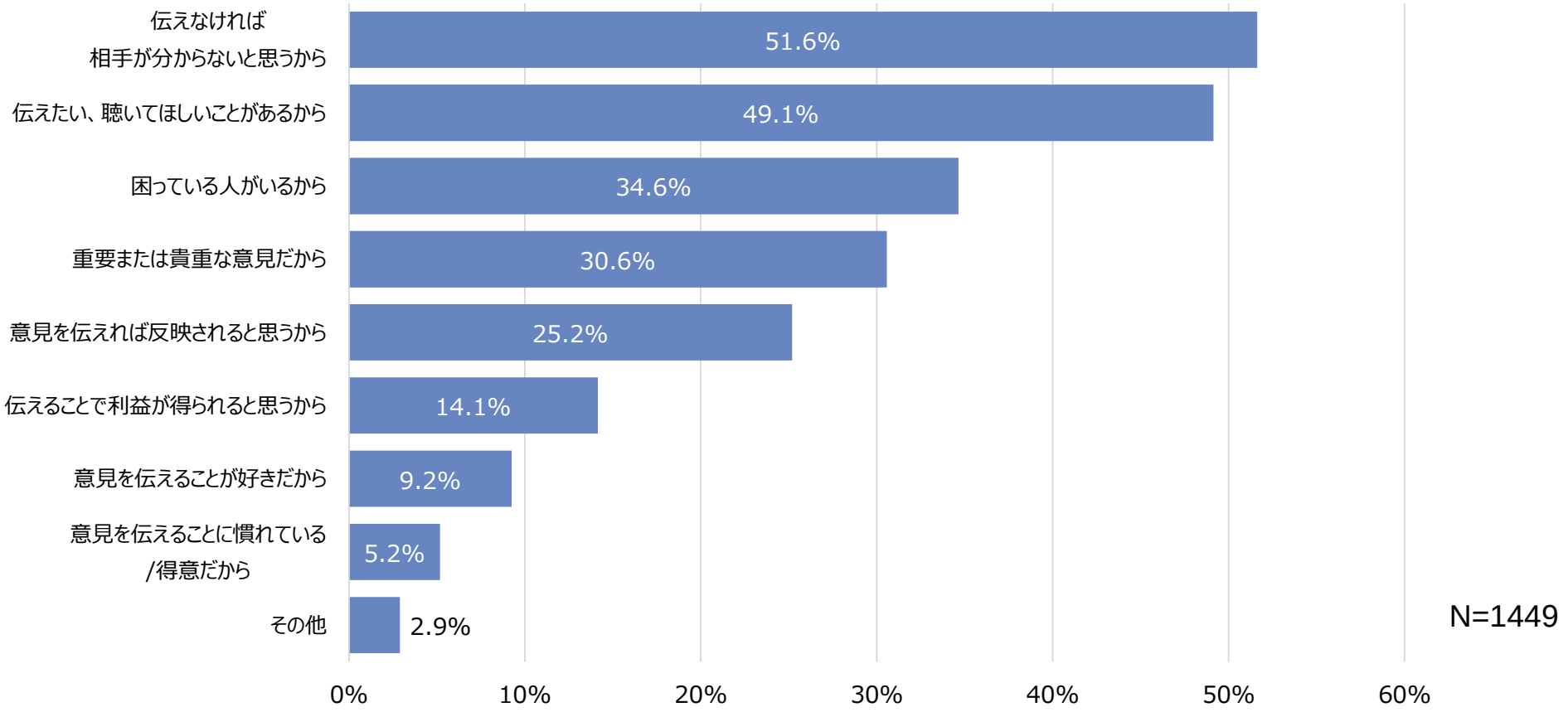


クロス集計
（こどもが意見を表明する権利の認知度）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q17.【「そう思う」「ややそう思う」と回答した人に対して】そう答えたのはどうしてですか。当てはまるものを全て選んでください。

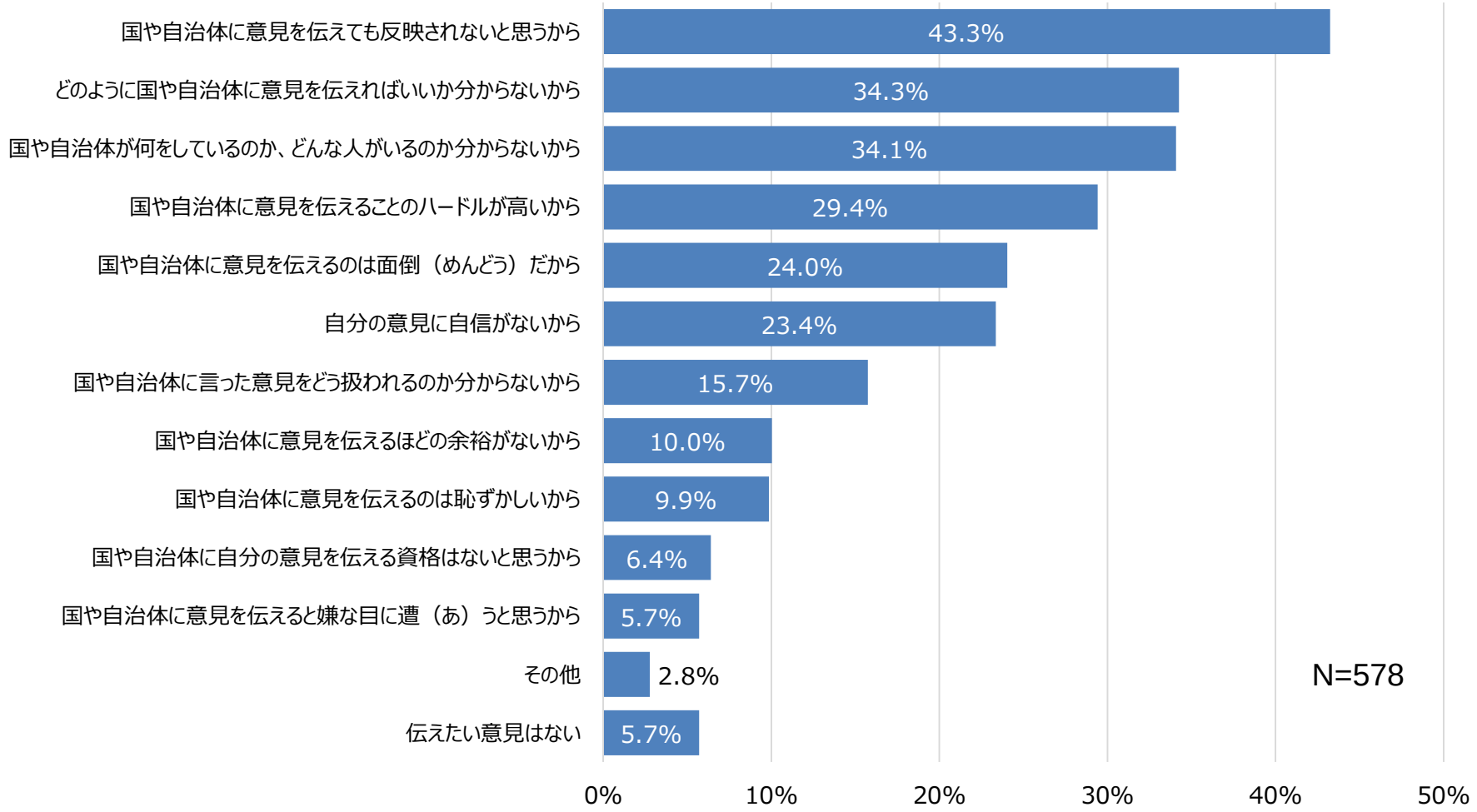
- 「そう思う」「ややそう思う」理由としては、「伝えなければ相手が分からないかと思うから」が51.6%と最多で、次いで「伝えたい、聴いてほしいことがあるから」が49.1%と多かった。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q18.【「あまり思わない」「そう思わない」と回答した人に対して】そう答えたのはどうしてですか。当てはまるものを全て選んでください。

- 「あまり思わない」「そう思わない」理由としては、「国や自治体に意見を伝えても反映されないと思うから」が43.3%と最多で、次いで「どのように国や自治体に意見を伝えればよいか分からないから」、「国や自治体が何をしているのか、どのような人がいるのか分からないから」が多かった。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q16～18.「その他」回答抜粋

- 国や自治体の制度や政策について意見を伝えることに関する「その他」の回答としては、年代を問わず「伝えてもどうせ実現しない」という無力感や「それでも伝えないと分かってもらえないから伝えたい」という思いが数多く寄せられている。また、20代前後の年齢層からは、意見を伝えることに前向きな声も寄せられている。

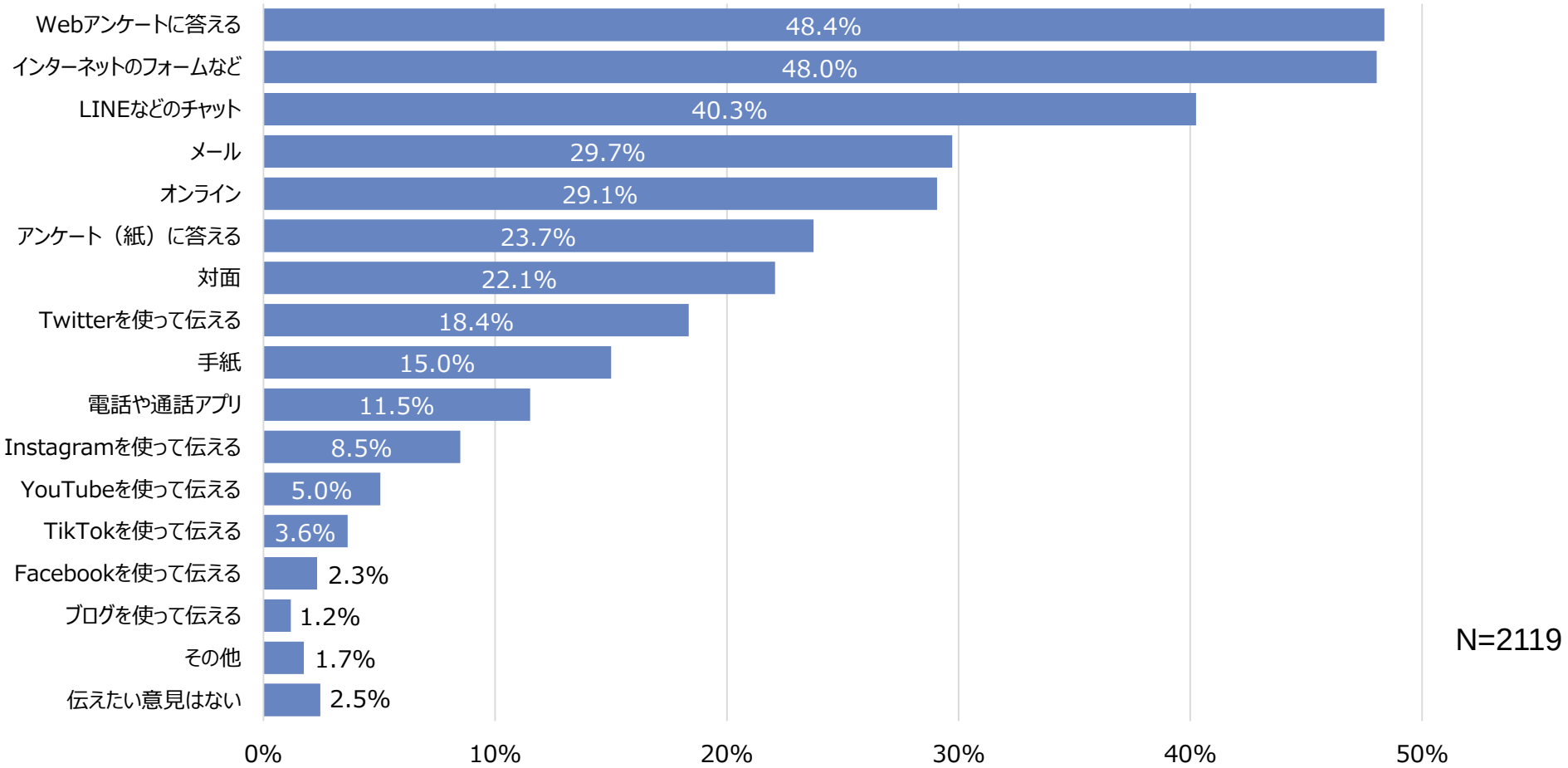
その他の回答

カテゴリ	こども・若者の意見
意見を伝えたいが不信感もある	● 伝えたところで、ほとんど反映されないが、言う場がないとそもそも全く知られないし、見向きもされないとおもう。（アンケート/小学生） ● 伝えたいと思うが、聴いても実現するとは思えない。（アンケート/高校生） ● 伝えたいと思うけど、選挙権がまだないから意見は反映されないし、高齢者の票が多い分、高齢者を優先した政策になってしまうと思う。（アンケート/高校生） ● 伝えたいとは思うがそれによって不都合が生まれたり、相談したとしても適当に聞き流されて終わりなのではないかと思ってしまう。（アンケート/26歳～29歳）など
意見を伝えることに前向き	● 自分の考えが誰かの役に立てたら嬉しい。（アンケート/19～22歳） ● 周り回って自分に返ってくるとやっとわかった。（アンケート/26～29歳） ● 伝えるプロセスそのものが自身の成長の糧になる。（アンケート/26～29歳）など

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q19. どのような方法や手段があれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。

- 意見を伝えやすい方法や手段は、「Webアンケートに答える」が48.4%と最多で、次いで「インターネットのフォームなど」「LINEなどのチャット」が多かった。

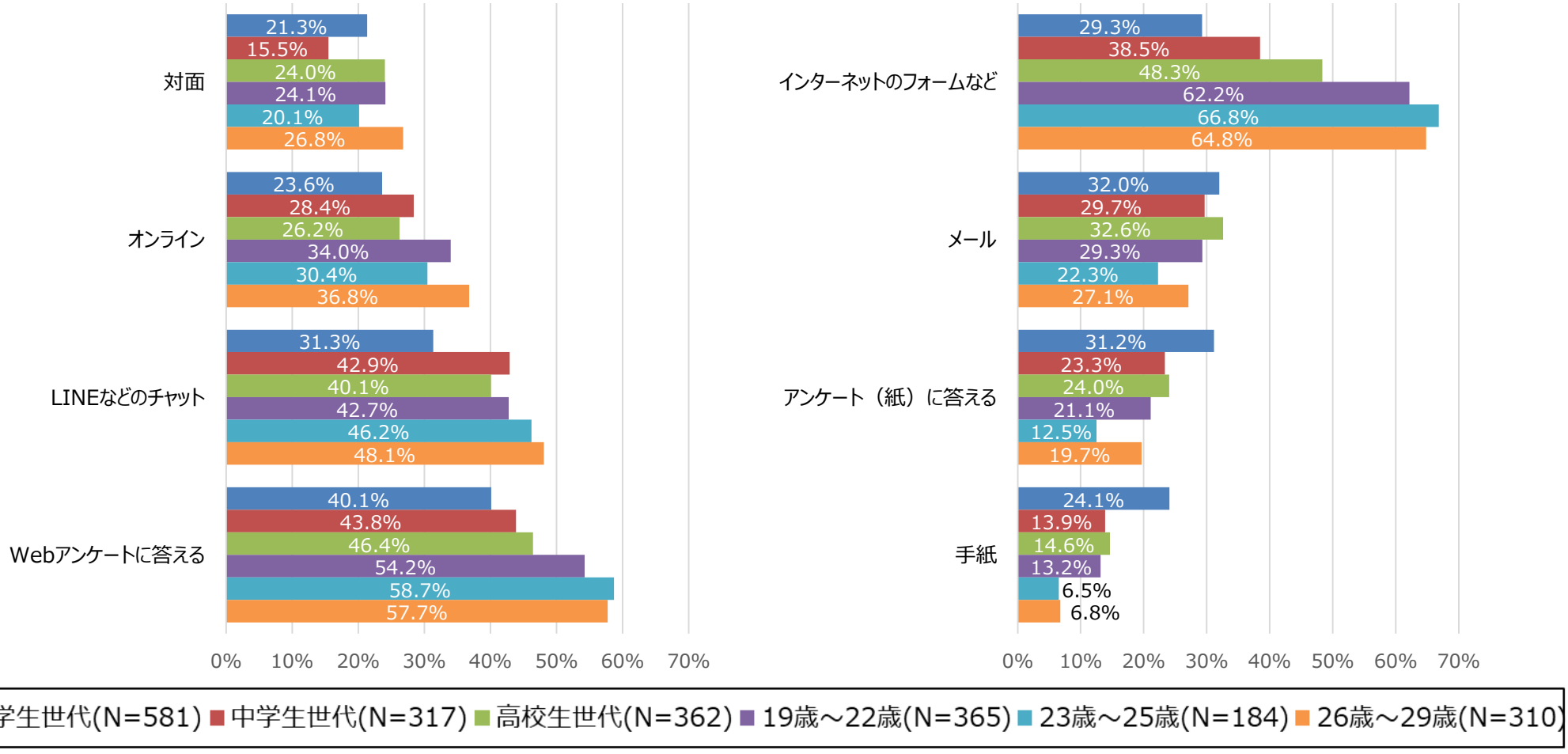


単純集計

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q19. どのような方法や手段があれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。

- 「対面」「オンライン」「LINEなどのチャット」「Webアンケートに答える」「インターネットのフォームなど」の回答割合は、年代が高いほど大きくなる傾向があり、「メール」「アンケート（紙）に答える」「手紙」の割合は、年代が低いほど大きくなる傾向があった。

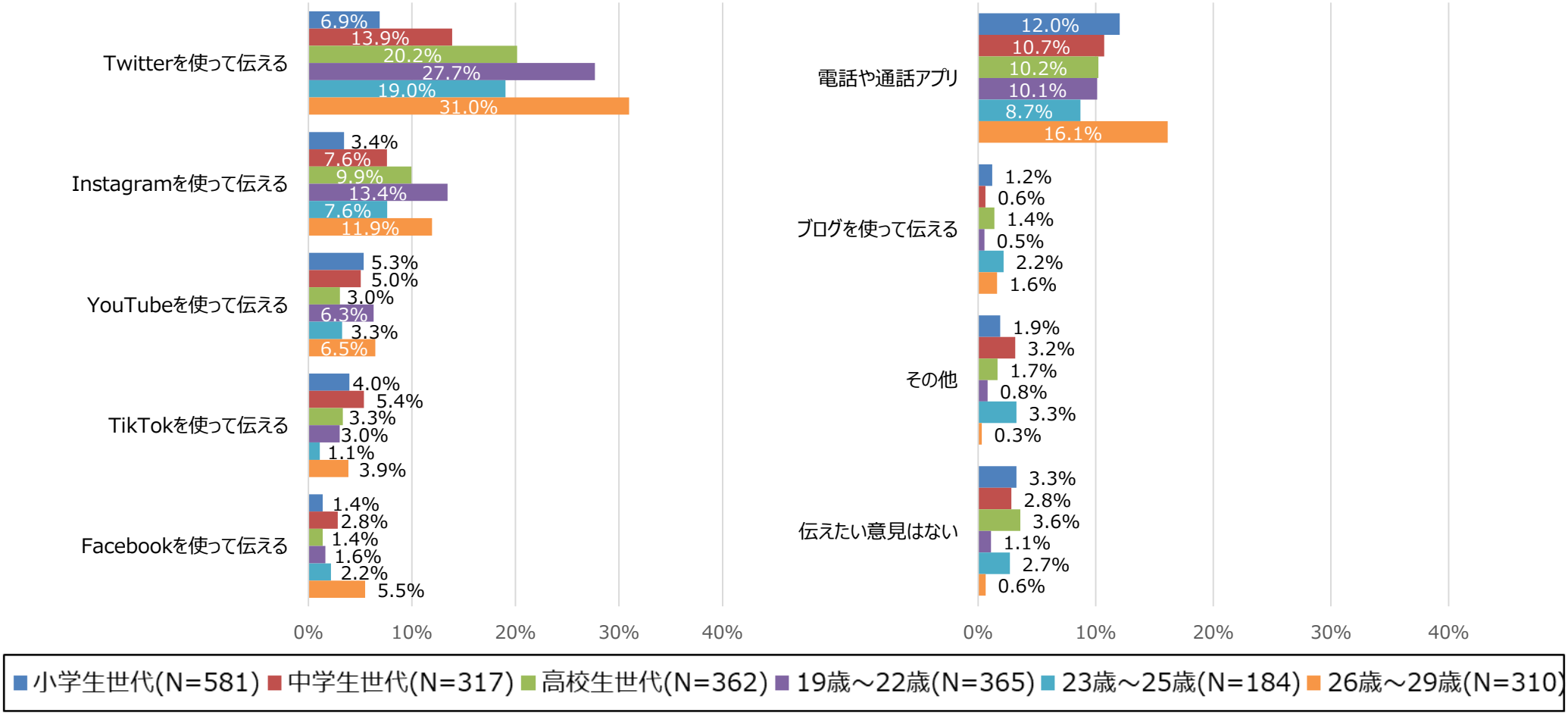


クロス集計（年代）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q19. どのような方法や手段があれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。

- 「Twitter」「YouTube」「Facebook」では26～29歳が最多、「Instagram」では19歳～22歳が最多、「TikTok」では中学生世代が最多であった。
- 「電話や通話アプリ」は26歳～29歳の割合が最多であった。

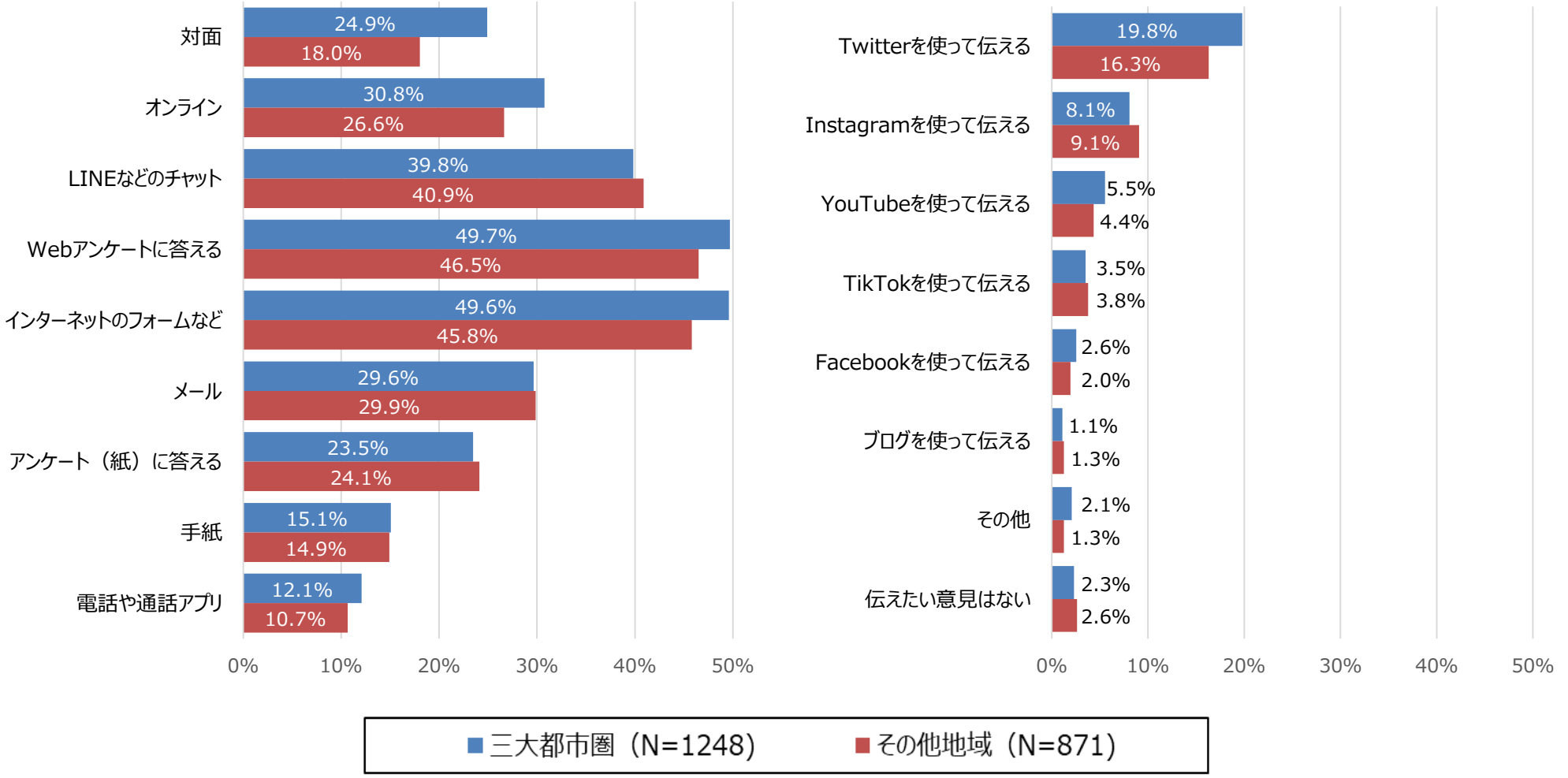


クロス集計（年代）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q19. どのような方法や手段があれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。

- 居住地域による差が最も大きかったのは「対面」で三大都市圏の方が6.9%高かった。
- 2番目に差が大きかったのは「オンライン」で三大都市圏の方が4.1%高かった。

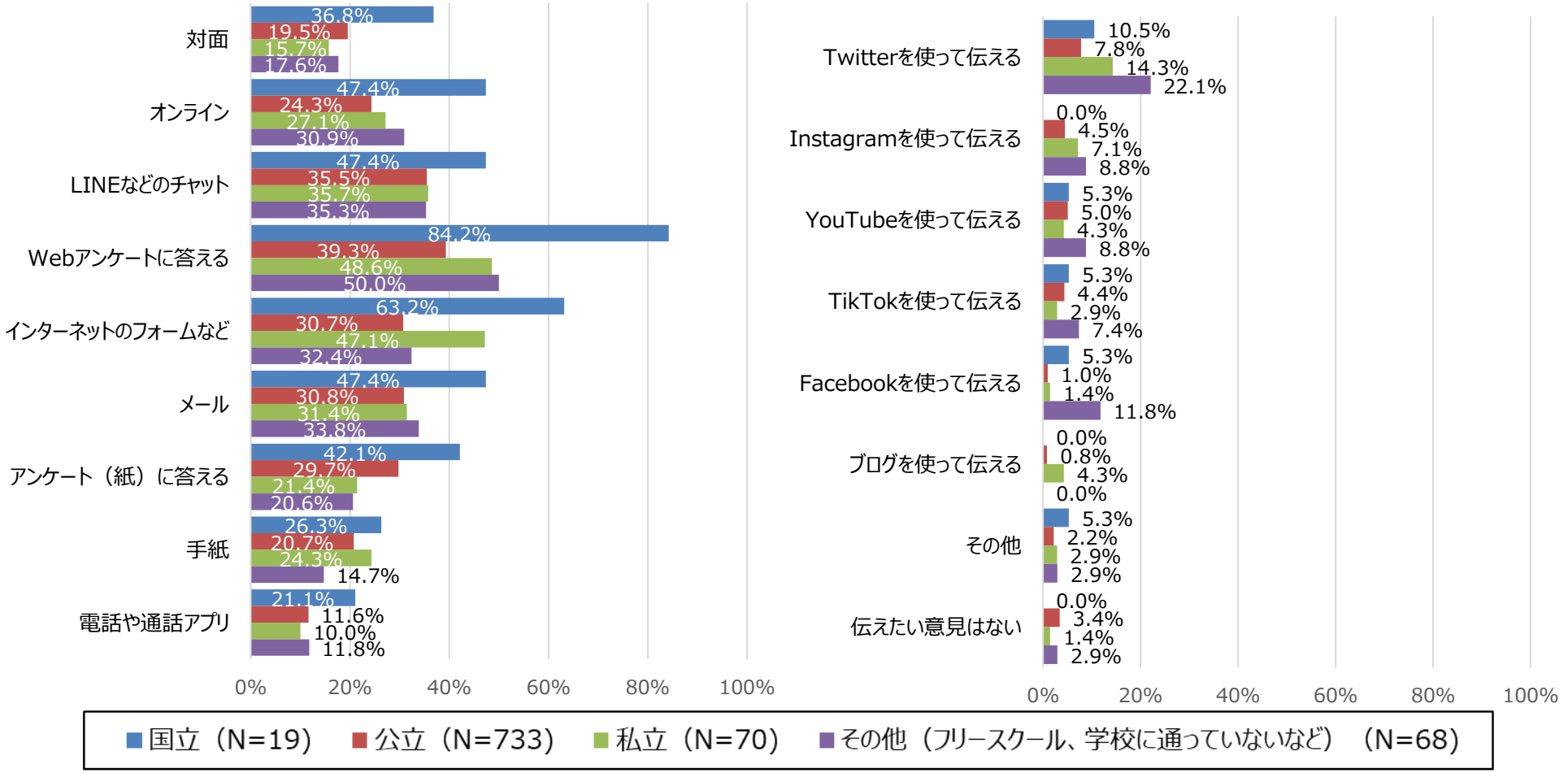


クロス集計（居住地域）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q19. どのような方法や手段があれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。

- 学校の種類による差が最も大きかったのは「インターネットのフォームなど」であり、私立が公立よりも16.4%高かった。（参考値を除く）
- 2番目に差が大きかったのは「Twitterを使って伝える」であり、回答割合が最も高い「その他（フリースクール、学校に通っていないなど）」が、回答割合が最も低い公立よりも14.3%高かった。（参考値を除く）



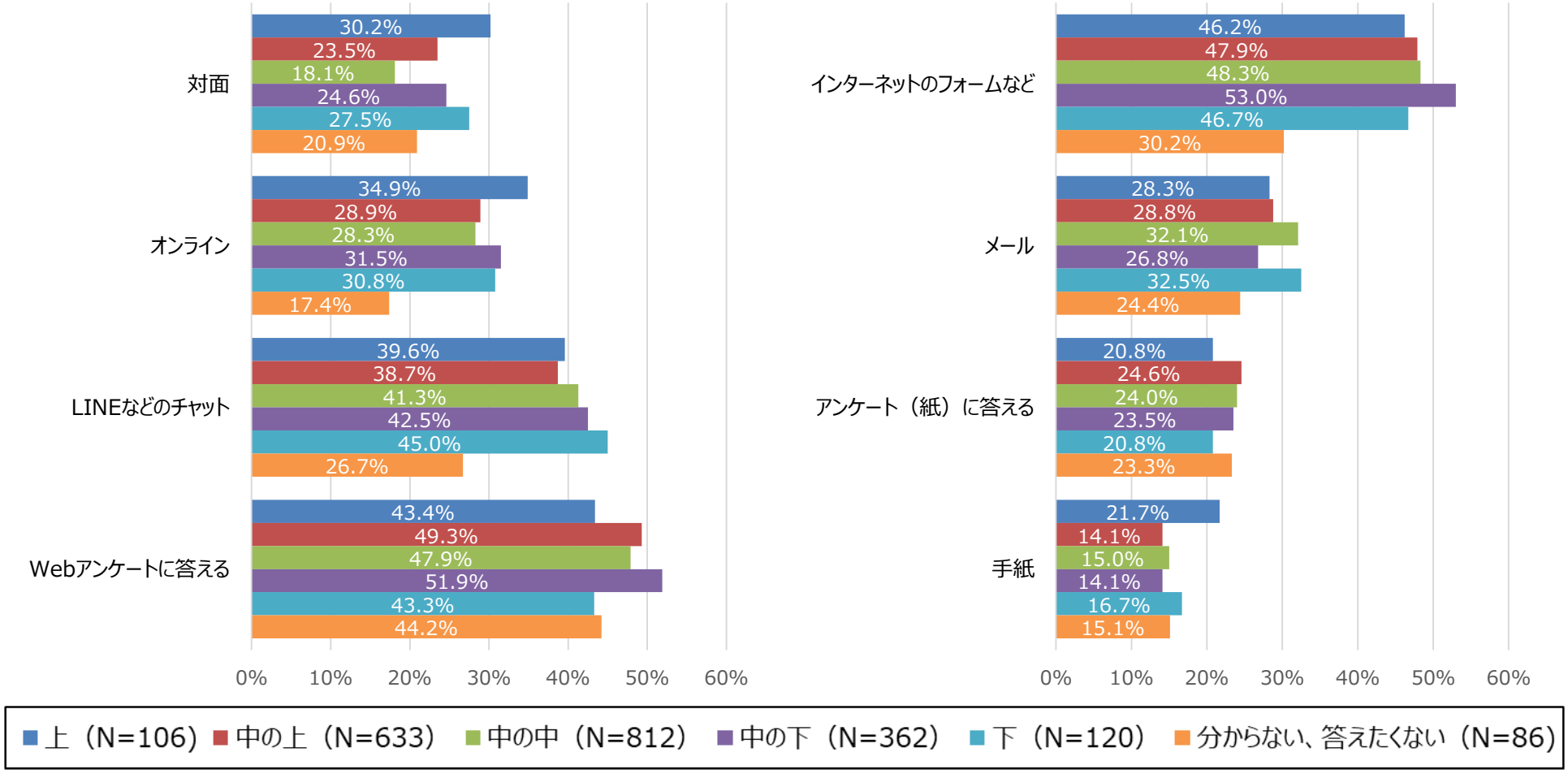
クロス集計（学校の種類）

※N=30以下は参考値

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q19. どのような方法や手段があれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。

- 「暮らし向き」で比較すると、「対面」では最多の「上」が最小の「中の中」よりも12.1%高かった。
- 「LINEなどのチャット」は「上」から「下」に向かうにつれて割合が大きくなる傾向があった。

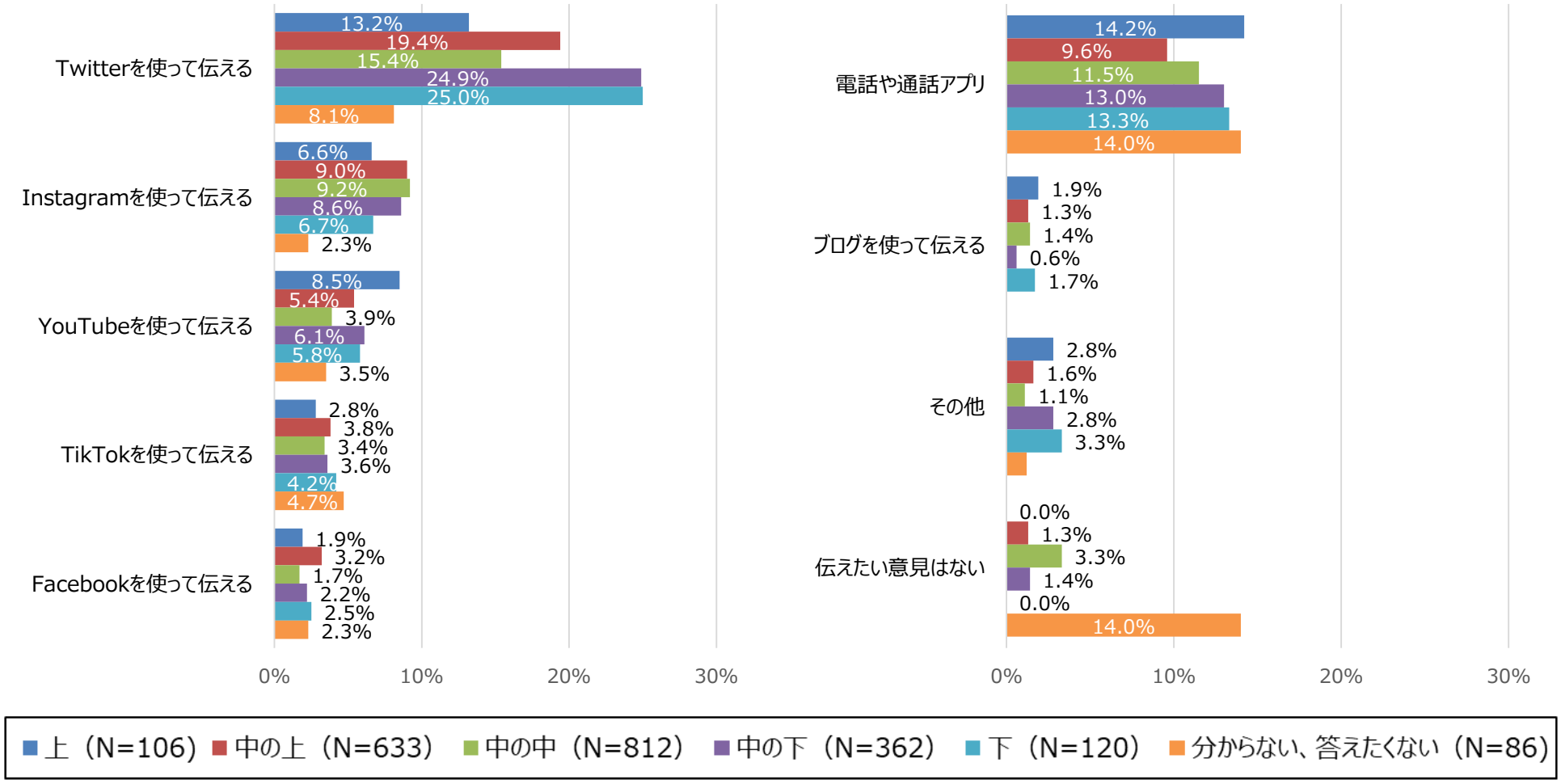


クロス集計（暮らし向き）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q19. どのような方法や手段があれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。

- 「暮らし向き」で比較すると、「Twitter」は「下」の25.0%が最多で、次いで「中の下」の24.9%が高かった。



クロス集計（暮らし向き）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q19.「その他」回答抜粋

- 国や自治体に対して意見を伝える方法に関する「その他」の回答（自由記述）としては、学校を通して伝える仕組みがあると良いという意見が学生を中心に数多く寄せられた。また、小～高校生では議員に直接伝えたいという意見も一部あった。オンライン会議/webアンケートについては、幅広い年代で活用に肯定的な意見があった一方で、予め用意された選択肢以外の考えが蔑ろにされるおそれがあると指摘する意見もあった。

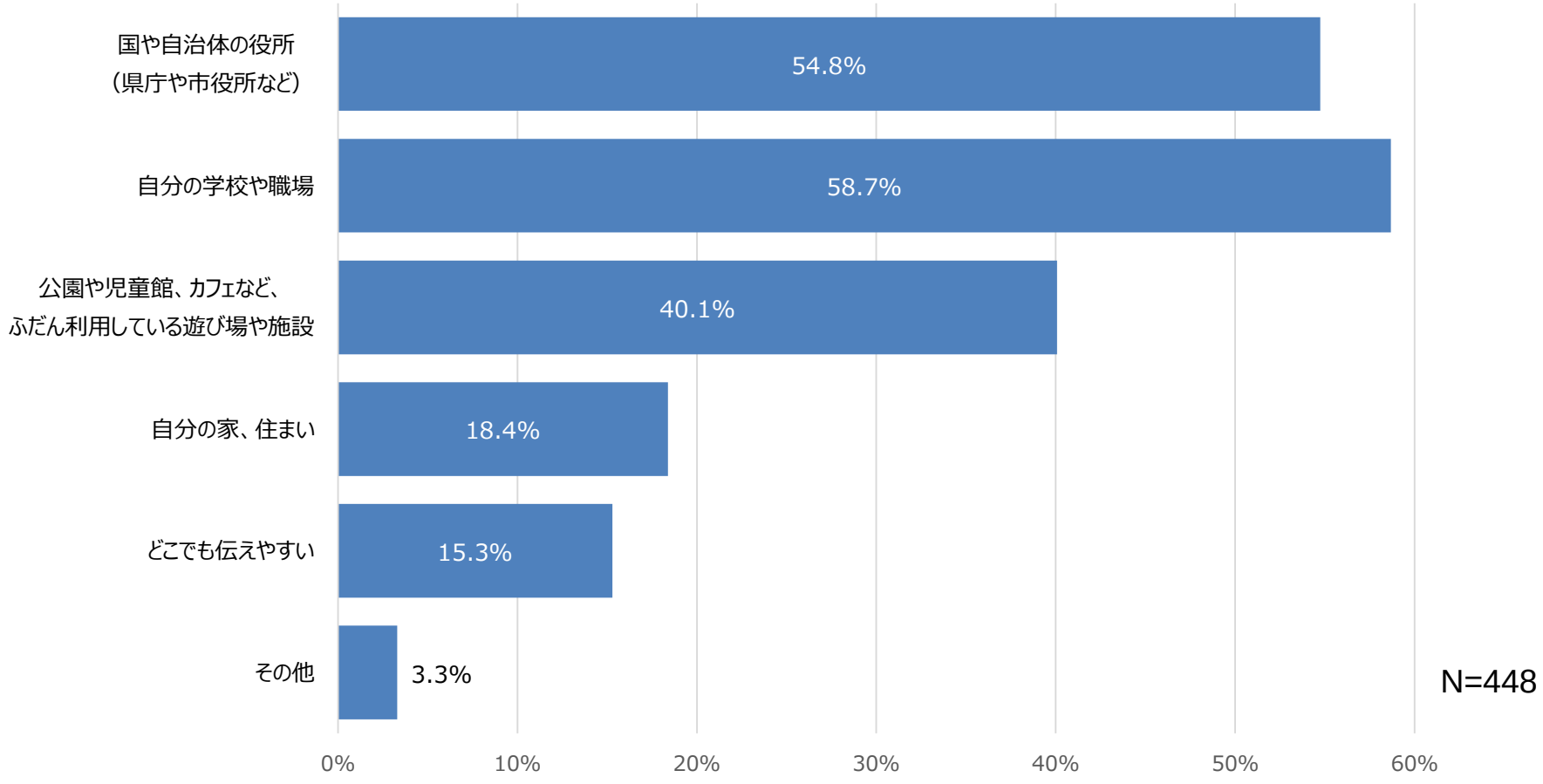
その他の回答

カテゴリ	こども・若者の意見
学校を通して	● たくさん意見を言える環境があると良いです。例えば学校に意見箱を置いたりすると、みんなが意見を出せてよいと思います。（アンケート/小学生） ● 学校を通じて全員にアンケートとかを取ったほうが良いと思います（手間はかかると思いますが）。（アンケート/中学生） ● 実現は難しいかもしれないが、各学校にアンケートを配布し、より多くの子どもの意見を取り入れることができたら良いと思う。（アンケート/高校生）　など
議員に直接	● 直接議員さんにお会いして話す機会があるといいです。（アンケート/小学生） ● 身近な議員さんなどが、学校にきて私達と関わる機会があると、日常的に、声を届けられるとおもう。（アンケート/小学生） ● 議員さんなどに直接伝えたい。（アンケート/高校生）など
オンライン会議/webアンケート	● Webアンケートだととても回答がしやすくて良い。（アンケート/小学生） ● 申し込んだら誰でも伝える機会を得られるオンラインミーティング。（アンケート/高校生） ● TwitterやInstagramなどSNSのアンケート機能を使って答える。（アンケート/23～25歳） ● アンケートは、絶対にやるべきではない。なぜなら、大人の考えを反映しているから。その他の項目があっても、スルーされる。これもそうだと思うが、一応記入している。自分の意見を、広く、国、地方自治体、児童相談所に言えるようにすればいい。児童相談所の職員を倍以上の人数にして、虐待（子供から）、コロナ等、意見閲覧をし、抽出して、国、地方自治体に広める枠組みを早急に広めるべき。（アンケート/高校生）　など

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q20.【「対面」と回答した人に対して】どのような場所であれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。

- 「自分の学校や職場」が58.7%と最多で、次いで「国や自治体の役所」「公園や児童館、カフェなど、ふだん利用している遊び場や施設」が高かった。

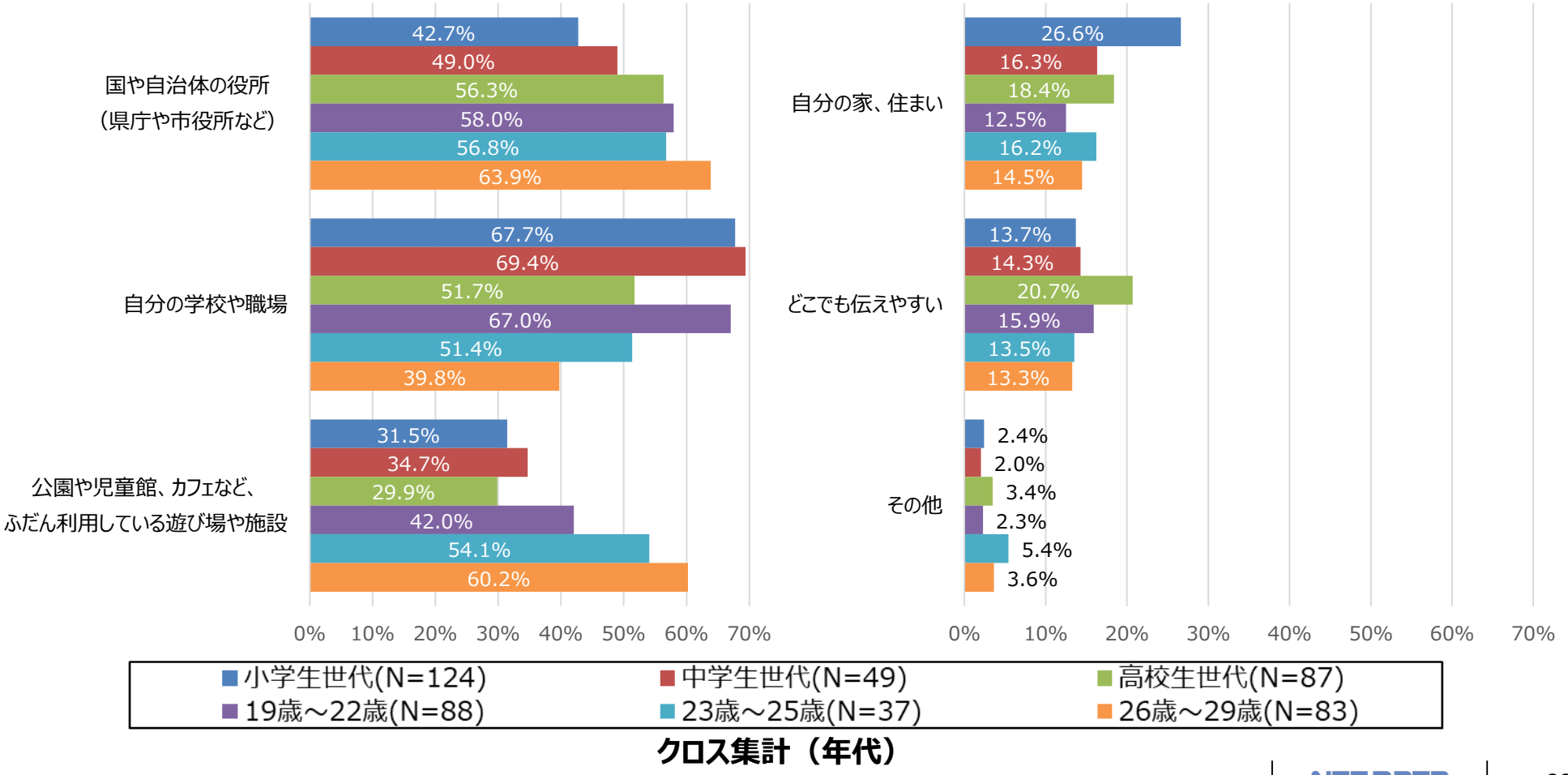


単純集計

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q20.【「対面」と回答した人に対して】どのような場所であれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。

- 「国や自治体の役所」「公園や児童館、カフェなど、ふだん利用している遊び場や施設」の割合は年代が高いほど大きい傾向にあった。
- 「自分の学校や職場」の割合は中学生世代が69.7%と最多で、次いで小学生世代、19歳~22歳が多い。
- 「自分の家、住まい」は小学生世代が26.6%と最多で19歳～22歳が12.5%と最少であった。



クロス集計（年代）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q20.「その他」回答抜粋

- 対面の際に国や自治体に対して意見を伝えやすい場所に関して、具体的な場所を挙げた「その他」回答は少なかったものの、総じて回答者にとって身近な場所が挙げられている印象を受けた。

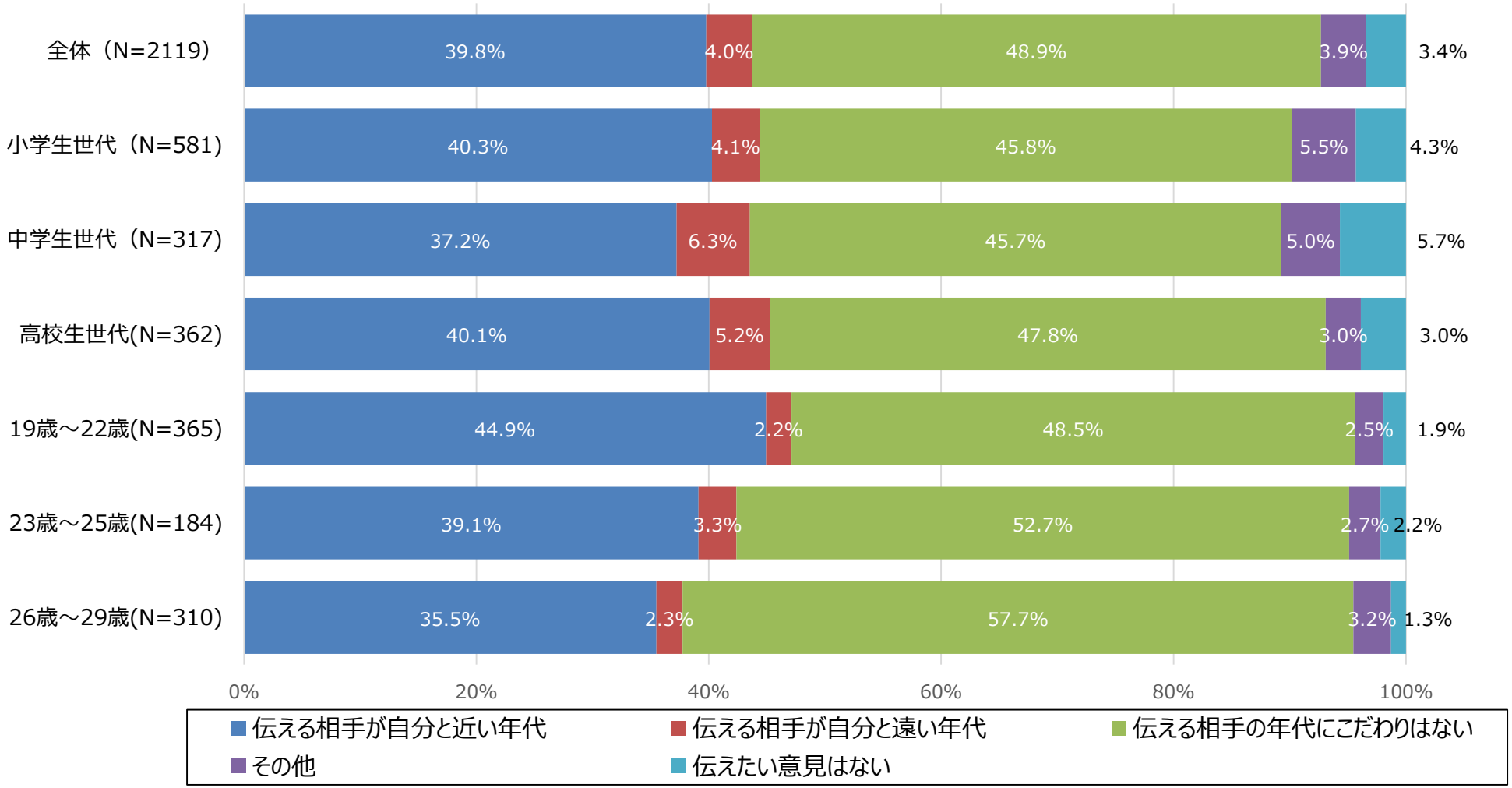
その他の回答

カテゴリ	こども・若者の意見
身近な場所	● 区民センター。（アンケート/小学生） ● 図書館。（アンケート/小学生） ● カウンセリングのクリニック。（アンケート/19～23歳） ● 改まった場所以外、気軽に意見を言える空間、場所。（26～29歳/アンケート）　など

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q21. どのような相手（年代）であれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。

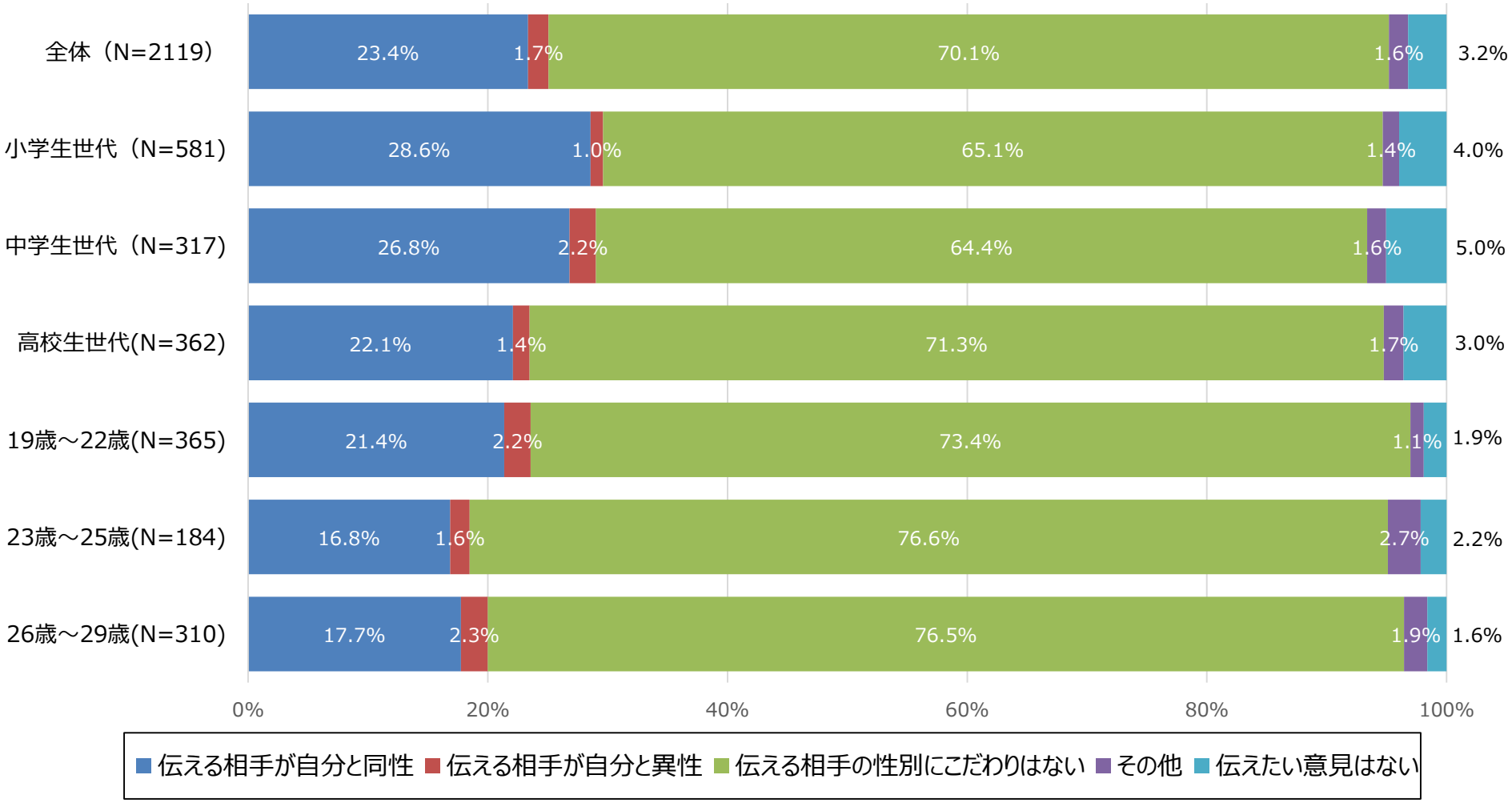
- 各年代で「伝える相手の年代にこだわりがない」が最多で、次いで「伝える相手が自分と近い年代」が多い。
- 「伝える相手が自分と遠い年代」の割合は中学生世代が最多で、次いで高校生世代、小学生世代が多い。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q22. どのような相手（性別）であれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。

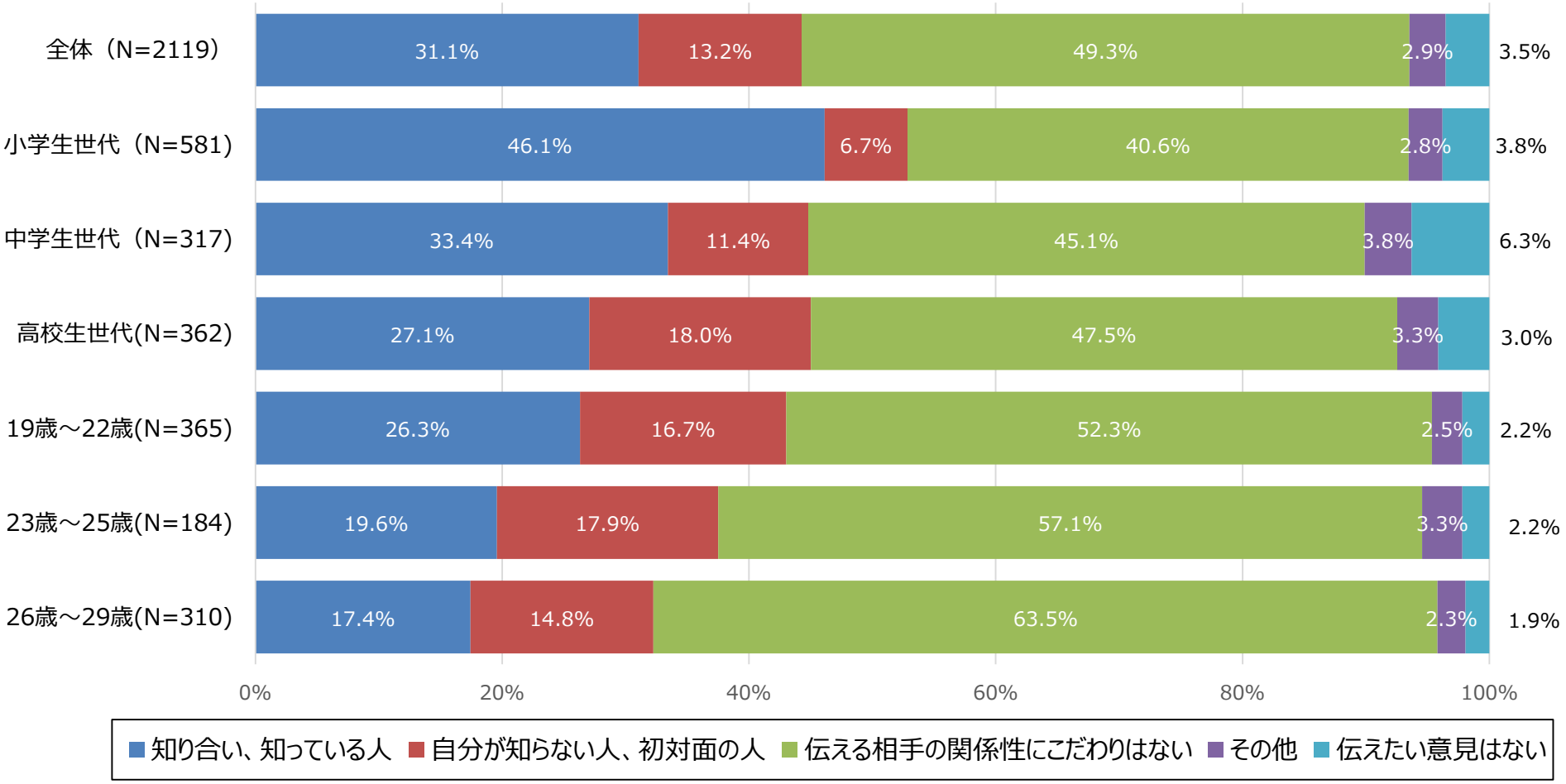
- 各年代で「伝える相手の性別にこだわりはない」が最多であった。
- 「伝える相手が自分と同性」の割合は年代が低いほど大きい傾向にあった。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q23. どのような相手（関係性）であれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいですか。当てはまるものを全て選んでください。

- 小学生世代では「知り合い、知っている人」が最多で、中学生世代以上では「伝える相手の関係性にこだわりはない」が最多であった。
- 「知り合い、知っている人」の割合は年代が低いほど大きくなっており、「伝える相手の関係性にこだわりはない」の割合は年代が高いほど大きい傾向にある。



© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q21～23.「その他」回答抜粋

- 対面の際に国や自治体に対して意見を伝えやすい聴き手の属性に関して、「その他」回答で挙げられた具体的な条件は人によって様々だったが、「聴き手の属性は関係ない、それよりもきちんと話を聴いてくれるか重要だ」という声が年代を問わず一定数存在し、数としても最も多かった。また、その中には聴き手の属性だけでなく、その後の政策決定プロセスにおける属性の偏りについて指摘する声もあった。

その他の回答

カテゴリ	こども・若者の意見
聴き手の属性は関係ない	● きちんと話を聴いてくれる人。話を聴いてくれる人なら誰でもいいです。（アンケート/小学生） ● 年代とかじゃなくて、偉そうじゃない人、子供の意見を決めつけたりバカにしない人。学校の成績とか内申に関係がないと保証されてる人。（アンケート/中学生） ● 年代にこだわりはないが、自分や国の主張などはいったん抑えて、こちらの意見を真剣に聴き、認めてくれる人がいい。（アンケート/19～22歳） ● 年代関係なく、対等に最後まで話を聴き、良い方向にむけて一緒に議論できる人。（アンケート/26～29歳） ● はっきり言って性別を議論に持ち込むべきではないかと。（アンケート/高校生） ● 伝える相手の性別にこだわりはないが、安全確保が大前提。（26～29歳/アンケート） ● 伝え方ではなくて、意見を反映させてくれるかというところが重要。意見を聴く人が同年代で同性だったとしても、その後決める人が政治家に多いおじいさんで、おじいさんの価値観で判断されるなら伝えても意味がない。（23～25歳/アンケート）　など

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q21～23.「その他」回答抜粋

- 対面の際に国や自治体に対して意見を伝えやすい聴き手の属性に関する「その他」回答は、学生を中心に身近な人を求める声が一定数存在した。また、数は少なかったものの「機械」、「AI」といった回答もあった。

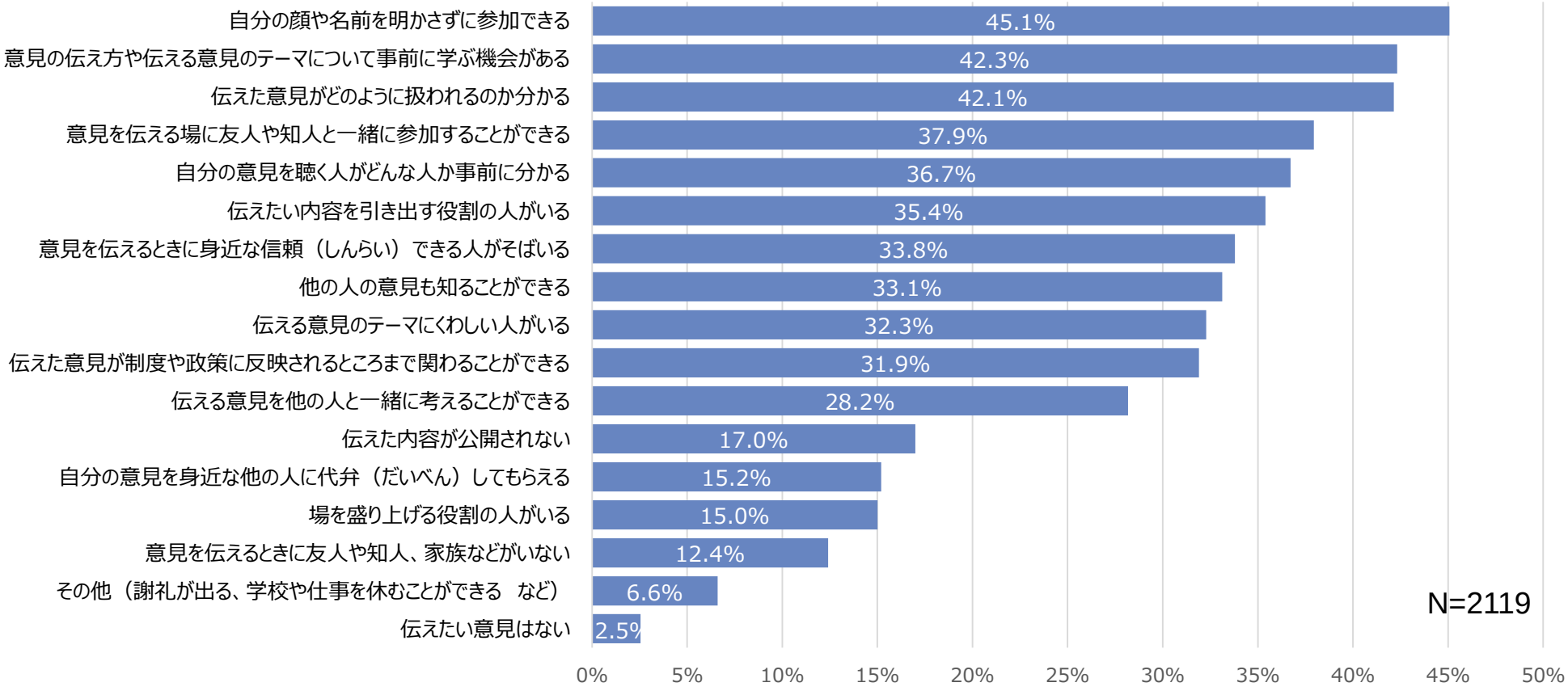
その他の回答

カテゴリ	こども・若者の意見
身近な人	● 学校の先生、お父さん、お母さん。（アンケート/小学生） ● できれば知人など。（小学生/アンケート） ● おかあさん、塾長。（アンケート/小学生） ● 恋人。（アンケート/中学生） ● 知っている人で信頼できる人。（アンケート/高校生） ● 受診してる心療内科医。（アンケート/26～29歳）　など
機械・AI	● AI。（アンケート/中学生） ● 初対面の機械。（アンケート/高校生）　など

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q24. どのような工夫やルールがあれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいと思いますか。当てはまるものを全て選んでください。

- 「自分の顔や名前を明かさずに参加できる」が45.1%と最多で、次いで「意見の伝えた方や伝える意見のテーマについて事前に学ぶ機会がある」「伝えた意見がどのように扱われるのか分かる」が多い。

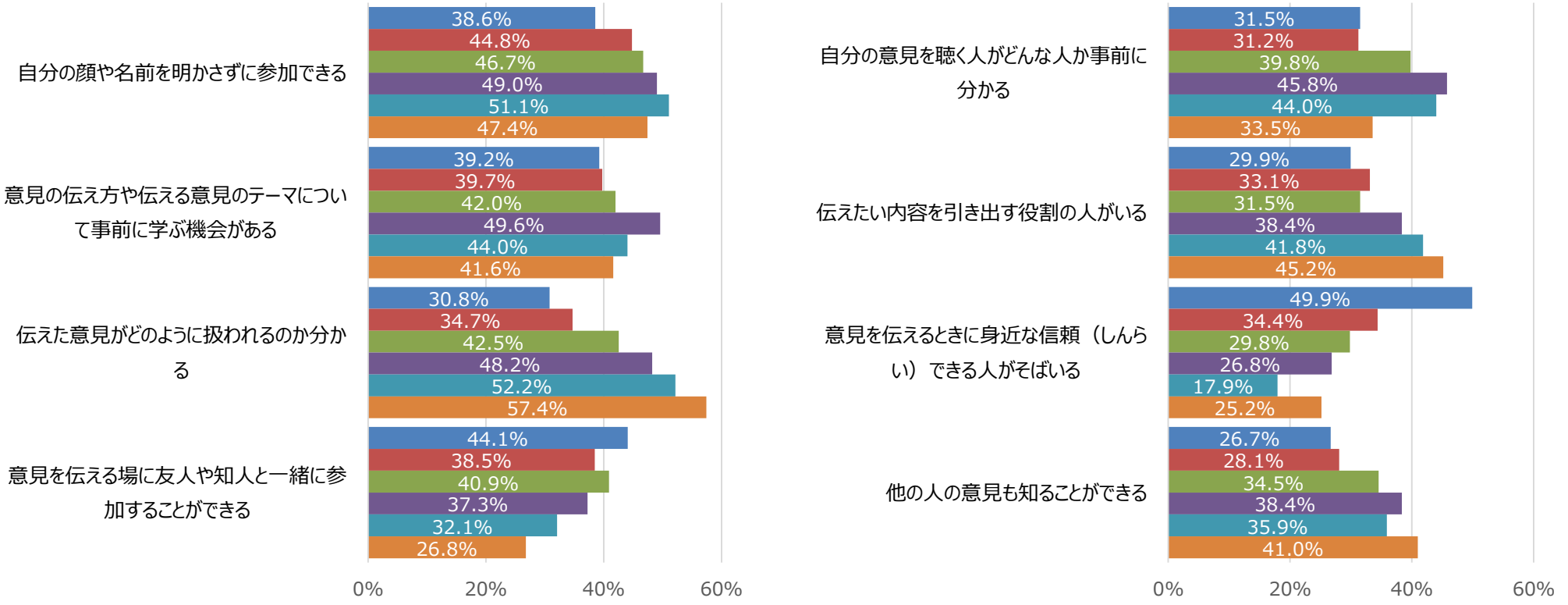


単純集計

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q24. どのような工夫やルールがあれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいと思いますか。当てはまるものを全て選んでください。

- 年代による差が最も大きかったのは「意見を伝えるときに身近な信頼できる人がそばいる」であり、小学生世代が23歳～25歳よりも32.0%高い。
- 「自分の顔や名前を明かさずに参加できる」「伝えた意見がどのように扱われるのか分かる」「伝えたい内容を引き出す役割の人がいる」「他人の意見を知ることができる」の割合は年代が高いほど大きい傾向にある。
- 「意見を伝える場に友人や知人と一緒に参加することができる」の割合は年代が低いほど大きい傾向にある。

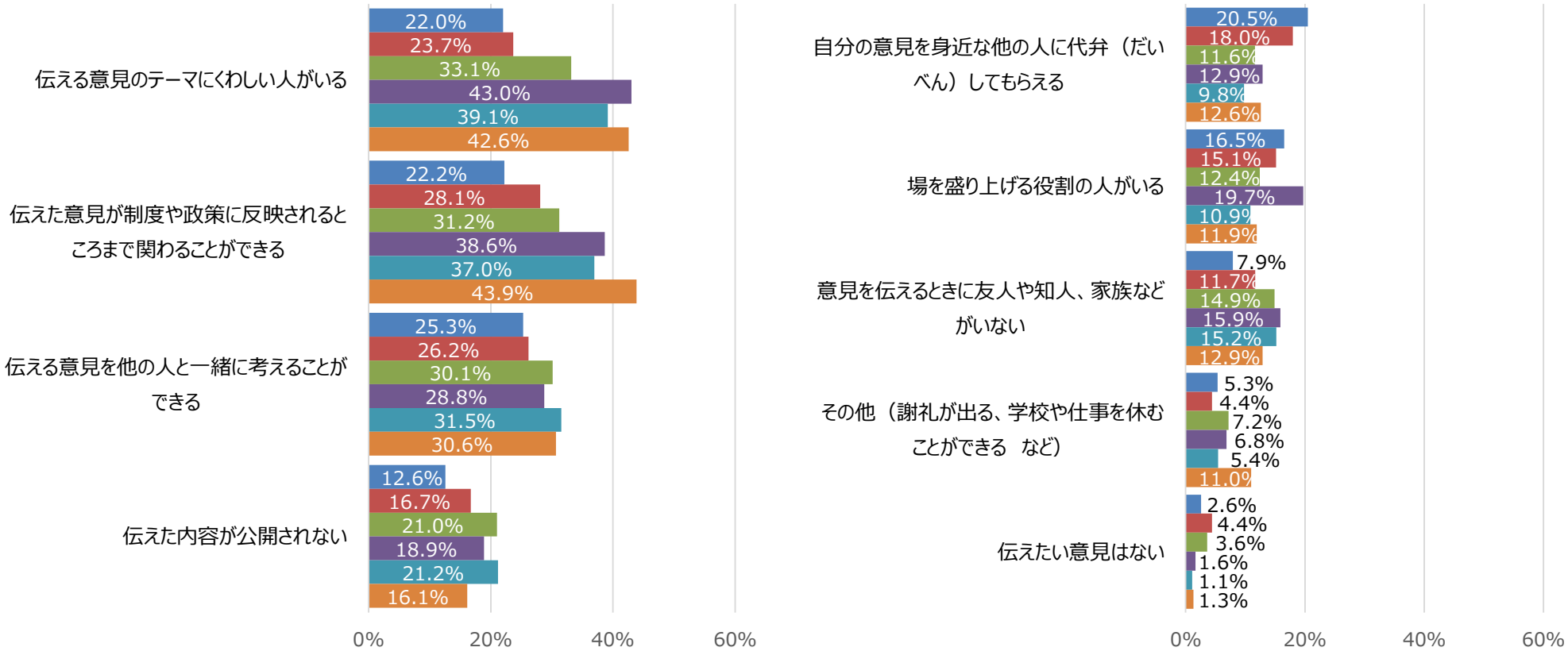


クロス集計（年代）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q24. どのような工夫やルールがあれば、あなたは国や自治体に対して意見を伝えやすいと思いますか。当てはまるものを全て選んでください。

- 「伝える意見のテーマにくわしい人がいる」「伝えた意見が制度や政策に反映されるところまで関わることができる」「伝える意見を他の人と一緒に考えることができる」の割合は年代が高いほど大きい傾向がある。
- 「自分の意見を身近な人に代弁してもらえる」の割合は年代が低いほど大きい傾向がある。



クロス集計（年代）

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q24.「その他」回答抜粋

- 国や自治体に対して意見を伝えやすいための工夫に関する「その他」の回答としては、参加しやすい時間にすることや、学校や職場での公休制度が存在することを挙げる声が比較的多かった。また、謝礼を求める声も一定数存在した。

その他の回答

カテゴリ	こども・若者の意見
参加しやすい時間/公休制度	● 学校が欠席扱いになるならいい。（アンケート/中学生） ● 学校が公欠になったら嬉しい。（アンケート/高校生） ● 以前、区長に意見文を出した際、担当職員とのやり取りが平日5時までで不便だった。平日は6時頃まで、学校にいるのでやり取りしずらい。時間を考えてほしい。（アンケート/高校生） ● 学校や仕事が休めるのは参加しやすい。（アンケート/19～22歳） ● 仕事の休みに合わせていただけると大変ありがたいです。有給申請するのも大変なので。（アンケート/26～29歳） など
謝礼	● お金がもらえる。（アンケート/小学生） ● 謝礼が出る。（アンケート/小学生） ● 謝礼が出たり、暮らしに余裕が生まれるなら。（アンケート/26～29歳） など

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q25. その他、このアンケートに関する意見や感想があれば教えてください。（1/6）

➢ その他、このアンケートに関する意見や感想としては、「もっとアンケート自体の広報・周知に力を入れるべき」といった声が多く寄せられている。

カテゴリ	こども・若者の意見
広報・周知・アクセシビリティ	● このアンケート自体をもっと宣伝し、多数の人の意見を聴くべきだと思います。（学校で授業として回答するなど）（アンケート/中学生） ● このアンケートの存在をもっと多くの若年層に知ってもらえるようにした方がいいと思う。意見や普段思っていることがある人は多いと思う。（アンケート/高校生） ● この回答フォームのアドレスが、子どもや若者にとってアクセスしやすいところにあるのか疑問です。今回は会社内の人から聞いてアクセスしましたが…。（アンケート/23～25歳） ● このアンケートは、もっと広告を出すべきかと思います。私は知人から伺いましたが、周りには知らない方が多いようです。テレビやSNSの広告で出てきたら少しでも多くの人の目に留まるのではないかと思いました。（アンケート/26～29歳） ● 若者や学生が自発的に内閣官房のサイトやSNSアカウント等にアクセスすることは少ないため、いわゆる意識の高い意見が集まってしまうのではと感じた。平等な意見を集めるために調査の広報に工夫が必要ではないか。（アンケート/26～29歳）　など

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q25. その他、このアンケートに関する意見や感想があれば教えてください。（2/6）

- 文字数制限の緩和をはじめとした自由意見欄の拡充に関する要望や、本アンケートを意見表明の機会にしたかったという意見も一定数あった。実際、本アンケートの趣旨からは外れるものの、具体的な政策や身の回りのことに関する要望についても相当数の記載があった。

カテゴリ	こども・若者の意見
自由意見欄の拡充	● 自分の意見を伝えられる１０００文字以上のアンケートが欲しいです。（アンケート/中学生） ● 意見を書いたが、文字制限があることを書いてから知った。あらかじめ記載してほしかったし、１００字の文字制限では少ないのではないか。そういうところが、「言っても変わらない」と思われるところなのではないか。（アンケート/26～29歳） ● ここに480字打ち込んだら送信できなくなりました、字数制限があるとは書かれていません、NGワードが設定されてるのでしょうか？ 伝えたい事も伝える事ができないのならこのアンケートは無意味でしょう。（アンケート/26～29歳）など
直接意見を表明する機会としての活用	● 改善して欲しいことなどのアンケートだと思って参加したので、これだけ？が正直な感想。（アンケート/19～22歳） ● もう少し自由に意見ができる欄があるとよかったと思います。（アンケート/26～29歳）　など

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q25. その他、このアンケートに関する意見や感想があれば教えてください。（3/6）

- このアンケートに関する批判的な意見や感想としては、「アンケートの表現が分かりにくい・答えにくい」「こどもに分かりにくいのではないか」という意見が多く寄せられている。この点に関して以下の資料では幅広い年代から例示しているものの、小中学生の年齢帯で「分かりにくい」という声が多数派になっているわけではなく、大人や若者の視点とこどもの視点の食い違いも見受けられる。（回答途中で離脱している可能性については留意が必要）また、保護者の同意がハードルになっているのではないかという指摘もあった。

カテゴリ	こども・若者の意見
分かりにくい・答えにくい	● ふりがながついてなくて、読めない漢字があった。ふりがなが付いていたら、答えやすかった。（アンケート/小学生） ● 子供にも分かりやすい言葉でアンケートを作って欲しいです。 分かりづらいと親に聞いたりする事で、プライバシーが守られず本当の気持ちを伝えることが出来ないと感じます。 子供に分かる言葉を使って欲しいです。（アンケート/中学生） ● 長い。まわりくどい。手軽に答えられる雰囲気ではない。子どものことを考えて答えやすい工夫をしているとは思えない内容。（アンケート/中学生） ● こんな堅苦しい質問形式でどれだけ子供達が参加してくれるのだろか？ 高校生以上ならわかるが、それ以外の子供達は保護者が手伝っても本人が考え回答出来るのだろか？政府は日本の将来の事を真剣に考えていますか？（アンケート/19～22歳） など
保護者の同意がハードル	● 保護者が同意しないといけないアンケートだと親がこういうことに興味ない人が答えられなくて意味ないと思います。そういう人のが悩みがあるんじゃないかと思います（偏見だったらすみません）学校で回答できれば…（中学生/アンケート） ● 保護者の許可が無ければアンケートに答えられないのは、保護者の許可を得られない16歳未満を排斥するものなので改めていただきたいです。（26～29歳/アンケート） など

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q25. その他、このアンケートに関する意見や感想があれば教えてください。（4/6）

➢ 一方で肯定的な意見や感想も多数寄せられており、特に「このアンケート結果を意見反映プロセスの改善につなげてほしい」「新しい取組につながるかもしれない」と期待感を示す回答がみられた。

カテゴリ	こども・若者の意見
結果の活用/未来への期待	● これからもこのようなアンケートを続けて、様々な年代の人からの意見を取り入れて欲しいと感じました。（アンケート/小学生） ● 未来に絶望しかない。あきらめていた。希望がもてるかもしれないと思った！（アンケート/小学生） ● 私達、子供が国や自治体に意見を言うことはすごく難しいと思う。難しいことがわかっているからこそ、国や自治体について興味が湧かない。それを、改善するためにこのアンケートが使われて欲しい。（アンケート/高校生） ● 新たな取り組みに向けてのアンケートとして選択肢も多く、答えやすい内容であった。今後に向け、期待が膨らんだ。（アンケート/高校生） ● こども家庭庁の存在を知らなかったため、初めてだったが、とても素敵な取り組みだと思った。（アンケート/19～22歳） ● アンケートの内容から、特に若年層の国民の意見を取り入れようとする姿勢が感じられました。ぜひ実現していただきたいと思いました。よろしくお願いします。（26～29歳/アンケート）　など

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q25. その他、このアンケートに関する意見や感想があれば教えてください。（5/6）

- 同時に、アンケート結果がどのように用いられるのか、政策反映までの過程を知りたいという要望も一定数あった。

カテゴリ	こども・若者の意見
集計結果の公表/政策検討過程の透明化	● 子ども世代の意見を聴いて取り入れるところまでを見せてほしいです。（アンケート/小学生） ● このアンケートの結果や反映のされ方などを後で教えてください。（アンケート/中学生） ● アンケートを集計した結果が広く発信されるようにしてほしい。（アンケート/19～22歳） ● アンケートをした以上、声を反映できなくても、端的に明確な回答を示してください。（アンケート/23～25歳） ● アンケート結果の公開とどのように反映するかを決める場にこども・若者がいること。また、その決める場を公開すること。（アンケート/26～29歳） ● 意見の取り扱い(意見の公開、政策への反映可否等)や政策反映までの過程のわかりやすい可視化を希望。国や自治体はそのテーマについてどのように考え、政策としてどう取り組む姿勢であるのかを知る機会を得たい。（アンケート/26～29歳）　など

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Q25. その他、このアンケートに関する意見や感想があれば教えてください。（6/6）

- その他にも、「少数派意見への配慮」「制度や政策についての予備知識の教育」「国会議員への子どもの権利条約の周知啓発」「オランダの制度の参考」を求める声など、様々な意見・感想が寄せられた。

カテゴリ	こども・若者の意見
その他	● このアンケートがあって嬉しかったです。それと少数派意見への配慮もして貰えると意見に賛成して貰えなくてもホッとします。（アンケート/小学生） ● 制度や政策と言われてもピンとこないので、まずは自分に関係のある制度や政策にどんなものがあるのかを知りたい。学校でそういう紹介があったり、クラスのみんなで話し合う授業があったらいいなと思います。（アンケート/小学生） ● こども権利条約を知ってる議員はどれぐらいいるのでしょうか 若者が意見したところで、国会で議論されても多数決で握りつぶされ、世の中に反映されるとは思えない意見するだけ時間の無駄だと思って声をあげなくなる。（アンケート/高校生） ● オランダに住んでいたことがあります。子供を子供だからではなく1人の人間として尊重してくれる社会でした。国の方も社会人留学とかしてオランダのシステム、文化を取り入れてほしいと思ったほどです。（26～29歳/アンケート）など

© 2022 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.